

# 令和元年度 業務実績等報告書 別冊

小項目別の業務実績及び自己評価

# 目 次

## 第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

### 1 医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供

(1) 地域医療の提供	1
(2) 地域包括ケアシステムにおける在宅医療の推進	15
(3) 高度・専門医療の提供	22
(4) 災害医療などの提供	45
(5) 医療におけるICT（情報通信技術）化の推進	52

### 2 地域における連携とネットワークの構築による医療機能の向上

(1) 地域の医療、保健、福祉関係機関などとの連携	55
(2) 5病院のネットワークを活用した診療協力体制の充実強化	72

### 3 人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献

(1) 医療従事者の確保と育成	75
(2) 県内医療に貢献する医師の育成と定着の支援	98
(3) 信州木曽看護専門学校の運営	102
(4) 県内医療水準の向上への貢献	107
(5) 医療に関する研究及び調査の推進	113

### 4 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

(1) より安全で信頼できる医療の提供	119
(2) 患者サービスの一層の向上	134

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 1 法人の力を最大限発揮する組織運営体制づくり

(1) 柔軟な組織・人事運営	144
(2) 仕事と子育ての両立など多様な働き方の支援	148

2	経営力の強化	
(1)	病院経営に一体的に取り組むための職員意識の向上	154
(2)	経営部門の強化	157
3	経営改善の取組	
(1)	年度計画と進捗管理	159
(2)	収益の確保と費用の抑制	162
(3)	情報発信と外部意見の反映	177
(4)	病床利用率の向上	185
第3	財務内容の改善に関する事項	
1	経常黒字の維持	189
2	資金収支の均衡	192

◎ 評定区分

評定区分	判断の目安となる業務実績
S	年度計画を大幅に上回って達成している（定量的目標においては年度計画値の120%以上）
A	年度計画を達成している（定量的目標においては年度計画値の100%以上120%未満）
B	年度計画を下回っており、改善を要する（定量的目標においては年度計画値の80%以上100%未満）
C	年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する（定量的目標においては年度計画値の80%未満）

## 第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

### 1 医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供

#### (1) 地域医療の提供

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州医療センター、阿南病院及び木曽病院では、地域の医療需要に応じた初期・二次医療サービスを提供するとともに、地域の救急病院として救急患者の受入れを行った。また、地域において各病院が担うべき在宅医療（訪問診療等）や各種検診業務についても積極的に実施した。

信州医療センターは、在宅医療において24時間365日緊急連絡対応体制をとり、患者の状況に応じた必要時の緊急訪問を積極的に行った。また、産科医療に関しては、須坂市と連携した妊産婦をサポートして産後うつを予防する「須坂モデル」の取り組みなど、地域で安心して子育てができる環境づくりのための産後ケア事業を実施した。

阿南病院では、外来診療体制の充実に努めるとともに、常勤外科医の配置に伴いがん検診等を積極的に行った。認知症なんでも相談室では、認知症を地域で支える体制づくりに向け「認知症カフェ」等の運営や、認知機能障害の疑いのある方へコンサルテーションを行い、専門医師による診療へ繋げた。

木曽病院では、急性期医療を担う木曽郡内唯一の病院として、救急告示医療機関、災害拠点病院、へき地医療拠点病院等の指定を受け、24時間365日体制で救急医療を提供した。また、在宅医療を積極的に展開し、地域の高齢化等の患者ニーズに対応するため、24時間365日訪問体制を維持し実施した。

阿南病院と木曽病院では、限られた人員の中で、医師・看護師・薬剤師等によるへき地巡回診療を定期的実施し、無医地区への切れ目ない医療の提供に貢献した。

介護老人保健施設では、阿南老健においては、圏域のみならず飯田市以北の潜在的利用者を掘り起こし新規の入所利用者を増加させることができた。また、通所リハビリテーションの送迎用車両を購入し、看護師、介護員等がヘルパーとして同乗して送迎することにより利用者への安心で安全

なサービスを提供することができた。木曽老健においては、郡内の社会福祉協議会や介護施設への働きかけや広報などを行い、入所者確保に繋げた。入所者を対象としたリハビリテーションを積極的に展開し、個別のニーズに適切に対応した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績						
		病院	評定	取組結果及び取組の効果				
第1 1(1) 1	ア 地域医療の提供（信州医療センター、阿南病院、木曽病院） 地域の医療需要に応じた初期医療及び二次医療サービスの提供を行う。	信州	A	・時間外救急患者8,456人（平成30年度 8,822人）、救急車来院患者 1,796人（平成30年度 1,836人）を受け入れた。※救急医療以外については、4を参照のこと。				
2	地域において県立病院が担うべき在宅医療（訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導）及び各種検診業務を行う。	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間365日緊急連絡対応体制をとり、患者・家族の相談に応じ、必要時、緊急訪問を積極的に行った。</li> <li>・訪問リハビリスタッフ増員（常勤2名）となり、件数が増加した。</li> <li>・訪問診療： 259件（平成30年度：283件）</li> <li>・訪問看護： 4,240件（平成30年度：4,359件）、緊急対応：199件（平成30年度：196件）</li> <li>・訪問リハビリ： 4,330件（平成30年度：2,946件）</li> </ul> （課題） <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域から必要とされている在宅医療の維持継続</li> <li>・家族の受け入れ態勢が整わない、医療措置を伴う等の理由により、在宅診療に移行できない重篤な患者が増えているため、支援が必要である。</li> <li>・在宅看取りは減少したが一時退院し在宅でターミナル期を過ごす患者が増加している。</li> </ul>				
3	(ア) 信州医療センター 患者目標（延べ人数） 入院 90,261人（結核を含む）	信州	B	項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差	対前年度比
				入院	88,942人	90,876人	△1,934人	97.9%
				外来	120,749人	120,801人	△52人	100.0%

	外来 123,535 人																											
4	<p><b>【令和元年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産科医療の充実について、積極的な広報活動を実施し、分娩数を増加</li> <li>「在宅医療安心ネット」の後方支援病院として、在宅や施設で療養するサブアキュート患者の受け入れ</li> <li>がんの早期発見・治療機能及び予防医療の充実、在宅復帰支援機能の強化を推進</li> <li>内視鏡センターでは、上部、下部消化管及び肝胆膵、気管支等の内視鏡検査と治療を積極的に実施</li> <li>須高地区の市町村等と連携した対策型胃内視鏡検診の実施</li> <li>健康管理センターでは、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）予防のためのロコモチェック、運動指導を実施</li> <li>人間ドックの大腸内視鏡オプション検査の利用促進</li> <li>外来化学療法室では、入院から在宅に至る充実した治療体制を活かし、外部からの紹介患者数を増加</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度、冬季の患者増加に対する受入体制の整備のため3床増床した南7階病棟について、トイレ段差解消等の改修及び在宅復帰訓練用家庭用浴室設置による患者の在宅支援等のための環境整備を行った。</li> <li>平成30年度から須高地区の市町村で導入されたがん検診事業（対策型胃内視鏡検診）において、上部内視鏡検診の受託件数の増加を図ったが、検診のお知らせの方法の変更や台風19号による被害の影響もあり、受託件数は347件にとどまった。（平成30年度受託件数 517件）</li> <li>対策型胃内視鏡検診受託件数の減少や常勤医師不在による人間ドック内視鏡件数の減少等により、内視鏡検査実施件数は6,334件（平成30年度 7,013件）と前年度を下回った。</li> <li>感染症センターでは、感染症医療の拠点病院として感染症の専門医療を提供し、地域の感染症対策水準の向上を図った。</li> <li>10月から自費によるピロリ菌検査（抗体測定）を開始し、内視鏡検査件数の増加を図った。（令和元年度実績 抗体測定検査件数：56件、検査後の内視鏡検査件数：14件）</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ピロリ菌専門外来人数</td> <td>306 人</td> <td>269 人</td> <td>37 人</td> </tr> <tr> <td>海外渡航者外来人数</td> <td>144 人</td> <td>170 人</td> <td>△26 人</td> </tr> <tr> <td>貧血外来人数</td> <td>203 人</td> <td>319 人</td> <td>△116 人</td> </tr> <tr> <td>スキンケア外来人数</td> <td>129 件</td> <td>154 件</td> <td>△25 件</td> </tr> <tr> <td>嚥下機能評価外来</td> <td>33 件</td> <td>34 件</td> <td>△1 件</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>認定看護師によるスキンケア外来によりストーマの良好な維持管理に貢献した。</li> <li>従来から行っている抗酸菌PCR検査に加え、マラリア病原体遺伝子の検出（PCR法）、通常培養において同定困難な菌に対するDNA解析装置（メチライザシステム）を</li> </ul>	項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差	ピロリ菌専門外来人数	306 人	269 人	37 人	海外渡航者外来人数	144 人	170 人	△26 人	貧血外来人数	203 人	319 人	△116 人	スキンケア外来人数	129 件	154 件	△25 件	嚥下機能評価外来	33 件	34 件	△1 件
項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差																									
ピロリ菌専門外来人数	306 人	269 人	37 人																									
海外渡航者外来人数	144 人	170 人	△26 人																									
貧血外来人数	203 人	319 人	△116 人																									
スキンケア外来人数	129 件	154 件	△25 件																									
嚥下機能評価外来	33 件	34 件	△1 件																									

- ・感染症センターでは、感染症専門医療の提供を継続
- ・遺伝子検査室では、遺伝子解析装置を用いた遺伝子検査とその診断及び治療を推進
- ・ピロリ菌外来、海外渡航者外来等の専門外来の利用促進
- ・総合診療科及び腎臓内科の医師を確保し診療体制を充実
- ・呼吸器・感染症内科の午後外来を継続
- ・こども病院からPT派遣を受けながら小児発達評価を開始し、小児リハビリを充実
- ・入院患者に対し休日に提供している理学療法、作業療法及び言語聴覚療法を継続
- ・在宅において理学療法、作業療法及び、摂食・嚥下障害に対する言語聴覚療法を継続
- ・診療部長による積極的な診療所訪問、地域医療福祉連携室における広報活動の充実
- ・入退院支援室の運用の拡大
- ・訪問看護の365日提供を継続
- ・がん診療における医科歯科連携の推進
- ・産後ケア事業を継続、生後3カ月までの乳児を持つ母親に授乳や沐浴の指導等を行う  
「宿泊型」と「デイサービス型」の2種類の支援を提供

活用し、感染症指定機関としての検査体制を維持した。

- ・地域包括ケア病棟では、急性期病院との連携・強化のほか、慢性期対応病院や介護施設並びに訪問介護ステーションとの連携を強化し、入院から在宅に向けた地域包括ケアシステムの中核的役割を果たした。
- ・地域包括ケア病棟におけるリハビリテーションは、24,341単位実施し、施設基準である1日平均2単位以上のリハビリテーションを提供した。
- ・全身麻酔下で手術を受ける患者、脳血管疾患障害の患者及び化学療法を受けている患者等に対して、感染症の防止を含む医療の質向上及び患者や家族のQOLを維持・向上させ、入院療養が円滑に進むように多職種から構成される口腔ケアチームによる口腔ケアを提供した。
- ・歯科衛生士が行った口腔ケア延べ人数 3,155人
- ・患者及び患者家族が安心して入院できるよう「入退院支援室」を設置し、10月から運用を開始した。
- ・須崎市と連携し、妊産婦を多職種でサポートして産後うつを予防する取り組みが「須坂モデル」としてテレビや新聞等で多数取り上げられ注目度が向上した。
- ・出産後の育児や体の回復に不安を抱える母子に育児指導やデイケアを提供することで、地域で安心して子育てできる環境づくりのため、産後ケア事業を維持継続した。

産後ケア事業の実施状況

内容	令和元年度実績	平成30年度実績	前年との差
宿泊型	42人	44人	△2人
デイサービス型	2人	7人	△5人

- ・地域における妊産婦、母体、胎児及び新生児への心身両面の一貫した医療の提供を継続している。
- ・地域の高齢者のニーズに対応し、訪問リハビリテーションの充実を図り訪問リハビリ4,330件（平成30年度2,946件）実施。うち、作業療法士による訪問は120件実施。

区分	H29実績	R1目標	区分	令和元年度実績	平成30年度実績	前年との差
新外来患者数	24,943人	25,500人	新外来患者数	21,352人	24,623人	△3,271人
手術件数(手術室)	1,603件	1,600件	手術件数(手術室)	1,739件	1,613件	126件
内視鏡検査件数	6,439件	8,000件	内視鏡検査件数	6,334件	7,013件	△679件
分娩件数	123件	220件	分娩件数	230件	186件	44件

  

5	ア 地域医療の提供（信州医療センター、阿南病院、木曽病院） 地域の医療需要に応じた初期医療及び二次医療サービスの提供を行う。	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、急性期から回復期、慢性期に至るまで幅広く患者層を受入れ、救急、訪問、へき地診療、施設の後方支援等を担った。内科は常勤医4人体制を維持するとともに、常勤外科医を配置し、診療のほか、がん検診等も積極的に行い診療体制の充実が図られた。</li> <li>整形外科を常勤医2人体制とし、大腿骨骨折等の手術を行い、地域のニーズに応えた。</li> <li>地域の医療ニーズの高い泌尿器科外来について、愛知医科大学からの非常勤医師を増員し、月4回の診療を継続し地域のニーズに応えた。患者数は全体的な患者減少に伴い、若干減少となった。（令和元年度 716人 平成30年度 775人）</li> </ul>			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>地域医療総合支援センターを中心に、訪問診察、看護、リハビリ、服薬指導等を積極的に実施し、在宅医療の充実を図った。施設入所や死亡などにより訪問診療の実患者が減少し件数も減少傾向にあるが、病棟看護師、訪問看護師、リハビリスタッフ等が連携し、患者が微増する中で、訪問看護、リハビリに力を入れ、在宅での療養生活を継続できるよう支援を行った。</li> </ul>			
6	地域において県立病院が担うべき在宅医療（訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導）及び各種検診業務を行う。	阿南	A				
				項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差
				訪問リハビリ	879件	968件	△89件
				訪問診療	192件	197件	△5件
				訪問看護	1,006件	1,037件	△31件
				訪問薬剤指導	27件	91件	△64件
合計	2,104件	2,293件	△189件				

				(課 題) 人口減、在宅ニーズの低迷から訪問件数は大きな伸びは期待できないが、経営企画会議で毎月の動向を公表し、ポスター掲示など、地域連携室等が中心となって在宅医療が必要な患者へ医療を提供していく。															
7	(イ) 阿南病院 患者目標 (延べ人数) 入院 21,300 人 外来 49,254 人	阿南	B	<p>・入院は、病棟死亡が昨年を大きく上回ったことや、救急搬送が減少し、それに伴う入院も減ったことにより、対前年度、対計画とも減少した。</p> <p>・外来は、常勤外科医の配置により外科では対前年度、対計画を上回ることとなったがその分内科で減少し、また感染症の流行が見られなかったことにより対前年度を若干下回った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成 30 年度実績</th> <th>前年度との差</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td> <td>17,053 人</td> <td>19,272 人</td> <td>△2,219 人</td> <td>88.5%</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>46,882 人</td> <td>47,667 人</td> <td>△785 人</td> <td>98.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(課 題) ・地域医療構想、新公的病院改革ガイドラインのしきい値 (利用率70%) を見据えて抜本的な対策が必要となる。しかし圏域の人口減少や医師不足など厳しい環境の中で、さらなる地域との連携強化、公衆衛生活動の活性化、病床の再編などにより患者の確保を目指していく。</p>	項目	令和元年度実績	平成 30 年度実績	前年度との差	対前年度比	入院	17,053 人	19,272 人	△2,219 人	88.5%	外来	46,882 人	47,667 人	△785 人	98.4%
項目	令和元年度実績	平成 30 年度実績	前年度との差	対前年度比															
入院	17,053 人	19,272 人	△2,219 人	88.5%															
外来	46,882 人	47,667 人	△785 人	98.4%															
8	<p><b>【令和元年度に推進する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療のあり方や病棟の再編等について検討、下伊那南部地域の中核病院として地域医療体制を整備</li> <li>・常勤外科医の確保、内科常勤医の増員、整形外科常勤医 2 人体制による診療機能の維持</li> <li>・小児科日曜診療の継続実施など診療体制の充実</li> </ul>	阿南	B	<p>・小児科では日々の外来のほか、町村への乳幼児健診等への派遣を継続した。また元年度は感染症の流行も少なく患者の伸びが見られず減少となった。</p> <p>・常勤外科医の配置により、診療、がん検診を積極的に行い、診療体制の充実を図った。</p> <p>・整形外科では常勤医 2 人体制を維持したが、大腿骨骨折などの手術件数が伸びなかった。入院患者数は前年度を上回り、ほぼ計画どおりとなった。</p> <p>・眼科では、OCT (光干渉断層計) を用いて、加齢とともに多くなる網膜系の眼疾患の早期発見、治療にあたった。また、今年度から配置された視能訓練士により検査が実施された。</p>															

<ul style="list-style-type: none"> <li>・CT撮影装置による健診業務の実施と機器回転率の向上</li> <li>・阿南町から肺がん早期発見のための検診事業を受託</li> <li>・「地域医療総合支援センター」では、以下の3センターの機能を拡充</li> <li>①「健康管理センター」 内視鏡スタッフの確保による予約枠の拡大 乳幼児の1歳6カ月検診のワンストップサービスの実施</li> <li>②「へき地医療研修センター」 「へき地医療臨床プログラム」に基づき信州医療センター等と連携し新専門医制度における連携病院として総合診療専門医の養成</li> <li>③「認知症なんでも相談室」 市町村などとも連携しながら、公開講座などの啓発活動、地域住民に対する認知症サポーターなどの育成のための研修会等を継続実施 「院内デイサービス」「認知症カフェ」を継続</li> <li>・認知症対応については、以下の事項に積極的に取り組む。</li> <li>①「認知症なんでも相談室」の相談から治療につなげるため、引き続きコンサルタントや診療を行う他、地域の病院から専門医の派遣を受けて、認知症外来の開設の検討</li> </ul>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児科外来患者数</td> <td>4,570人</td> <td>5,319人</td> <td>△749人</td> </tr> <tr> <td>整形外科手術件数</td> <td>25件</td> <td>35件</td> <td>△10件</td> </tr> <tr> <td>整形外科入院患者数</td> <td>2,937人</td> <td>2,609人</td> <td>328人</td> </tr> <tr> <td>眼科3次元画像解析</td> <td>1,078件</td> <td>827件</td> <td>251人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新公的病院ガイドラインへの対応や地域医療構想の二次医療圏における当院の役割を考えながら、病棟再編について院内に病棟再編ワーキンググループを設置して検討を進め、地域包括ケア病床の運営を令和2年度から開始することとした。</li> <li>・健康管理センターにおける公衆衛生活動の充実</li> <li>①3歳児健診の受託（阿南町、天龍村、泰阜村） 年4回実施</li> <li>②3歳児眼科検診の受託（阿南町、天龍村、泰阜村）年2回実施 （視能訓練士（ORT）の派遣による）</li> <li>③先天性股関節脱臼検診を超音波診断によるエビデンスに基づいた実施による異常の早期発見</li> <li>④人間ドックで、予約枠を増やし、地元住民の積極的受入</li> <li>⑤阿南町からCTによる肺がん検診の新規受託（29件実施）</li> <li>・へき地医療研修センターでの総合医育成への取り組み 信州医療センターの総合診療医の受入の実施</li> <li>・「認知症なんでも相談室」での取り組み</li> <li>①専任スタッフと認知症認定看護師を配置し相談業務を積極的に行うとともに、ボランティアの協力を得ながら認知症を併発した入院患者を対象に院内デイサービスを実施した。（相談業務：院内65件、院外98件、在宅訪問 3件、院内デイサービス：稼働 216日、924人）</li> <li>②認知症カフェ「かふえなごみ」を毎月第2木曜日に継続開設し、認知症の方や家族の支援につなげた。（稼働 9日、104人）</li> </ul>	項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差	小児科外来患者数	4,570人	5,319人	△749人	整形外科手術件数	25件	35件	△10件	整形外科入院患者数	2,937人	2,609人	328人	眼科3次元画像解析	1,078件	827件	251人
		項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差																
		小児科外来患者数	4,570人	5,319人	△749人																
		整形外科手術件数	25件	35件	△10件																
		整形外科入院患者数	2,937人	2,609人	328人																
眼科3次元画像解析	1,078件	827件	251人																		

<p>②町村が設置する認知症初期集中支援チームと連携して早期対応の支援、診療圏町村の包括支援センター・居宅介護支援事業所等との情報交換を実施</p> <p>③認知症サポート医の院内での加算算定について検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予防リハビリや維持期リハビリを積極的に実施、認知症や高次脳機能障害患者に対する評価等の強化を図り、質の高い支援の実施</li> <li>・救急搬送については、ドクターヘリの円滑な運用に努め、救急患者の受入搬送体制を維持</li> </ul>	<p>③地域住民や関係団体へ啓蒙活動を積極的に実施した。(認知症研修会開催 4回、299人)</p> <p>④認知症看護認定看護師、各病棟、外来、アイライフ看護師・介護士を構成員とする「認知症ケア委員会」を設置し、困難事例への対応方法を検討し、認知症ケアの向上策を探った。(月1回)</p> <p>⑤高齢の患者が多い当院において職員が認知症を正しく理解し、高齢者に優しい病院・地域づくりの実践のため、新規・異動職員対象に院内認知症サポーター研修を継続実施し職員の認知症の理解と意識の向上を図った。(1回開催、受講者 16人)</p> <p>⑥認知症の治療については専門医の不在を内科医師が補っているが、地域住民が住みなれた場所で生活していける居場所づくりや相談から治療につなげ支援をしていくための認知症外来の開設に向け、非常勤医師を確保し、認知機能のある患者への診療を行った。(専門医師による診療47人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予防リハビリ、維持期リハビリの積極的な実施によりリハビリテーションの充実を図った。患者数は減少傾向にあるが、リハ対象患者の減少は緩やかで算定単位数の減少につながるほどではなかった。減算の要因としては①派遣事業の派遣回数増加に伴い入院患者対応が手薄になったこと②働き方改革が行われたことによる影響などが考えられる。</li> </ul> <p>元年度において摂食機能療法の実績が大きく落ち込んだ。これは診療報酬の基準に合わせて対象患者の選定基準をより厳しくしたことで対象患者が減少したためである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語聴覚士が阿南介護老人保健施設においてミールラウンドを実施し、昨年度とほぼ同様の収益を確保した。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="958 1133 2072 1385"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児脳リハ単位数</td> <td>0 単位</td> <td>0 単位</td> <td>0 単位</td> </tr> <tr> <td>小児脳リハ実患者数</td> <td>0 人</td> <td>0 人</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>脳血管リハ</td> <td>2,218 単位</td> <td>2,601 単位</td> <td>△383 単位</td> </tr> <tr> <td>廃用リハ</td> <td>11,883 単位</td> <td>11,782 単位</td> <td>101 単位</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差	小児脳リハ単位数	0 単位	0 単位	0 単位	小児脳リハ実患者数	0 人	0 人	0 人	脳血管リハ	2,218 単位	2,601 単位	△383 単位	廃用リハ	11,883 単位	11,782 単位	101 単位
項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差																		
小児脳リハ単位数	0 単位	0 単位	0 単位																		
小児脳リハ実患者数	0 人	0 人	0 人																		
脳血管リハ	2,218 単位	2,601 単位	△383 単位																		
廃用リハ	11,883 単位	11,782 単位	101 単位																		

				<table border="1"> <tr> <td>運動器リハ</td> <td>3,496 単位</td> <td>3,730 単位</td> <td>△234 単位</td> </tr> <tr> <td>呼吸器リハ</td> <td>80 単位</td> <td>333 単位</td> <td>△253 単位</td> </tr> <tr> <td>がんリハ</td> <td>51 単位</td> <td>0 単位</td> <td>51 単位</td> </tr> <tr> <td>摂食嚥下指導</td> <td>1,805 件</td> <td>5,034 件</td> <td>△3,229 件</td> </tr> <tr> <td>経口維持加算（老健）</td> <td>532 件</td> <td>517 件</td> <td>15 件</td> </tr> </table> <p>・電子カルテシステムは、稼働後6年半が経過し、ほぼ安定した運用管理が行われている。</p> <p>・遠隔操作が可能なモバイル端末を活用し、電子カルテシステムを訪問診療、へき地巡回診療及び地域の医療機関との連携強化に役立っているとともに、嘱託医として派遣している全施設で使用している。</p> <p>・信州大学医学部附属病院からの救急医については引き続き通年で協力が得られた。</p> <p>・以上の項目において実績数値においては、前年度を下回るものもあるが、当院においては、職員が不足しているなかで職員一丸となって、種々の事業に取り組んでいる状況を鑑み、所期の目標を上回る成果が得られていると評価する。</p> <p>（課 題）</p> <p>・外科の常勤化を含め医師増員のめどがたったが、引き続き内科やドック部門での医師の補充に努め、安定的な診療体制の確保を図る必要がある。</p> <p>・人工透析については転院などにより減少傾向にあるが、診療圏内の患者状況や人口の動向、他院の状況を見ながら、患者の獲得を図りたい。</p>	運動器リハ	3,496 単位	3,730 単位	△234 単位	呼吸器リハ	80 単位	333 単位	△253 単位	がんリハ	51 単位	0 単位	51 単位	摂食嚥下指導	1,805 件	5,034 件	△3,229 件	経口維持加算（老健）	532 件	517 件	15 件
運動器リハ	3,496 単位	3,730 単位	△234 単位																					
呼吸器リハ	80 単位	333 単位	△253 単位																					
がんリハ	51 単位	0 単位	51 単位																					
摂食嚥下指導	1,805 件	5,034 件	△3,229 件																					
経口維持加算（老健）	532 件	517 件	15 件																					
9	ア 地域医療の提供（信州医療センター、阿南病院、木曽病院） 地域の医療需要に応じた初期医療及び二次医療サービスの提供を行う。	木 曽	B	<p>・急性期医療を担う木曽郡内唯一の病院として、救急告示医療機関、災害拠点病院、へき地医療拠点病院等の指定を受け、24時間365日体制で全診療科がオンコール体制を敷き、救急医療を提供した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>前年度との差</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者受入件 数(うち救急車</td> <td>4,818 件 (1,010 件)</td> <td>5,057 件 1,040 件)</td> <td>△239 件 (△30 件)</td> <td>95.3% (97.1%)</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和元年度 実績	平成 30 年度 実績	前年度との差	対前年度比	救急患者受入件 数(うち救急車	4,818 件 (1,010 件)	5,057 件 1,040 件)	△239 件 (△30 件)	95.3% (97.1%)										
項目	令和元年度 実績	平成 30 年度 実績	前年度との差	対前年度比																				
救急患者受入件 数(うち救急車	4,818 件 (1,010 件)	5,057 件 1,040 件)	△239 件 (△30 件)	95.3% (97.1%)																				

				搬送受入件数)					
				手術件数	764 件	821 件	△57 件	93.1%	
				(課 題)	常勤の医師及び看護師を継続して確保していくこと。				
10	地域において県立病院が担うべき在宅医療（訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ）及び各種検診業務を行う。	木曾	S	・地域の高齢化及び住宅でのターミナルケア等の患者ニーズに対応するため、24時間365日訪問体制の維持等、在宅医療を積極的に展開した。(訪問)					
				項目	令和元年度実績	平成 30 年度実績	前年度との差	対前年度比	
				訪問診療	712 件	549 件	+163 件	129.7%	
				訪問看護	3,957 件	3,708 件	+249 件	106.7%	
				訪問リハビリ	769 件	544 件	+225 件	141.4%	
				計	5,438 件	4,801 件	+637 件	113.3%	
11	(ウ) 木曾病院 患者目標 (延べ人数) 入院 49,037 人 外来 125,475 人	木曾	B	・地域の人口減少等により入院患者数は減少傾向である。4～12月は昨年比91%であったが、1～3月はインフルエンザ患者の減少及び新型コロナウイルス感染症の蔓延と医師異動等の影響により前年比83%まで減少した。外来患者数は12月まで前年よりわずかに増加していたが、1月以降同影響により減少した。					
				項目	令和元年度実績	平成 30 年度実績	前年度との差	対前年度比	
				入院	43,450 人	48,709 人	△5,259 人	89.2%	
				外来	125,512 人	127,418 人	△1,906 人	98.5%	
12	【令和元年度に推進する事項】 ・二次医療圏内唯一の病院として、24 時間 365 日オンコール体制で救急医療の提供	木曾	A	・二次医療圏内唯一の病院及び救急告示病院として、木曾広域連合と連携し、24時間365日オンコール体制で救急医療を提供するとともに、救急対応をテーマとした早朝勉強会を計11回実施し、関係職員の資質向上に努めた。 ・地域がん診療病院として、職員それぞれが専門性を高め、横の連携を図ることで診療体制の充実を図るとともに、がん相談支援センターでは広報誌の定期発刊、がん患者サロ					

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木曾広域消防本部と連携し、救急搬送の事後検証会や早朝勉強会を開催し、関係職員の資質を向上</li> <li>・介護医療院を開設、長期療養のための医療と日常生活上の介護を一体的に提供する体制を整える</li> <li>・地域がん診療病院として、がん患者の診療及び相談支援体制の充実</li> <li>・「地域巡回リハビリテーション」の継続</li> <li>・対応困難な脳外科手術、心臓手術などの緊急を要する治療を確保するため、隣接医療圏に所在する医療機関との連携を維持</li> <li>・国保加入者の特定健診の充実、木曾南部地域住民の健康診断の充実</li> </ul>		<p>ンの開催等で支援体制の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郡内町村の健康増進施策に呼应し、介護予防に関する講演や集団体操指導、認知症に関する講義等を行う「地域巡回リハビリテーション」を6町村で合計20回実施し、延べ248人の参加があった。</li> <li>・地域包括ケア病棟の基準を満たせるように対応し、年度末には全実施単位数の52%を投入した。</li> <li>・理学療法部門では休職に伴う人員減により、地域包括ケア病棟の対応として、平日と休日の出勤数を調整し、365日リハビリテーションを継続した。</li> <li>・作業療法部門では、人員の補充に伴い土曜日の出勤を再開した。</li> </ul> <p>疾患別リハビリテーション</p> <table border="1" data-bbox="958 659 2054 954"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>28,964件</td> <td>34,548件</td> <td>△5,584件</td> </tr> <tr> <td>単位数</td> <td>44,230単位</td> <td>53,496単位</td> <td>△9,266単位</td> </tr> <tr> <td>一件当たりの単位数</td> <td>1.52単位</td> <td>1.55単位</td> <td>△0.03単位</td> </tr> <tr> <td>早期加算算定件数</td> <td>11,850件</td> <td>11,920件</td> <td>△70件</td> </tr> <tr> <td>摂食機能療法件数</td> <td>4,646件</td> <td>4,330件</td> <td>△316件</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産師外来を開設し、妊婦健診や産後2週間チェックを行った。また、産後ケア事業の1つとして、院内デイサービスを行い、産後2ヶ月までの母子のケアを行う体制を整え、合計6件受け入れた。</li> <li>・地域母子健康連絡会議を偶数月に開催、各町村との連絡、情報交換を行った。</li> </ul>	区分	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差	件数	28,964件	34,548件	△5,584件	単位数	44,230単位	53,496単位	△9,266単位	一件当たりの単位数	1.52単位	1.55単位	△0.03単位	早期加算算定件数	11,850件	11,920件	△70件	摂食機能療法件数	4,646件	4,330件	△316件
区分	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差																								
件数	28,964件	34,548件	△5,584件																								
単位数	44,230単位	53,496単位	△9,266単位																								
一件当たりの単位数	1.52単位	1.55単位	△0.03単位																								
早期加算算定件数	11,850件	11,920件	△70件																								
摂食機能療法件数	4,646件	4,330件	△316件																								
13	<p>いへき地医療の提供（阿南病院、木曾病院）</p> <p>町村並びに地域の医療、保健及び福祉関係者との連携をより強化するとともに、巡回診</p>	阿南	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師・看護師・薬剤師のチームによるへき地巡回診療を、今年度も継続して阿南町和合2地区において隔週で実施し、切れ目のない地域医療の提供に努めたが、地区の人口減に伴う患者数の減により11月から1地区の巡回診療となった。</li> <li>・以前より地域の診療所への医師の派遣については欠員時に短期の対応をしているが、本年度はなかった。ただ、天龍村診療所の医師が退職したことになったため、2年4月以</li> </ul>																								

	療により無医地区の切れ目ない医療確保に努める。 また、へき地診療所等からの要請に基づいた医師の派遣などの支援を積極的に行う。			降の診療の支援の準備を行った。
14	(ア) 阿南病院 ・医師・看護師・薬剤師等のチームによる、無医地区への巡回診療 ・へき地巡回診療、訪問診療、福祉施設等での診療における、モバイル端末を活用しての電子カルテシステムへのアクセスや、携帯型のX線装置や超音波診断装置を活用しての画像診断などの実施	阿南	A	・医師・看護師・薬剤師のチームによるへき地巡回診療を、今年度も継続して阿南町和合2地区へ隔週で実施し、地域医療の提供に努めた。なお、患者の減により11月以降は1地区となった。 また、モバイル端末を活用した電子カルテによりへき地巡回診療を行っており、検査結果に基づく診断・治療に効果を上げている。 ・診断機能の向上と利便性を図るため、携帯型X線装置や超音波診断装置を活用し、在宅医療における検査体制を充実した。 (巡回診療・訪問診療などでの利用件数：X線撮影 8件、超音波診断 0件) ・携帯型超音波診断装置については、その他股脱健診61件、救急外来108件、泌尿器科外来61件、病棟70件の利用があった。
15	・福祉施設等へ医師及び理学療法士の派遣による診療の実施	阿南	A	・特別養護老人ホーム等8施設のうち、7施設の嘱託医として当院の医師5人を派遣した。 ・引き続き、診療圏の市町村及び福祉施設へリハビリ指導のため、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を派遣した。(天龍村 集団12回、泰阜村 集団38回・個別75回、売木村 集団11回、救護施設富草寮 集団12回)
16	イ へき地医療の提供(阿南病院、木曽病院) 町村並びに地域の医療、保健及び福祉関係者との連携をより強化するとともに、巡回診療により無医地区の切れ目ない医療確保に努める。	木曽	A	・病院地域連絡協議会を2ヶ月に1回開催し、施設の状況把握に努めた。また、学習会、報告会を開催した。 ・地域包括支援センター担当者会議に毎月出席し、介護の理解を深めるなど連携強化を図った。 ・病院・地域連携連絡会議(2ヶ月に1回)、病院・町村地域包括ケア推進会議(2町各1回、1町2回)、木曽広域連合 福祉・保健医療懇談会(年2回)、木曽医師会研修会等への参加を通じ、地域の関係機関との連携を図った。なお3月は新型コロナウイルス感

	また、へき地診療所等からの要請に基づいた医師の派遣などの支援を積極的に行う。			<p>染拡大防止のため中止となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤医師が体調を崩した木曾町みたけ診療所に医師を派遣した。(2～3月)</li> <li>・周辺介護施設3か所の嘱託医を受託し、当院医師を派遣した。</li> </ul>
17	<p>(イ) 木曾病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師・看護師・薬剤師等のチームによる、無医地区への定期的な巡回診療</li> </ul>	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上松町2地区(台、才見)への巡回診療を各地区月1回実施し、無医地区の医療確保に貢献した。</li> </ul>
18	<p>ウ 介護老人保健施設の運営</p> <p>高齢者の地域での生活を支えるために、地域包括ケアシステムにおける病院との機能分担と連携を図りながら充実したサービス等を提供する。</p> <p>(ア) 阿南介護老人保健施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員による介護支援専門員(ケアマネージャー)の資格取得を推進、認知症及び感染症、皮膚ケア等の研修への参加、阿南病院の認知症認定看護師の協力を得て、職員研修会を開催</li> <li>・地域における広報活動等により、利用者の拡大</li> <li>・介護福祉情報の共有を図り、サービスの質を向上</li> <li>・身体的疾患を抱えた入所者のケアや看取りのニーズへの対応</li> <li>・通所リハの送迎車両導入とともにサービス体制の向上による利用者の拡大</li> </ul>	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下伊那南部地域の老健施設の拠点として介護保険における入所、短期入所、通所リハビリテーションサービスを切れ目なく提供した。継続利用者の特養入所が急増し延べ患者数は減少したが、飯田市以北の新規利用者を市内の病院との連携で掘り起こし、潜在的なニーズに応えたことで新規入所者は増加した。 (新規入所者 令和元年度18人 平成30年度 7人)</li> <li>・感染症の研修会に参加し、研修内容を流行期に備え職員で共有し、実施した。また、阿南病院の認知症ケア委員会メンバーとして情報交換を行い、さらに自己のスキルアップのために施設外研修にも参加し、日々のケアに実践した。</li> <li>・通所リハビリテーションは、車椅子2台の搭乗ができる送迎用車両を購入し10月から運用を始め、看護師、介護員等がヘルパーとして同乗することで、利用者に寄り添う安心、安全なサービスを提供した。 (課題)</li> <li>・当施設を定期的に利用されていた方の特養の入所又は死亡が多く、また下伊那南部地域の人口減に伴い利用者の獲得が難しくなってきた。そのため、入所期間の延長を図りつつ、新規利用者に再度利用していただけるように関係施設と連携調整を図るとともに、さらに在宅復帰・在宅療養支援機能に対する評価の向上を図り、1人当たりの単位数の増加により、サービスの向上と収入増を目指す必要がある。</li> </ul>

19	<p>ウ 介護老人保健施設の運営</p> <p>高齢者の地域での生活を支えるために、地域包括ケアシステムにおける病院との機能分担と連携を図りながら充実したサービス等を提供する。</p> <p>(イ) 木曾介護老人保健施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短期集中リハビリ・個別リハビリを積極的に実施</li> <li>・職員の介護支援専門員（ケアマネージャー）の資格取得を推進、病院の認定看護師の協力を得て、職員研修を開催</li> <li>・高齢者虐待の防止や職業倫理に関する職員研修の実施、多職種間のコミュニケーションの向上</li> <li>・事業所訪問や木曾広域連合のCATV等を利用した広報活動</li> <li>・ボランティアの積極的な受け入れ</li> <li>・地域に貢献する活動への取組みの推進</li> <li>・入所、退所前の訪問指導の推進</li> </ul>	木曾	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入所利用者が治療が必要な場合には、木曾病院で入院治療を行い、治療後は利用者の調整等を行った上で優先的に受入れを行った。また、木曾郡外からの受入れも行った。</li> <li>・在宅復帰困難な入院患者について、月2回の入所判定委員会に諮り、老健施設としては医療行為の必要性が比較的高い患者の受け入れも行った。また、在宅復帰に向け、リハビリを行いADL（日常生活動作）の維持、向上に努めた。</li> <li>・入所者を対象とした個別リハビリテーションを積極的に展開した。短期集中リハ・短期入所個別リハは計3,143回（前年度比94.6%）と昨年度より減少したものの、個別のニーズには適切に対応することができた。</li> <li>・感染管理認定看護師、皮膚排泄ケア認定看護師による研修を受講し、施設内での感染防止、褥瘡対策を図るとともに、高齢者虐待防止研修会を開催し、安全管理及び職員の資質向上を図った。</li> <li>・シーツ交換や傾聴、敷地内の草取りなど地元ボランティア団体の積極的な受け入れや、毎月のイベントに楽器演奏等の地元団体を積極的に受け入れた。</li> <li>・地域貢献活動として「介護予防教室」を開催し、地域住民との良好な関係づくりに努めた。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="958 898 2056 1094"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>対前年増減比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>短期集中リハ</td> <td>2,432回</td> <td>2,540回</td> <td>95.7%</td> </tr> <tr> <td>短期入所個別リハ</td> <td>711回</td> <td>784回</td> <td>90.9%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,143回</td> <td>3,322回</td> <td>94.6%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和元年度実績	平成30年度実績	対前年増減比	短期集中リハ	2,432回	2,540回	95.7%	短期入所個別リハ	711回	784回	90.9%	計	3,143回	3,322回	94.6%
項目	令和元年度実績	平成30年度実績	対前年増減比																
短期集中リハ	2,432回	2,540回	95.7%																
短期入所個別リハ	711回	784回	90.9%																
計	3,143回	3,322回	94.6%																

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供

(2) 地域包括ケアシステムにおける在宅医療の推進

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州医療センターでは、地域包括ケア病棟は、急性期病院との連携のほか、慢性期対応病院や介護施設及び訪問看護ステーションとの連携を図り、地域包括ケアシステムの中核的役割を果たした。また、理学療法士を2名体制とした訪問リハビリは、退院後のスムーズな在宅支援に結びつき、実施件数も増加した。

こころの医療センター駒ヶ根では、多職種で診察を行う「もの忘れ外来」による診療や、駒ヶ根市が実施する認知症初期集中支援チーム事業への参画及び県が指定する「認知症疾患医療センター」の設置に向けた関係機関との調整等、認知症医療の充実を図った。

阿南病院では、地域医療総合支援センターにおいて、訪問診療・看護・リハビリ・服薬指導等を積極的に実施し在宅医療の充実を図った。

木曽病院では、患者サポートセンターを中心に、地域の医療・介護・福祉施設等との連携、退院調整、相談支援等の実施体制を充実させた。また、地域の高齢化及び住宅でのターミナルケア等の患者ニーズに対応するため、24時間365日訪問体制の維持等により、在宅医療を積極的に展開した。

こども病院は、医療的ケアが必要な在宅患者に対応するため訪問診療センターを開設し、小児の訪問診療を充実させた。また、「長野しろくまネットワーク」(在宅電子連絡帳等)の運用などを通し、小児在宅医療に係る全県的なネットワークの推進に努めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果

第1 1(2) 1	関係市町村・福祉施設・医師会などと連携しながら、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導などの在宅医療に積極的に取り組む。 (ア) 信州医療センター ・在宅復帰に必要な設備環境を整備するため、地域包括ケア病棟の改修を実施（在宅復帰訓練用家庭用浴室の設置、終末期医療に対応可能な個室の整備） ・訪問看護の365日提供の継続（再） ・在宅において理学療法、作業療法及び、摂食・嚥下障害に対する言語聴覚療法を継続（再） 在宅医療件数	信州	A	在宅医療件数（訪問診療・看護・リハビリ）																					
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問診療件数</td> <td>259件</td> <td>283件</td> <td>△24件</td> </tr> <tr> <td>訪問看護件数</td> <td>4,240件</td> <td>4,359件</td> <td>△119件</td> </tr> <tr> <td>うち 緊急</td> <td>(199件)</td> <td>(196件)</td> <td>(3件)</td> </tr> <tr> <td>訪問リハビリ件数</td> <td>4,330件</td> <td>2,946件</td> <td>1,384件</td> </tr> <tr> <td>嚥下機能評価外来</td> <td>33件</td> <td>34件</td> <td>△1件</td> </tr> </tbody> </table>	区分	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差	訪問診療件数	259件	283件	△24件	訪問看護件数	4,240件	4,359件	△119件	うち 緊急	(199件)	(196件)	(3件)	訪問リハビリ件数	4,330件	2,946件	1,384件	嚥下機能評価外来
区分	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差																						
訪問診療件数	259件	283件	△24件																						
訪問看護件数	4,240件	4,359件	△119件																						
うち 緊急	(199件)	(196件)	(3件)																						
訪問リハビリ件数	4,330件	2,946件	1,384件																						
嚥下機能評価外来	33件	34件	△1件																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H29実績</th> <th>R1目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問診療件数</td> <td>251件</td> <td>260件</td> </tr> <tr> <td>訪問看護件数</td> <td>4,692件</td> <td>4,600件</td> </tr> <tr> <td>訪問リハビリ件数</td> <td>2,086件</td> <td>2,600件</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H29実績	R1目標	訪問診療件数	251件	260件	訪問看護件数	4,692件	4,600件	訪問リハビリ件数	2,086件	2,600件												
区分	H29実績	R1目標																							
訪問診療件数	251件	260件																							
訪問看護件数	4,692件	4,600件																							
訪問リハビリ件数	2,086件	2,600件																							

2	<p>関係市町村・福祉施設・医師会などと連携しながら、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導などの在宅医療に積極的に取り組む。</p> <p>(イ) こころの医療センター駒ヶ根</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種チームが、地域との連携を推進し、診療体制を充実</li> <li>・駒ヶ根市が推進する「認知症初期集中支援事業」、伊南4市町村が推進する「認知症医療・介護連携事業」に引き続き参画</li> <li>・上伊那圏域の保健・福祉・医療等関係機関で進める「認知症ケアパス」(地域連携パス)への参加</li> <li>・新オレンジプラン、県保健医療計画を踏まえた、地域型認知症疾患医療センターの開設に向けた準備</li> <li>・精神科訪問看護ステーションの開設に向けた検討</li> </ul> <p>在宅医療件数</p> <table border="1" data-bbox="237 1109 813 1209"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H29実績</th> <th>R1目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護件数</td> <td>1,658件</td> <td>1,750件</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H29実績	R1目標	訪問看護件数	1,658件	1,750件	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師、保健師、臨床心理技師など多職種による「もの忘れ外来」診療を行うとともに地域包括支援センターへの紹介など医療・介護の連携を進め、地域における生活支援につなげた。(受診件数74件)</li> <li>・駒ヶ根市が実施する認知症初期集中支援チーム事業に作業療法士と認知症認定看護師が参画し、相談応需や訪問支援などを行った。(訪問回数延べ56件)</li> <li>・市町村の地域包括支援センターが進める認知症ケアパス(地域連携パス)に参加し、支援のために必要な情報提供を行った。(情報提供件数 44件)</li> <li>・認知症医療では、上伊那医療圏における「認知症疾患医療センター」の令和2年度の開設を目指して関係機関等との調整や運営方法の検討を進め、年度末に令和2年4月1日から5年間の指定を受けた。</li> <li>・精神科訪問看護ステーションの開設に向けて、山梨県立北病院等の視察を実施し、総合的な検討を行い報告書を作成した。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="963 758 2056 858"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護件数</td> <td>1,982件</td> <td>1,681件</td> <td>301件</td> </tr> </tbody> </table>	区分	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差	訪問看護件数	1,982件	1,681件	301件
区分	H29実績	R1目標																
訪問看護件数	1,658件	1,750件																
区分	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差															
訪問看護件数	1,982件	1,681件	301件															
3	<p>関係市町村・福祉施設・医師会などと連携しながら、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ</p>	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療総合支援センターにおいて、訪問診療、看護、リハビリ、服薬指導等を積極的に実施し、在宅医療の充実を図った。今年度は訪問看護の実人数が減少したことや、訪問</li> </ul>														

り、訪問薬剤指導などの在宅医療に積極的に取り組む。

(ウ) 阿南病院

- ・地域包括ケアシステムに対応する地域の訪問看護ステーションの開設に向けての検討
- ・訪問診療・看護・リハビリ・服薬指導等在宅医療の積極的な実施

- ・在宅医療や介護等と連携した地域医療の役割の明確化

- ・院内デイサービスの継続

- ・認知症カフェの継続

- ・認知症看護認定看護師が中心となり、認知症サポーターの養成や地域への啓発活動などを積極的に実施

- ・認知症に対する困難事例への対応を積極的に実施

- ・阿南町の「地域ケア会議」への参画による退院調整に係る情報共有、在宅医療における実践的な連携を強化、診療圏内の他の関係機関ともシステム化するなどの連携

- ・飯田下伊那地域の「南信州在宅医療介護連携推進協議会」に参画

- ・町村が設置する認知症初期集中支援チームと連携して早期対応の支援（再）

在宅医療件数

リハビリでも算定単位数が減少し在宅全体でも減少となった。

項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差
在宅医療件数	2,104件	2,293件	△189件

※在宅医療件数：訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導回数の計

- ・訪問看護ステーションへの応援・連携体制について、今後の運営協力等について院内WGで検討し、運営の方向性等の協議を進めた。

- ・専任スタッフと認知症認定看護師を配置し相談業務を積極的に行うとともに、ボランティアの協力を得ながら認知症を併発した入院患者を対象に院内デイサービスを実施した。

- ・毎月第2木曜日に認知症カフェ「かふえなごみ」を継続実施し、認知症の方や家族の支援につなげた。（認知症カフェ：稼働 9日、104人）

- ・地域住民や関係団体へ啓発活動の実施（認知症サポーター養成講習会 2回 35人）

- ・高齢の患者が多い当院において、職員が認知症を正しく理解し、高齢者に優しい病院・地域づくりの実践のため、全職員の受講を目指して、院内認知症サポーター研修を実施し、職員の認知症への理解と意識の向上を図った。

- ・認知症専門外来の開設に向け、関係機関へ協力を依頼した。認知機能の低下が見られる方とその家族へ問診・認知機能検査を行なって生活障害への相談とともに、専門医師による診療へつなげた。

- ・認知症ケア加算2の算定要件である研修を、院内看護部を中心に認知症の方への理解を深めるため各部署への研修と集合研修（20名参加）を行った。

- ・各自自治体・関係団体での認知症の研修会実施（4回 299名）

- ・自治体や関係施設から個別の相談対応（認知機能低下に伴う相談 3件）

- ・平成30年度より院内に退院支援チームを発足し活動を開始している。

①定期的なチーム会の開催、②看護部内へ社会保険の成り立ちと介護保険の理解を深める目的の研修を行った。

	<table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>H29実績</td> <td>R1目標</td> </tr> <tr> <td>訪問診療・看護・リハビリ・薬剤指導 件数</td> <td>2,175件</td> <td>2,200件</td> </tr> </table>	区分	H29実績	R1目標	訪問診療・看護・リハビリ・薬剤指導 件数	2,175件	2,200件		<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿南町医療介護連携支援システムが、訪問医療において処置画像など多職種で共有され、処置の継続性が保てた。今後は、システム運用面等の課題を抽出して対応策を検討し、関係機関と連携していく。</li> <li>・地域ケア会議へ定期的な参加を行い、町内の関係者と町内の関係者と情報共有、課題協議ができた。また、入院患者にかかる困難処遇についての協同、福祉制度の活用等、検討ができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この地域の地域包括ケアの運用に向けて認知症初期集中支援チームの運営協力について後方支援病院として全町村においてどのように対応するかさらに詰めていく必要がある。</li> </ul>				
区分	H29実績	R1目標											
訪問診療・看護・リハビリ・薬剤指導 件数	2,175件	2,200件											
4	<p>関係市町村・福祉施設・医師会などと連携しながら、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導などの在宅医療に積極的に取り組む。</p> <p>(エ) 木曽病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者サポートセンターを中心に病院・地域連携会議を開催し、地域の医療・介護・福祉施設等と連携</li> <li>・入退院調整及び相談支援等について、専任の職員を配置</li> <li>・入退院支援に関する研修を関係職員対象に行い、支援体制を充実</li> <li>・人間ドック及び各種検診の充実、公開講座等による啓発活動を実施</li> </ul>	木 曽	<p>S</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者サポートセンターを中心に、地域の医療・介護・福祉施設等との連携、退院調整、相談支援等の実施体制を充実させた。</li> <li>・患者サポートセンターと退院支援チームが連携して退院支援の充実を図り、退院支援加算の算定件数の増加を図った。</li> <li>・入院支援専従看護師を1名配置し、入院前から情報収集を行う体制を作り、12月から入院支援加算の算定を開始した。</li> <li>・退院支援チームと連携し病棟職員への研修会を開催し、入退院支援への意識向上を図った。</li> <li>・人間ドックに心臓検査コースを新設し、循環器系疾患予防への対応を拡充した。</li> <li>・国保特定健診を郡内町村から受託するとともに、岐阜県坂下病院の診療所化に際し、木曽郡南部の乳がん検診、子宮がん検診、職員健康診断等の受託をした。</li> <li>・地域の高齢化及び住宅でのターミナルケア等の患者ニーズに対応するため、24時間365日訪問体制の維持等、在宅医療を積極的に展開した。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度との差</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問診療</td> <td>712件</td> <td>549件</td> <td>163件</td> <td>129.7%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差	対前年度比	訪問診療	712件	549件	163件	129.7%
項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差	対前年度比									
訪問診療	712件	549件	163件	129.7%									

	<p>・「地域巡回リハビリテーション」の継続 (再)</p> <p>・訪問診療において電子カルテ用モバイル端末を活用し、医療機能の向上</p> <p>在宅医療件数</p> <table border="1" data-bbox="235 430 817 630"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>H29 実績</th> <th>R1 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問診療件数</td> <td>501 件</td> <td>450 件</td> </tr> <tr> <td>訪問看護件数</td> <td>3,275 件</td> <td>3,800 件</td> </tr> <tr> <td>訪問リハビリ件数</td> <td>747 件</td> <td>600 件</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	H29 実績	R1 目標	訪問診療件数	501 件	450 件	訪問看護件数	3,275 件	3,800 件	訪問リハビリ件数	747 件	600 件		<table border="1" data-bbox="952 191 2060 343"> <tbody> <tr> <td>訪問看護</td> <td>3,957 件</td> <td>3,708 件</td> <td>249 件</td> <td>106.7%</td> </tr> <tr> <td>訪問リハビリ</td> <td>769 件</td> <td>544 件</td> <td>225 件</td> <td>141.4%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5,438 件</td> <td>4,801 件</td> <td>637 件</td> <td>113.3%</td> </tr> </tbody> </table>	訪問看護	3,957 件	3,708 件	249 件	106.7%	訪問リハビリ	769 件	544 件	225 件	141.4%	計	5,438 件	4,801 件	637 件	113.3%
区 分	H29 実績	R1 目標																												
訪問診療件数	501 件	450 件																												
訪問看護件数	3,275 件	3,800 件																												
訪問リハビリ件数	747 件	600 件																												
訪問看護	3,957 件	3,708 件	249 件	106.7%																										
訪問リハビリ	769 件	544 件	225 件	141.4%																										
計	5,438 件	4,801 件	637 件	113.3%																										
5	<p>関係市町村・福祉施設・医師会などと連携しながら、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導などの在宅医療に積極的に取り組む。</p> <p>(オ) こども病院</p> <p>・医療、福祉、教育、行政関係者との連携による、小児在宅医療に係るネットワークを構築</p> <p>・「長野しろくまネットワーク」(在宅電子連絡帳等)の運用、ホームページでの情報提供など、小児在宅に係る全県的なネットワーク</p>	こども	<p>S</p> <p>・令和元年度も引き続き県内の小児在宅医療の推進に努めている。</p> <p>・人工呼吸器を使うなどの医療的ケアが必要な在宅患者に対応するため、訪問診療センターを開設した。10月から訪問診療を開始し、定期的な訪問診療、訪問ケアを実施した。</p> <p>・小児在宅医療に係るネットワーク構築が圏域ごとに進んできており、すそ野の広がりに成果が出ている。</p> <p>・平成26年1月から試験稼働した「長野しろくまネットワーク(電子手帳による家族を含めた関係者間との情報共有)」は、平成31年4月より運営事務局が信州大学医学部新生児学・療育学講座へ移転となり、運営・維持・拡大に協力した。また1ユーザーとして当院の利用者の拡大を行うとともに、しろくまネットワーク利用による地域医療連携や多職種連携および支援者間の幅広い情報共有ができています。</p> <p>・重症心身障害児の情報共有を行うとともに成人移行やショートステイ受入体制充実のため、「松本圏域4病院短期入所連絡会」を月1回開催した。</p>																											

	<p>の推進、在宅患者のレスパイトケア※の実施について検討</p> <p>※レスパイトケア：長期にわたり在宅医療などを行っている小児患者の家族の休息のための入院や配慮のこと</p>		<p>・院内スタッフ対象に、在宅医療支援委員会と在宅支援看護チームが共同で小児在宅医療についての学習会を計6回実施した</p>
--	--	--	---

## 第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

### 1 医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供

#### (3) 高度・専門医療の提供

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

感染症医療の提供では、第一種・第二種感染症指定医療機関である信州医療センターが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の県内発生を受け、感染症病棟への患者の受け入れを行った。（令和元年度実績：入院7名）また、県内の感染症指定医療機関に向けて、新型コロナウイルス感染症に係る最新の治療情報を発信した。

精神医療の提供では、こころの医療センター駒ヶ根が、県の精神科医療の中核病院として24時間365日体制で精神科救急医療、アルコール・薬物依存、児童精神科など多職種チームによる高度な専門医療を提供した。また、外来救急やウォークイン患者に対して、速やかに緊急性の評価を行い、適切な診療に繋げた。児童・思春期精神科医療では「子どものこころ診療センター」を開設し、診療の充実、ペアレントトレーニングの開始など強化を進めた。デイケアでは、多職種連携によるSST（ソーシャルスキル・トレーニング）を取り入れたプログラムにも力を入れた。

高度小児医療、周産期医療の提供については、こども病院において、一般の医療機関では対応が困難な高度な小児医療の中核病院、県の総合周産期母子医療センターとしての機能を担いつつ、小児アレルギーや感染症に対応するための小児アレルギー科及び感染症科の開設及び小児神経筋疾患の治療用機器であるロボットスーツ「HAL」の導入など、診療体制の充実を図った。

がん診療機能の向上では、木曽病院が、地域がん診療病院として、がん相談支援センター及び緩和ケアチームへの専属職員配置や緩和ケア外来の設置等がん診療体制の充実を図り、こども病院は、小児がん連携病院の指定を受け、信州大学医学部附属病院、信州がんセンター及び相澤病院と連携し小児がんの診療体制を強化する等、各病院において、がんの治療や緩和ケア等で質の高い医療サービスを提供に努めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 1(3) 1	ア 感染症医療の提供（信州医療センター） 感染症の専門治療と研究及び教育機能を有する感染症センターにより、以下の役割を發揮 ・常勤感染症専門医2名による感染症の専門医療の提供	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤感染症専門医2名が外来・入院診療にあたった。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が長野県内で発生したため、感染症病棟（北5階）を運用開始した。また、北6階結核病棟への結核患者の収容を中止し、COVID-19患者用に転用して診療した（令和元年度7名入院治療）。なお、一時的に結核患者の受け入れを停止しているが、将来的には体制を回復させ、県下各地域から肺結核患者の受け入れを行う。</li> <li>・県内の感染症指定医療機関に向けてCOVID-19に対する最新の治療情報を発信した。</li> </ul>
2	・第一種・第二種感染症指定医療機関として、新型インフルエンザ等感染症の集団発生等に適切な対応ができるよう、定期的に「患者受入訓練」を実施	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症病棟では第一種・第二種感染症指定医療機関及び県の政策医療としての新型インフルエンザ、エボラ出血熱などに備え、月1回程度PPE※着脱訓練、患者受入訓練を実施し、常に患者対応ができるよう準備するとともに設備の保安全管理も実施している。</li> <li>・感染症病棟内研修等 感染症病棟関係職員対象PPE※着脱訓練、PPE※着用下での訓練（採血、血管確保、嘔吐物処理）、エボラ出血熱患者受け入れシミュレーション等を10回実施した。（参加者延べ116人）</li> <li>・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が発生した為、研修会及びPPE着脱訓練を医師・看護師・事務職員を対象に9回実施し、患者の受け入れを行った。（参加者延べ155人）</li> </ul> <p>※PPE（Personal Protective Equipment）：人に危険な病原体から医療従事者を守る個人用防護具。</p>
3	・地域の医療機関などと協働で感染症発生時の地域行動計画の策定に参画	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症専門家懇談会委員として参加した。</li> </ul>
4	・結核患者の受入体制の維持、県下各地域か	信	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結核病棟で延べ5,110人の患者を受け入れた。（平成30年度4,395人）</li> </ul>

	らの合併症（血液透析など）を伴う重症肺結核の患者を受け入れ、地域住民、医療機関などに向けた結核に関する情報発信	州		・令和元年度 看護職等のための結核対策コース（2日間）（令和2年3月2日・3日）を計画し12名の看護師から応募があったが、新型コロナウイルス感染症発生による対応のため中止とした。
5	・エイズ治療中核拠点病院として、県内の拠点8病院を統括	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エイズ患者診療患者数 44人（平成30年度末 45人）</li> <li>・エイズ治療拠点病院におけるH I V迅速検査を71件実施した。</li> <li>・エイズ治療中核拠点病院として「H I V感染者・エイズ患者の在宅医療・介護の環境整備事業」の現地研修事業（厚労省委託事業）を12月10日～12月12日で計画したが、今年度は応募がなかった。</li> <li>・エイズ治療中核拠点病院として「H I V感染者・エイズ患者の在宅医療・介護の環境整備事業」の支援チーム派遣事業（厚労省委託事業）は多職種チームを院内に設置し、研修会を企画したが、今年度の参加申し込みはなかった。</li> <li>・H I V診療チームで、エイズデーなどの啓発普及活動、月1回症例検討や研修会参加、情報交換等の活動を行った。</li> <li>・エイズ治療中核拠点病院として県保健疾病対策課と連携して、エイズ治療拠点病院連絡会を年2回（3回目は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対応のため中止）開催した。また、感染症医療従事者研修会開催に協力した。</li> <li>・第50回日本看護学会—ヘルスプロモーション学術集会—で「最近のHIV・エイズについての情報を知っていますか？～“U=U”は何？～をテーマとし交流集会を行い、知識や情報の発信を行った。</li> </ul>
6	・海外渡航者外来を拡充し、海外赴任者・旅行者に対するワクチン予防及び帰国後の輸入感染症治療を実施	信州	A	・国立国際医療研究センターから月1回医師の派遣を受け、診療を行っている。

7	・県と連携して感染症の発生予防・まん延防止などの感染症対策を推進	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山崎善隆呼吸器感染症内科部長が長野県エイズ治療拠点病院連絡会座長と長野県医師会感染症対策委員会の委員長を務めている。</li> <li>・長野県「世界エイズデー」普及啓発週間に参加し、レッドリボンツリー、啓発品の展示や配布を行った。</li> <li>・情報発信については以下の取組を行った。</li> </ul> <p>山崎善隆呼吸器・感染症内科部長</p>																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="965 480 1070 523">開催日</th> <th data-bbox="1081 480 1294 523">場所</th> <th data-bbox="1305 480 2042 523">名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="965 531 1070 571">4.28</td> <td data-bbox="1081 531 1294 571">名古屋市</td> <td data-bbox="1305 531 2042 571">第30回日本医学会総会2019中部ランチョンセミナー</td> </tr> <tr> <td data-bbox="965 579 1070 619">5.25</td> <td data-bbox="1081 579 1294 619">須坂市</td> <td data-bbox="1305 579 2042 619">長野県立信州医療センター・須高医師会市民公開講座</td> </tr> <tr> <td data-bbox="965 627 1070 667">6.27</td> <td data-bbox="1081 627 1294 667">長野市</td> <td data-bbox="1305 627 2042 667">Scientific Exchange Meeting in 長野</td> </tr> <tr> <td data-bbox="965 675 1070 762">7.3</td> <td data-bbox="1081 675 1294 762">長野市</td> <td data-bbox="1305 675 2042 762">プライマリケア医のための肺炎球菌ワクチンフォーラムin長野</td> </tr> <tr> <td data-bbox="965 770 1070 810">8.28</td> <td data-bbox="1081 770 1294 810">金沢市</td> <td data-bbox="1305 770 2042 810">金沢肺炎予防セミナー</td> </tr> <tr> <td data-bbox="965 818 1070 906">10.10</td> <td data-bbox="1081 818 1294 906">甲信越インターネット講演会</td> <td data-bbox="1305 818 2042 906">病院睡眠管理セミナー</td> </tr> <tr> <td data-bbox="965 914 1070 954">10.17</td> <td data-bbox="1081 914 1294 954">伊那市</td> <td data-bbox="1305 914 2042 954">上伊那医師会学術講演会</td> </tr> <tr> <td data-bbox="965 962 1070 1002">10.23</td> <td data-bbox="1081 962 1294 1002">藤沢市</td> <td data-bbox="1305 962 2042 1002">高齢者ケアマネージメントセミナー</td> </tr> <tr> <td data-bbox="965 1010 1070 1050">10.24</td> <td data-bbox="1081 1010 1294 1050">長野市</td> <td data-bbox="1305 1010 2042 1050">長野県病院薬剤師会 北信支部</td> </tr> <tr> <td data-bbox="965 1058 1070 1098">11.1</td> <td data-bbox="1081 1058 1294 1098">日立市</td> <td data-bbox="1305 1058 2042 1098">健康寿命延伸セミナーin日立</td> </tr> <tr> <td data-bbox="965 1106 1070 1145">11.5</td> <td data-bbox="1081 1106 1294 1145">岐阜市</td> <td data-bbox="1305 1106 2042 1145">健康寿命延伸セミナーin岐阜</td> </tr> <tr> <td data-bbox="965 1153 1070 1193">11.14</td> <td data-bbox="1081 1153 1294 1193">伊那市</td> <td data-bbox="1305 1153 2042 1193">上伊那呼吸器研究会学術講演会</td> </tr> <tr> <td data-bbox="965 1201 1070 1241">11.19</td> <td data-bbox="1081 1201 1294 1241">須坂市</td> <td data-bbox="1305 1201 2042 1241">須高福祉ネットワーク</td> </tr> <tr> <td data-bbox="965 1249 1070 1289">12.4</td> <td data-bbox="1081 1249 1294 1289">上田市</td> <td data-bbox="1305 1249 2042 1289">信州上田医療センター 院内感染対策研修会</td> </tr> <tr> <td data-bbox="965 1297 1070 1337">3.3</td> <td data-bbox="1081 1297 1294 1337">長野市</td> <td data-bbox="1305 1297 2042 1337">長野市民病院 院内感染対策研修会</td> </tr> </tbody> </table>				開催日	場所	名称	4.28	名古屋市	第30回日本医学会総会2019中部ランチョンセミナー	5.25	須坂市	長野県立信州医療センター・須高医師会市民公開講座	6.27	長野市	Scientific Exchange Meeting in 長野	7.3	長野市	プライマリケア医のための肺炎球菌ワクチンフォーラムin長野	8.28	金沢市	金沢肺炎予防セミナー	10.10	甲信越インターネット講演会	病院睡眠管理セミナー	10.17	伊那市	上伊那医師会学術講演会	10.23	藤沢市	高齢者ケアマネージメントセミナー	10.24	長野市	長野県病院薬剤師会 北信支部	11.1	日立市	健康寿命延伸セミナーin日立	11.5	岐阜市	健康寿命延伸セミナーin岐阜	11.14	伊那市	上伊那呼吸器研究会学術講演会	11.19	須坂市	須高福祉ネットワーク	12.4	上田市	信州上田医療センター 院内感染対策研修会	3.3	長野市	長野市民病院 院内感染対策研修会
開催日	場所	名称																																																	
4.28	名古屋市	第30回日本医学会総会2019中部ランチョンセミナー																																																	
5.25	須坂市	長野県立信州医療センター・須高医師会市民公開講座																																																	
6.27	長野市	Scientific Exchange Meeting in 長野																																																	
7.3	長野市	プライマリケア医のための肺炎球菌ワクチンフォーラムin長野																																																	
8.28	金沢市	金沢肺炎予防セミナー																																																	
10.10	甲信越インターネット講演会	病院睡眠管理セミナー																																																	
10.17	伊那市	上伊那医師会学術講演会																																																	
10.23	藤沢市	高齢者ケアマネージメントセミナー																																																	
10.24	長野市	長野県病院薬剤師会 北信支部																																																	
11.1	日立市	健康寿命延伸セミナーin日立																																																	
11.5	岐阜市	健康寿命延伸セミナーin岐阜																																																	
11.14	伊那市	上伊那呼吸器研究会学術講演会																																																	
11.19	須坂市	須高福祉ネットワーク																																																	
12.4	上田市	信州上田医療センター 院内感染対策研修会																																																	
3.3	長野市	長野市民病院 院内感染対策研修会																																																	

8	・県内の医療機関に対して感染症専門医によるコンサルテーション窓口を常設	信州	A	・結核診療や新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の相談を行った。																					
9	・北信地域の医療機関と情報を共有し、県内唯一の日本環境感染学会認定教育施設としての実績を活かして「北信ICT※連絡協議会」などを通じ、地域の感染対策水準の向上に寄与 ※ICT：感染対策チーム（インフェクションコントロールチーム（Infection Control Team））	信州	A	・北信地域で抗菌薬使用量と耐性率に関するサーベイランス活動、合同カンファレンス及び相互ラウンドなどによって感染防止技術・対策の向上に貢献した。 ・山崎善隆感染症センター長が北信ICT連絡協議会代表理事を務め、年2回（5月、12月）、講演会と合同カンファレンスを開催した。																					
10	・感染対策に関する講演会や出前講座を行うとともに相談に対応	信州	A	・感染症の知識普及のため介護施設等へ出前講座等を行った。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>場 所</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10.8</td> <td>須坂市デイサービス「すえひろ」</td> <td>感染対策について</td> </tr> <tr> <td>10.11</td> <td>須坂市「グリーンアルム」</td> <td>感染対策について</td> </tr> <tr> <td>11.12</td> <td>中野市「ふるさと苑」</td> <td>感染対策について</td> </tr> <tr> <td>11.29</td> <td>須坂市地域包括支援センター業務委員会「家族介護教室」</td> <td>家庭での感染対策について</td> </tr> <tr> <td>12.16</td> <td>長野市グループホーム「愛ランドわたうち」</td> <td>感染対策について</td> </tr> <tr> <td>12.18</td> <td>長野市「愛ランドはるかぜ」</td> <td>感染対策について</td> </tr> </tbody> </table>	開催日	場 所	内 容	10.8	須坂市デイサービス「すえひろ」	感染対策について	10.11	須坂市「グリーンアルム」	感染対策について	11.12	中野市「ふるさと苑」	感染対策について	11.29	須坂市地域包括支援センター業務委員会「家族介護教室」	家庭での感染対策について	12.16	長野市グループホーム「愛ランドわたうち」	感染対策について	12.18	長野市「愛ランドはるかぜ」	感染対策について
開催日	場 所	内 容																							
10.8	須坂市デイサービス「すえひろ」	感染対策について																							
10.11	須坂市「グリーンアルム」	感染対策について																							
11.12	中野市「ふるさと苑」	感染対策について																							
11.29	須坂市地域包括支援センター業務委員会「家族介護教室」	家庭での感染対策について																							
12.16	長野市グループホーム「愛ランドわたうち」	感染対策について																							
12.18	長野市「愛ランドはるかぜ」	感染対策について																							

11	イ 精神医療の提供 (こころの医療センター駒ヶ根) 患者目標 (延べ人数) 入院 38,228人 外来 37,200人	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収支均衡を図り経営を安定させ、医療の質をさらに高めるため「病床利用率80% (1日平均104.7人)」を目標とし、適正な入院期間、3ヶ月以内の再入院抑制に職員一丸となって取り組んだ。外来では、クリニック等との連携による新規デイケア参加者の獲得や訪問看護の強化を図った。結果、病床利用率は目標を1.9%下回ったものの、外来では目標を1割以上上回った。</li> <li>・平均在院日数は72.7日で平成30年度より3.4日延びている。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="956 491 2056 687"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和元年度目標</th> <th>対目標比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td> <td>37,400人</td> <td>38,228人</td> <td>97.8%</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>41,189人</td> <td>37,200人</td> <td>110.7%</td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>78.1%</td> <td>80.0%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	令和元年度実績	令和元年度目標	対目標比率	入院	37,400人	38,228人	97.8%	外来	41,189人	37,200人	110.7%	病床利用率	78.1%	80.0%	
区分	令和元年度実績	令和元年度目標	対目標比率																	
入院	37,400人	38,228人	97.8%																	
外来	41,189人	37,200人	110.7%																	
病床利用率	78.1%	80.0%																		
12	<b>【令和元年度に推進する事項】</b> 県内の精神科医療の中核を担うべく以下のとおり医療機能を充実 ・24時間365日体制で、救急患者を受け入れ	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間365日、重症精神科急性期患者の受入れに対応する常時対応型施設として空床2床を確保し、精神保健指定医等による診療応需態勢を整備した。(国の精神科救急医療体制整備事業) 措置入院28人を受入れた。</li> <li>・外来救急やウォークイン患者に対して、速やかに緊急性の評価を行い、適切な診療に繋がった。</li> <li>・医療機関の診察時間外の緊急相談に対応する精神障がい者在宅アセスメントセンターへの相談件数は428件であった。(平成30年度303件)</li> </ul>																
13	・ギャンブル等依存症の治療・相談対応への準備	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギャンブル依存症等の治療や専門相談を開始するため、国が実施する研修に医師及び看護師を派遣し、プログラムを実施している先進病院を視察した。</li> </ul>																
14	・児童精神科医療では、他の医療機関や福祉、教育機関との役割分担を明確化、連携体制の一層の強化、他医療機関では対応困難な症状の重い患者に医療を提供、県内の専門医	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童病棟運営会議等で、病棟運営や治療の評価及び検討を行った。</li> <li>・医師、看護師、臨床心理技師及び精神保健福祉士による多職種チームでの外来診療を行った。(令和元年度127件、前年度比10件増)</li> <li>・上伊那圏域連携サポート会議による地域、教育、親等により事例検討に参加したほか、</li> </ul>																

	療機関で構成するネットワークを活用した専門治療を行うため、「子どもの心の診療ネットワーク事業」へ参画			発達障がい診療地域連絡会上伊那圏域連絡会による教育、療育、保健、行政、医療分野の関係者との事例検討や講演会に参加した。 ・地域の医療機関、行政機関等と相互に課題を共有し対応を検討するため、11月に児童精神科医療に関する地域連携会議を開催した。
15	・児童精神科における多職種初診等医療の充実・強化、啓発、発達障がい診療医・専門医の養成、ネットワーク事業推進のため、診療部において「子どものこころ診療センター」を開設	駒ヶ根	A	・児童精神科診療機関として質の高い専門医療を提供するため、子どものこころ診療センターを11月に開設し、1月から親、家族等を支援するペアレントトレーニングを開始した。
16	・多職種で構成する「認知症ラウンドチーム」による認知症及び高齢の入院患者に対する治療方針の統一化	駒ヶ根	A	・認知症等の疾患や高齢の入院患者に対して、早期に地域生活に戻れることを目指し、適切な治療と対応方針の検討を行うため、多職種で構成する「認知症ラウンドチーム」による院内ラウンドを月2回実施した。(令和元年度実績 延111人)
17	・急性期治療(依存症)病棟では、多様化する急性期患者を受け入れ	駒ヶ根	A	・長野県全域から入院患者を受入れ、入院による専門的なアルコール依存症リハビリプログラムを提供した。(参加者数83人) ・うつストレス関連疾患患者を対象としたハートフルセミナーを開催した。(参加者数31人)
18	・退院後3カ月以内の再入院患者縮減対策の継続	駒ヶ根	A	・入院後速やかに多職種により地域関係者及び家族と支援会議を行い、退院後の地域生活について検討を行った。 ・外出・外泊評価シートを利用し、外出・外泊訓練前に目標を立て、訓練後の評価を多職種で検討し退院につなげた。 ・3カ月以内の再入院率は13.5%となった。(平成30年度実績 18.5%)平成31年4月～令和元年12月の全国の県立精神科単科病院の平均再入院率は21.3%であり、全国平均を下回っている。
19	・地域の受入条件が整えば退院可能である長期在院者への多職種チームによる生活体験等	駒ヶ根	A	・定期的に多職種によるカンファレンスを開催し、上伊那圏域障害者総合支援センター等の職員とともに退院支援が必要な患者について検討を行い、1年以上入院している患

	の支援	根	者8人の退院につなげた。
20	・病棟薬剤業務の充実や新薬の導入、薬物療法では効果が見られない場合に治療効果の高い修正型電気けいれん療法による治療	駒ヶ根	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟薬剤業務として、救急・急性期病棟を中心に全病棟において、服薬指導を行った。(令和元年度 1,402件 平成30年度 1,190件)</li> <li>・飯田市立病院から麻酔科専門医の派遣を受け、難治性、治療抵抗性の精神疾患患者に週2回、1日3例のm-ECT(修正型電気けいれん療法)を実施した。(元年度 延べ271人 30年度 延べ247人)</li> <li>・治療抵抗性統合失調症患者に対しクロザピン治療を実施し、長期入院となっていた患者を通院治療につなげた。(実施実人員6人 年度末:外来4人、入院:2人)</li> </ul>
21	・地域の作業所や企業等と連携を図り、デイケア利用者のステップアップ後の地域生活がスムーズに移行するよう支援	駒ヶ根	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・3カ月ごと、デイケア科の複数職種で評価を行い、情報共有を図りながら地域生活に必要なケアを提供した。</li> </ul>
22	・「思春期デイケア」プログラムの内容についての検証及び関係機関へのピアールによる利用者の増	駒ヶ根	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期デイケアプロジェクトチームにより、SST(ソーシャルスキル・トレーニング)プログラムの見直しや学習支援の導入など内容の強化を図った。</li> <li>・地元の教育委員会と協議し、デイケアに参加した児童・生徒が学校の出席扱いとなるよう調整を図った。</li> <li>・デイケアのリーフレットやSSTの紹介チラシを新たに作成し、地域のクリニックや関係機関へ配布して利用者の増加につなげた。(延べ利用者数 令和元年度553人、平成30年度230人)</li> </ul>
23	・地域生活支援を推進するため、訪問看護機能を強化し、多職種チームによる訪問や退院後の早期訪問を実施、治療中断者等に対するアウトリーチ活動※を検討 ※アウトリーチ活動:受療中断者や自らの意思では受診が困難な精神障がい者を対象に、看護師、作業療法士及び精神保健福祉士等の	駒ヶ根	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・上伊那地域の医療保護、措置入院患者について、多職種での退院調整カンファレンスを実施した。</li> <li>・入院患者の支援会議に訪問看護師が参加し、入院中から退院後を見据えた支援を行い、初回入院の患者には退院直後の週1回訪問に努めた。</li> <li>・地域資源や支援方法の提案と導入のため、訪問看護師のほか、精神保健福祉士、作業療法士及び薬剤師と複数職種による訪問を行った。(令和元年度 92件 平成30年度 107件)</li> <li>・駒ヶ根市と精神疾患未治療者等に関する会議を開催し、ひきこもり・家族虐待事例や治</li> </ul>

	専門スタッフが「多職種チーム」として、それぞれの技術、知識を用い、医療や生活に関することなど多面的な支援を共同で行う。			療中断者に関する課題などの情報共有により、今後のアウトリーチ活動について検討した。															
24	・入院から退院後まで質の高い支援が図られるように病院、診療所及び市町村・福祉施設との連携機能強化及び院内における相談機能を充実、入院時、退院時には原則精神保健福祉士が関わり一貫した支援を実施	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県内で初めて、近隣保健所と連携し、措置入院患者に対し、「地方自治体が行う退院支援のガイドライン」に沿った退院支援を行った。(10件)</li> <li>・地域支援者の状況、福祉制度利用状況、入院及び退院時の課題などについてのアセスメントを実施し、地域生活へのスムーズな移行、施設での生活維持に向けた支援を行った。</li> <li>・医療機関及び退院後の受入先との連携を図るため、病院や地域の診療所及び退院後に入居する福祉施設等の訪問を行った。(訪問件数：病院・診療所9件、福祉施設4件)</li> </ul>															
25	・医療観察法に基づく指定入院及び通院医療機関として、対象者が社会復帰するために適切な医療の実施	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定入院医療機関として、厚生労働省が示す医療観察法各種ガイドラインに沿い、対象者6名の社会復帰に向けた治療を進めた。なお、指定通院医療機関としては対象者がいなかった。</li> <li>・新たな入院の受入れは1人、入院処遇の終了者(退院)は0人、1日平均入院患者数は5.5人であった。(3月末現在：入院6人、社会復帰期3人・回復期3人)</li> <li>・外部評価会議では、病棟の運営状況や処遇事例について説明し、外部委員と多面的な意見交換を行った。倫理会議では、1ヶ月間の治療や処遇の経過を説明し、外部委員からの意見を処遇に反映した。</li> <li>・地域連絡会議では、無断離院時における地区への情報伝達や警察等との連携などについて意見交換を行った。</li> </ul>															
26	ウ 高度小児医療、周産期医療の提供 (こども病院) 患者目標(延べ人数) 入院 54,675人 外来 66,557人	こども	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度との差</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td> <td>52,647人</td> <td>55,723人</td> <td>△3,076人</td> <td>94.5%</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>66,776人</td> <td>64,946人</td> <td>1,830人</td> <td>102.8%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外来は目標数に到達し、過去最高の患者数となった。</li> <li>・入院は長期患者数の減少及び感染症のアウトブレイク等により、延べ患者数が減少した。</li> </ul>	項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差	対前年度比	入院	52,647人	55,723人	△3,076人	94.5%	外来	66,776人	64,946人	1,830人	102.8%
項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差	対前年度比															
入院	52,647人	55,723人	△3,076人	94.5%															
外来	66,776人	64,946人	1,830人	102.8%															

27	<p>【令和元年度に推進する事項】</p> <p>高度小児医療、救急救命医療及び周産期医療を提供するため、以下のとおり取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児及び小児の重症患者を全県及びその周辺地域から受け入れ、ドクターカーの配備によって、24時間体制で緊急時の対応、コンパクトドクターカーの効果的な運用</li> </ul>	こども	A	<p>・24時間の救急担当医配置などの救急医療体制をとる中で、3,980人の救急患者の受入や、ドクターカーの329回の出動を行い、県の小児高度救急医療及び地域小児救急の後方支援機能を果たした。</p> <p>・コンパクトドクターカーを送り搬送を中心に運用し、病院間連携及び搬送事業体制の充実・強化が図られた。</p> <p>・当院P I C U（小児集中治療室）と県下5地域の地域中核病院との間で、それぞれ症例検討会議を開催し、病院間連携の強化及び長野県における小児重症治療の質の向上に努めた。</p> <table border="1" data-bbox="958 568 2056 1142"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">令和元年度</th> <th colspan="3">平成30年度</th> <th colspan="3">前年との差</th> </tr> <tr> <th></th> <th>迎え 搬送 等</th> <th>送り 搬送</th> <th></th> <th>迎え 搬送 等</th> <th>送り 搬送</th> <th></th> <th>迎え 搬送 等</th> <th>送り 搬送</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数 (人)</td> <td>3,980</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>3,901</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>79</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ドクターカー 出動回数(回)</td> <td>253</td> <td>231</td> <td>22</td> <td>267</td> <td>257</td> <td>10</td> <td>△14</td> <td>△26</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>コンパクトド クターカー出 動回数(回)</td> <td>76</td> <td>1</td> <td>75</td> <td>112</td> <td>11</td> <td>101</td> <td>△36</td> <td>△10</td> <td>△26</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>329</td> <td>232</td> <td>97</td> <td>379</td> <td>268</td> <td>111</td> <td>△50</td> <td>△36</td> <td>△14</td> </tr> </tbody> </table> <p>※迎え搬送等内訳</p> <p>令和元年度：ドクターカー（迎え搬送205、三角搬送21、往診5） 平成30年度：ドクターカー（迎え搬送232、三角搬送24、往診1）</p>	区分	令和元年度			平成30年度			前年との差				迎え 搬送 等	送り 搬送		迎え 搬送 等	送り 搬送		迎え 搬送 等	送り 搬送	救急患者数 (人)	3,980	-	-	3,901	-	-	79			ドクターカー 出動回数(回)	253	231	22	267	257	10	△14	△26	12	コンパクトド クターカー出 動回数(回)	76	1	75	112	11	101	△36	△10	△26	合計	329	232	97	379	268	111	△50	△36	△14
区分	令和元年度			平成30年度			前年との差																																																								
		迎え 搬送 等	送り 搬送		迎え 搬送 等	送り 搬送		迎え 搬送 等	送り 搬送																																																						
救急患者数 (人)	3,980	-	-	3,901	-	-	79																																																								
ドクターカー 出動回数(回)	253	231	22	267	257	10	△14	△26	12																																																						
コンパクトド クターカー出 動回数(回)	76	1	75	112	11	101	△36	△10	△26																																																						
合計	329	232	97	379	268	111	△50	△36	△14																																																						
28	<p>・救急外来を中心とした院内の救急診療体制と病院間連携を充実・強化</p>	こども	A	<p>・小児緊急入院患者数 978人（前年度比 104.2%）</p> <p>・救急患者数 3,980人（前年度比 102.0%）</p>																																																											

		も		・担当診療科が明らかでない緊急入院患者については、総合小児科が担当診療科となり、そのベッドコントロールは看護管理者が行うなど、円滑な受け入れが行えた。
29	・県内消防機関関係者等を対象とした施設見学会・意見交換会を開催し、課題の研究や症例検討等を実施	こども	A	・県内12消防機関と信州大学医学部附属病院高度救命救急センター、こども病院による意見交換会及びこども病院施設見学会を12月に開催した。 ・救急時のよりスムーズな連携に向けて、病院と救急双方の立場から意見を出し合うことができた。
30	・在宅人工呼吸器装着患児などの情報を記載した救急情報連絡カードの利用拡大	こども	A	・長野県下の各消防署の協力を得て、在宅人工呼吸器装着患児の情報を記載した「救急情報提供カード」について、令和元年度は新たに7人（人工呼吸器装着患者5人）の登録を行った。運用を開始した平成25年6月からの登録者数は合計72人（内6人死亡）になった。家族からは「救急情報提供カード」携帯により安心感があるという声が聞かれた。 （課題） ・少しずつ所持者が全県に広がってはいるものの、今後も地域の拠点病院と連携を図りながら、所持者の拡大を図ること、人工呼吸器装着患児の他、何らかの医療的ケアを必要とする患児に対象を拡大することが必要であるとともに、効果についても検討していく必要がある。
31	・信州大学医学部附属病院及びこころの医療センター駒ヶ根と共同して、こどもの心の診療を充実	駒ヶ根	A	・こども病院の神経小児科等と連携し、治療を行った。 （こども病院からの紹介 11人、こども病院への紹介 1人） ・信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部と連携し、治療を行った。 （信大医学部附属病院からの紹介 4人、信大医学部附属病院への紹介 3人） ・子どもの心の診療ネットワーク事業の一環として、3月に子どものこころ診療センター開設記念公開講座を予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止とした。 （参加申込者 100人）
32	同上	こども	A	・県から「発達障がい診療専門家現地派遣事業」の一部委託を受け、信州大学医学部附属病院、こころの医療センター駒ヶ根とともに、県内10圏域の地域連携病院と保健福祉事務所で企画する研修会に、講師として専門家を派遣し、各地域における発達障害診療の

				ネットワークづくりに寄与した。参加者数は1,120人で各圏域の発達障がい診療のネットワークづくりに役立てた。また、医師向け研修会は台風災害のため中止となった。
33	・常勤の精神科医を配置し、母子メンタルヘルス外来にて産後の精神的サポートを実施	こども	A	・新しく着任した精神看護専門看護師と連携し、産前・産後の、より早期からの精神的ケアが可能になった。
34	・県及び信州大学医学部附属病院等と連携し、地域産科・周産期施設との出生前心臓診断ネットワーク（先天性心疾患スクリーニングネットワーク）の構築、インターネットも活用した地域拠点病院間の画像診断データを用いた遠隔診断を推進（長野赤十字病院と病院間契約に基づいて胎児遠隔診断を開始）	こども	A	・平成31年4月から長野赤十字病院からSTICで撮像された胎児心エコースクリーニングの遠隔診断を循環器センターにより定期的に開始。現在までに300例ほどのスクリーニング検査の検証をした。毎月約20から40名のスクリーニング症例がCD/DVDで送られきており、院外用のView Palに登録して事前に設定された記載用紙に結果を記載して長野赤十字病院産科に報告している ・日本胎児心臓病学会胎児心エコー検査登録を実施した。 ・胎児心疾患検出率は70%を超えるようになった。
35	・患者の自立教育のためのツール作成、外来でのコーディネーター看護師の育成、成人先天性心疾患の地域医療ネットワークを構築	こども	A	・平成31年4月より日本成人先天性心疾患学会専門医修練関連施設（信州大学との連携修練施設）として認可を受け、こども病院からは暫定専門医2名も認可され診療を開始している。 ・日本成人先天性心疾患学会患者登録および日本小児循環器学会先天性心疾患および小児期発生心疾患実態調査に協力し、対象となる疾患登録を実施。 ・信州大学との成人先天性心疾患患者のカテーテル治療を実施(8例)
36	・生命科学研究センターの高度解析装置を活用した、先天異常症、腫瘍などの遺伝子関連検査機能の充実、遺伝科医及び遺伝カウンセラーによる遺伝カウンセリングの実施及びフォローアップを推進	こども	A	・生命科学研究センターに設置された高度検査機器を活用して、遺伝子関連検査385件（遺伝学的検査19件、腫瘍関連検査63件、病原体遺伝子検査303件）を実施し、診断・治療に有効に活用した。 ・信州大学病院遺伝子医療研究センターと連携し保険収載された指定難病の遺伝学的検査を開始し、28件のクリニカルシーケンスを実施した。また、28件すべての症例について、遺伝科（臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー）による検査前遺伝カウンセリングを実施し、患者の自己決定による遺伝学的検査の実施選択をサポートするとともに、

			<p>検査後遺伝カウンセリングにより遺伝学的検査結果の理解を手助けし、適切な健康管理に結びつけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院内組織および関係規程を整備し、文部科学省に申請書類を提出することによって、生命科学センターは文部科学大臣から科学研究費補助金取扱規程第2条に規定する研究機関としての指定を受けるに至った。これによって、外部研究費獲得の新たな道を開くことができた。</li> <li>・少しずつ生化学的な研究基盤を整え、1つの研究プロジェクトをスタートすることができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度の科研費獲得に向けて、申請の事務的サポート体制を構築する。</li> </ul>
37	<p>・タンデムマス法※等を用いた新生児マススクリーニング検査※を県から受託実施、先天性代謝異常症等の早期発見・早期治療と専門医によるフォローアップ、遺伝科医及び遺伝カウンセラーによる遺伝カウンセリングを推進</p> <p>※タンデムマス法：従来のガスリー法に代わり質量分析法を用いて行う検査法</p> <p>※マス・スクリーニング検査：生後5日程度の新生児の代謝異常等を発見するために行う検査</p>	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児マススクリーニング検査を引続き県から受託し、初回検査14,796件、再検査751件のスクリーニングを行った。精密検査が必要な新生児は24人、先天性甲状腺機能低下症(疑い含む)の11人、高シトルリン血症1人、フェニルケトン尿症1人の診断がついた。残りの6人は正常と診断されたが、5人は現在精査中。</li> <li>・必要に応じて遺伝カウンセリングを行い、患者家族の疾患への理解、心理面のサポートに努めた。総合小児科医師の関与によりスクリーニング結果の把握、精密検査の実施、診断および治療を円滑に実施できた。</li> <li>・精密検査およびフォローアップ検査(他施設からの依頼検査を含む)を実施した[64名(91件)、うち他施設分は7名(9件)]。</li> <li>・OTC(オルニチントランスカルバモイラーゼ)欠損症に関するマススクリーニング検査の研究成果を第46回日本マススクリーニング学会学術集会で発表した。</li> <li>・県との協力のもと12月20日に連絡協議会を開催し、OTC(オルニチントランスカルバモイラーゼ)欠損症に関する研究の成果を含む検査の現状について報告した。</li> <li>・一部の施設には適正な濾紙血採取法を啓発する必要性があることが確認された。</li> </ul> <p>(課題)</p>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・受託検体数減少への対策。</li> <li>・分析に携わる新たな技術者の育成。</li> </ul>
38	・改正臓器移植法に基づいた、適切な対応	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臓器提供にかかるマニュアルと院内の改正がほぼ整備された。</li> <li>・県の臓器移植コーディネーターと連携し、国内の最新の情報を共有し、体制の更新を行った。</li> <li>・対象となり得る事例が生じた際に、マニュアルに従って関連各部署と協議をしながら円滑に運用することができた。</li> <li>・今後も定期的に委員会を開催し、必要時に適切に運用できるよう体制強化を進める。</li> </ul>
39	・エコーセンターの機能を充実し、超音波診断に関する院内外の専門医・技術者等育成、海外研修の受け入れ（ベトナム、サウジアラビア、オランダなど）	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコーセンターの指導体制は、日本超音波医学会指導医3名、専門医1名、超音波専門技師1名の構成で実施した。</li> <li>・総合スクリーニング部門で、日本超音波医学会認定超音波検査技師資格を、放射線科技師が院内から始めて合格した。（放射線科専門医の指導医の指導により）</li> <li>・令和元年度の外来エコー検査件数は11,454例で、保険収益は61,879千円となった。</li> <li>・手術室心臓血管外科と麻酔科のエコーの機器更新（フィリップス社E`PIC-CV）。また各診療科間のエコー機器の共同使用が進められた。</li> </ul>
40	・小児神経筋疾患の新しい治療用機器である、ロボットスーツ「HAL」を導入し診療を開始	こども	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当する医師、理学療法士が安全講習を受講し、8月から運用開始した。</li> <li>・適用のある患者4名に対して治療を導入し、平均して毎月2回の治療が定期的に行われた。</li> <li>・安全に運用できており、HAL装着による立位歩行が安定してできるまでに運動機能と筋力が向上、精神的にも好影響を与え不登校の状態が改善して就労するなど飛躍的に効果が出た症例もあり、継続治療中である。</li> </ul>
41	・食物アレルギーや内分泌・糖負荷試験等で集中的評価、指導を行うため日帰り入院での検査体制の充実	こども	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・負荷試験の必要件数増加に伴い7月から日帰り負荷試験枠を週1回（3枠/回）から週2回に増やすことで、日帰り負荷試験の件数は平成30年の85件から204件に増加し、負荷試験（1泊+日帰り負荷）総件数は平成30年度の304件から436件に増加した。</li> </ul>

42	・県内周産期医療機関の要請に応じて、軽度胎児異常分娩の患者を受け入れ	こども	A	・令和元年度 分娩件数： 331件
43	・長野県予防接種センターにおいてワクチン接種に関する各種相談業務及び県民・医療者への啓発活動を実施	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般向けに研修会を開催した(今年度テーマ：風疹ワクチン)。</li> <li>・保健師向け研修会は3月に開催予定だったが、コロナウイルス感染の影響で次年度へ延期とした。</li> <li>・ワクチン接種で防ぐことのできる病気から小児を守るため、当院かかりつけの患児に対する予防接種の情報提供、スケジューリング、相談業務および接種を実施した。合計448件(前年比116%)の相談があり、予防接種数の増加に寄与した。特に行政機関等からの相談が52件(前年比151%)と著増しており、長野県予防接種センターとして機能していると考えられた。</li> <li>・延べ368人に接種を行った。入院中の予防接種も積極的に推奨を行い134回の接種に繋がった。</li> <li>・ホームページや院内掲示を用いての予防接種に関する情報提供を行った。 (課題)</li> <li>・相談対象や相談枠の拡大のためには人的体制の拡充が必要。</li> </ul>
44	・「長野しろくまネットワーク」(在宅電子連絡帳等)の運用、ホームページでの情報提供など、小児在宅に係る全県的なネットワークの推進、在宅患者のレスパイトケアの実施について検討(再)	こども	A	・参照 (p.20-No.5)
45	・極低出生体重児の2次障害(不登校・うつ病等)予防のための継続的な医学的健診、定期的発達検査及びホームページを活用した療育相談に対しての情報発信(「よくある質問へ	こども	A	・長野県で出生した極低出生体重児の全保護者への、安心した子育てにつながる医学的情報の提供とフォローアップ体制の強化を実施した。現在は極低出生児だけではなく、その他合併疾患のある児の一部も同様のフォローアップ体制に組み込んでいる。

	の回答」の掲載)、育児相談の実施、思春期を超えた長期フォローアップ体制の整備			
46	・新生児病棟入院児の保護者、の精神的なサポート（心のケア）体制の構築	こども	A	新しく着任した精神看護専門看護師と連携し、産前・産後の、より早期からの精神的ケアが可能になった。
47	・ハイリスク妊娠の対応、遺伝カウンセラー・臨床心理士の妊産婦へのかかわりの拡充を検討、遺伝カウンセリングに柔軟に対応できる外来枠の設定についての検討	こども	A	<p>・胎児診断目的での受診者数は、444件と増加した。2019年1月から12月までの羊水検査・絨毛検査の侵襲的出生前診断については38件であり、そのうち妊娠22週未満で実施した件数は、2018年24件に対し2019年は29件と増加傾向であった。</p> <p>・母体高齢妊娠に伴う出生前診断での紹介受診は、2018年1月から12月までが31件で、2019年1月から12月が28件とこちらもほぼ同程度であった。そのうち実際羊水検査・絨毛検査の侵襲的出生前診断を実施した症例は、9例（約32%）であり、出生前診断についての遺伝カウンセリングが適切に行われていると考えられる。</p> <p>・出生前診断を受けた妊婦や家族の精神的なサポートを産科医や産科スタッフが行っていたが、4月よりリエゾン看護師の就任に伴い、その部分の産科医や産科スタッフの負担が軽減され、その時間を他の患者に割り振りできるようになった。</p> <p>（今後の課題）</p> <p>一般産婦人科病院・クリニック（分娩取り扱い施設）でのNIPT(出生前遺伝学的検査)実施が現在保留になっている状態であるが、長野県内にも非認可でNIPTや胎児ドックを行う施設ができ、当院に結果だけをもって来院する妊婦が見受けられるようになってきた。今後そのような妊婦が増えた場合の対応を考える必要があるとともに、当院で正確な情報提供や適切な遺伝カウンセリングを行い出生前診断に取り組んでいることを、公表することで本当に必要のあるカップルに出生前診断が提供できる可能性がある。</p>
48	・食物アレルギーに対する診療体制として「食物アレルギー診療チーム」の強化・充実を図り、食物経口負荷試験の実施件数を増	こども	A	・計2名に増えた小児アレルギーエデュケーター（看護師）が中心となり、患者への指導のみでなく、外来看護師へ患者への指導方法について教育をすることで、患者指導できる看護師数が増え充実した患者指導を行えるようになった。

	<p>加、小児アレルギーエドゥケーター※の養成          ※小児アレルギーエドゥケーター：患者及び          家族に対し、適切なセルフケアについて教          育・指導できる日本小児難治喘息・アレルギ          ー疾患学会の承認する資格</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な食物負荷試験実施のため、食物アレルギー診療チームによるシミュレーション研修を病棟で行った。</li> <li>・医師、看護師、薬剤師のチームでエピペン処方した患者に対する「エピペン教室」を月に1回開催し、年間延べ77名が参加した。</li> </ul>
49	<p>・クラニオセンターの設置について、導入を          予定する頭蓋形状誘導ヘルメット治療を踏ま          えた専門外来設置に応じ脳外科など院内関係          部署との調整を行う中で検討</p>	こ ど も	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラニオセンターにおいては、頭蓋形状誘導療法を目的とした専門外来立ち上げに向け関連する脳外科および装具調整技師さらに事務などの関連部署との協議を行った。専門外来の名称としては「あたまの形外来」とし、初診から治療までの外来診察を円滑に進めるためのフローチャートを作成した。10月より形成外科専属医師による月2回での専門外来を開始した。試行段階であることから外来の開設に関し改めての広報活動は行わなかったが、3月までの新患者数は21名と昨年度一年での10名を超える状態であった。この内、13名がヘルメット装具による頭蓋形状誘導療法に移行した。変形に対する成長変化および経過中の装具調整に関し、延べ100名の再診を行った。</li> <li>・一方、顎顔面領域における治療に対しては平成30年度に続き信州大学医学部附属病院及び松本歯科大学病院との定期的なカンファレンスを開き治療方針の決定を行った。Apert症候群患児の異常咬合に対し下顎矢状分割法による咬合調整を施行した。また下顎枝の欠損から生じた咬合異常の患児に対しては成長による変形の進行を予防する目的に肋骨肋軟骨移植による下顎枝形成を施行した。さらにトリーチャーコリンズ症候群の中顔面低形成患者に対し、当院3D造形センターとの協力の下、カスタムメイドの人工骨作成を行い、これを用いた治療を行い良好な結果を得た。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な広報活動をしていない状況でありながら、「あたまの形外来」を受診される患者が予想以上に増えている。またヘルメット装具の調整においては技師との共同が必要なため現在金曜日のみでの対応となっており、今後の患者数の増加に際しては金曜日の一般術後外来への影響も懸念される。同専門外来の開設に関しては地域の診療所などへ</li> </ul>

			<p>の情報提供が臨まれるが、現在の月2回の形での外来対応も含め、今後の体制につき再度検討する必要があると考える。</p>
50	<p>・血管奇形センターおよび漏斗胸センターについて、成人移行後の治療につき信州大学医学部形成外科を中心とした関連病院と協議を進める中で設置を検討</p>	<p>こども</p>	<p>A</p> <p>・漏斗胸センターにおいては、今年度漏斗胸専門外来受診総数は362人、新患40人、内県外患者が6人、CT外来受診者は65人であった。成人移行に症状が悪化した2名の治療を当院で行った。</p> <p>(課題)</p> <p>漏斗胸においては県内で治療を行える施設が減少している。また近年の傾向として漏斗胸変形による受診年齢が遅くなっており、そのため外科的治療の至適年齢を超えた段階での治療患者数が今年度は7名と増えた。漏斗胸は単なる形態的変形ではなく、内臓器への影響からの機能面での問題もあることがわかってきている。このような点からは同疾患に対し初診となる小児科等への啓蒙活動が必要と思われる。</p> <p>・血管奇形センターに関しては541件のレーザーによる治療を行った。その内34件が成人移行での照射であった。</p> <p>(課題)</p> <p>血管奇形は治療により根治する病態ではなく、特に四肢のものは成人移行での増悪も多い。そのため一生を通じての治療を要するが、血管奇形に対するレーザー機器が特殊であることから現在県内では治療可能な施設が当院と長野赤十字病院だけとなっている。対策として成人移行となった患者の照射治療においては当院外来での対応とし当院の機器を使用し実際の照射治療においては信州大学の担当医師が施行する形としている。</p>
51	<p>・成人移行期支援体制を確立、小児専門看護師による成人移行期支援看護外来を開設</p>	<p>こども</p>	<p>A</p> <p>・成人移行期支援看護外来への診療科の依頼は、ほぼ全診療科から受けている。また、一層の推進のために、4回/年、医局会にて事例報告(循環器小児科・血液腫瘍科・小児外科・総合小児科・看護部等)を計画し、毎月事例報告できている。</p> <p>・外来だけでなく患者・家族を中心に、病棟看護師・療育支援部・医師・リハビリ・薬局等、他の医療スタッフも含めたカンファレンスを行い、患者・家族の自立支援に向けた体制作りができています。</p>

52	<p>エ がん診療機能の向上 (信州医療センター、阿南病院、木曽病院、こども病院)</p> <p>がん診療機能の向上を図るため、各病院において以下のとおり取り組む。</p> <p>(ア) 信州医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんの早期発見・治療機能及び予防医療の充実、在宅復帰支援機能の強化を推進 (再)</li> <li>・内視鏡センターでは、上部、下部消化管及び肝胆膵、気管支等の内視鏡検査と治療を積極的に実施 (再)</li> <li>・須高地区の市町村等と連携した対策型胃内視鏡検診の実施 (再)</li> <li>・ピロリ菌外来、海外渡航者外来等の専門外来の利用促進 (再)</li> <li>・遺伝子検査室では、遺伝子解析装置を用いた遺伝子検査とその診断及び治療を推進 (再)</li> <li>・がん遺伝子の先端的検査体制を確立、オーダーメイドの治療</li> <li>・外来化学療法室並びに専任医師及びがん化学療法認定看護師の配置</li> <li>・がん診療における医科歯科連携の推進 (再)</li> </ul>	信州	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悪性腫瘍診断に寄与する遺伝子検査</li> <li>免疫遺伝子再構成検査 (PCR法：悪性リンパ腫関連疾患)</li> <li>JAK2遺伝子変異検査 (Q probe法：骨髄増殖性疾患)</li> <li>MYD88遺伝子変異検査 (allele specific PCR：悪性リンパ腫)</li> <li>BRAF遺伝子変異検査 (allele specific PCR：Hairy cell leukemia)</li> <li>EGFR遺伝子変異検査 (RTPCR法：肺がん)</li> <li>染色体検査 (FISH法：造血器腫瘍)</li> <li>・外部施設における造血器病理診断</li> </ul> <table border="1" data-bbox="958 568 2049 762"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>海南病院 (愛知県)</td> <td>423 件</td> </tr> <tr> <td>その他：上田医療センター、松本医療センター、伊那中央病院等 (長野県)</td> <td>22 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>信州大学医学部附属病院での造血器腫瘍診断 (平均10例/年間50回) および悪性リンパ腫症例コンサルテーション業務</p> <p>論文等</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Takeuchi M, Miyoshi H, Asano N, Yoshida N, Yamada K, Yanagida E, Moritsubo M, Nakata M, Umeno T, Suzuki T, Komaki S, Muta H, Furuta T, Seto M, Ohshima K. Human leukocyte antigen class II expression is a good prognostic factor of adult T-cell leukemia/lymphoma. Haematologica. 2019 Jan 10. [Epub ahead of print]</li> <li>2) Suzuki Y, Sakakibara A, Shimada K, Shimada S, Ishikawa E, Nakamura S, Kato S, Takahara T, Asano N, Satou A, Kohno K. Immune evasion-related extranodal large B-cell lymphoma: A report of six patients with neoplastic PD-L1-positive extranodal diffuse large B-cell lymphoma. Pathol Int. 2019 Jan;69(1):13-20</li> <li>3) Sakakibara A, Takahashi E, Ishikawa E, Kohno K, Asano N, Nakamura S. Neoplastic PD-L1 expression on interdigitating dendritic cell sarcoma: A supplementary study of a case</li> </ol>	病院名	件数	海南病院 (愛知県)	423 件	その他：上田医療センター、松本医療センター、伊那中央病院等 (長野県)	22 件
病院名	件数								
海南病院 (愛知県)	423 件								
その他：上田医療センター、松本医療センター、伊那中央病院等 (長野県)	22 件								

			<p>report. Pathol Int. 2018 Oct;68(10):577-578.</p> <p>4) Yamashita D, Shimada K, Takata K, Miyata-Takata T, Kohno K, Satou A, Sakakibara A, Nakamura S, Asano N, Kato S. Reappraisal of nodal Epstein-Barr Virus-negative cytotoxic T-cell lymphoma: Identification of indolent CD5+ diseases. Cancer Sci. 2018 Aug;109(8):2599-2610.</p> <p>5) Yamaguchi M, Suzuki R, Kim SJ, Ko YH, Oguchi M, Asano N, Miyazaki K, Terui Y, Kubota N, Maeda T, Kobayashi Y, Amaki J, Soejima T, Saito B, Shimoda E, Fukuhara N, Tsukamoto N, Shimada K, Choi I, Utsumi T, Ejima Y, Kim WS, Katayama N. Early disease progression in patients with localized natural killer/T-cell lymphoma treated with concurrent chemoradiotherapy. Cancer Sci. 2018 Jun;109(6):2056-2062.</p> <p>6) Sakakibara A, Kohno K, Kuroda N, Yorita K, Megahed NA, Eladl AE, Daroontum T, Ishikawa E, Suzuki Y, Shimada S, Nakaguro M, Shimoyama Y, Satou A, Kato S, Yatabe Y, Asano N, Nakamura S.</p> <p>Anaplastic variant of diffuse large B-cell lymphoma with hallmark cell appearance: Two cases highlighting a broad diversity in the diagnostics. Pathol Int. 2018 Apr;68(4):251-255.</p> <p>(課題) 悪性腫瘍・感染症領域における遺伝子検査を継続するとともに、さらなる先進的な取り組みを進めることで、広く社会の医療の質の向上に貢献していく。</p>																				
53	<p>(イ) 阿南病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・MRI、超音波診断装置等の検査機器の活用や、内視鏡検査による生検率の向上</li> <li>・「病理診断支援システム」を活用した、信州大学医学部附属病院との間での遠隔レポート通信による病理診断の迅速化及び質の向上</li> </ul>	阿南	<p>A</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>3,419件</td> <td>3,426件</td> <td>△7件</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>616件</td> <td>803件</td> <td>△187件</td> </tr> <tr> <td>超音波診断</td> <td>2,315件</td> <td>2,087件</td> <td>228件</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6,350件</td> <td>6,316件</td> <td>34件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・入院患者の減少によりCT及びMRIの件数は、昨年度より実績が減少したが、超音波診</p>	項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差	CT	3,419件	3,426件	△7件	MRI	616件	803件	△187件	超音波診断	2,315件	2,087件	228件	合計	6,350件	6,316件	34件
項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差																				
CT	3,419件	3,426件	△7件																				
MRI	616件	803件	△187件																				
超音波診断	2,315件	2,087件	228件																				
合計	6,350件	6,316件	34件																				

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療圏町村保健師と連携した婦人科健診受診率の向上、他院紹介状様式の標準化によるがん診療の病病連携の推進</li> <li>・がん患者リハビリテーションを精力的に実施</li> <li>・「がん登録等の推進に関する法律」に基づいた、原発性新生物の初回診断のケースファインディング（登録すべき腫瘍候補を漏れなく見つけ出す作業）の適切な対応</li> </ul>		<p>断については実績増となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓超音波検査、ポータブル超音波検査の依頼が増加した。（令和元年度実績 549件）</li> <li>・「病理診断支援システム」の活用により、短時間で病理検査結果報告が可能となり、病理診断の迅速化と患者サービスにつながった。</li> <li>・病理細胞検査（細胞診）が実施できる細胞検査士の資格を職員が取得したため、検査の迅速化、検査精度の向上、外部への検査委託経費の削減が図られた。</li> <li>・婦人特有のがん（乳癌、子宮頸癌）に関して、外科および婦人科で月2～3回の婦人科検診の実施を継続した。</li> </ul> <p>乳癌検診受診者数      平成30年度 449人 → 令和元年度 424人  子宮頸癌検診受診者数      平成30年度 423人 → 令和元年度 393人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「がん登録等の推進に関する法律」に基づき、引き続き原発性新生物の初回診断のケースファインディングを行った。</li> <li>・阿南町からCTによる肺がん検診の新規受託（29件実施） （課 題）</li> <li>・診療部及び医療技術部において、検査機器の有効利用について意識を高めるとともに外部機関との連携による有効利用の検討が必要。</li> <li>・検診スケジュールの調整や利便の向上により、キャンセル率を低下させ、乳癌検診、子宮頸癌検診の受診率をさらに向上させる。</li> </ul>
54	<p>(ウ) 木曽病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域がん診療病院として、がん患者の診療及び相談支援体制の充実（再）</li> <li>・信州大学医学部附属病院での症例検討会への参加及び、信州大学医学部附属病院との連携により、診療や職員への教育体制の維持</li> </ul>	木 曾	<p>S</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域がん診療病院としてがん相談支援センターへ専従職員1人を引き続き配置するとともに、患者サロンの毎月2回開催（うち1回は院内職員の講師によるミニ勉強会）、広報紙の発行（年2回）等、がんに関する相談・情報提供及び患者への支援体制の充実を図った。</li> <li>・緩和ケアチームに認定看護師を引き続き専従で配置するとともに、週1回院内ラウンドを実施した。</li> <li>・緩和ケア外来を設置し、週1回診療を実施するなど、診療体制を充実させた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん相談支援センターによる患者相談、情報提供を進め、がん予防、がん診療支援等の機能の充実</li> <li>・患者サロン等を定期的に開催することにより患者への支援</li> <li>・緩和ケアチームにおいて、認定看護師を専従配置、定期的な院内ラウンドを継続</li> <li>・がん患者に関する地域連携クリニカルパスの運用を継続、地域との連携を強化</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学医学部附属病院での症例検討会への定期的な参加及び信州大学がんセンターから派遣された教授による化学療法、放射線治療、緩和ケア等、病棟・外来での診療・職員への指導等、信州大学医学部附属病院との連携によりがん診療体制を強化した。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="958 331 2056 539"> <thead> <tr> <th>相談実績</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>平成30年度 実績</th> <th>前年との差</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん相談支援センター</td> <td>1,045件</td> <td>657件</td> <td>388件</td> <td>159.1%</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>211件</td> <td>192件</td> <td>19件</td> <td>109.9%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんチャリティーイベント「リレーフォーライフジャパン松本」にチームとして参加、又地域のイベントに出前病院として参加し、がん相談支援センターのブースを設置する等、地域がん診療病院としてのアピールを図った。</li> </ul>	相談実績	令和元年度 実績	平成30年度 実績	前年との差	対前年度比	がん相談支援センター	1,045件	657件	388件	159.1%	緩和ケアチーム	211件	192件	19件	109.9%
相談実績	令和元年度 実績	平成30年度 実績	前年との差	対前年度比														
がん相談支援センター	1,045件	657件	388件	159.1%														
緩和ケアチーム	211件	192件	19件	109.9%														
55	<p>(エ) こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学医学部附属病院小児科、信州がんセンター及び相澤病院（陽子線センター、ガンマナイフセンター）と連携し、小児血液及び固形腫瘍における診療体制を強化、白血病における微小残存病変検出法の導入及び新規検出法の開発を信州大学医学部附属病院と共同で実施するなど、患者のニーズに応じた最先端の質の高い診断と医療及び情報の提供</li> <li>・小児に特化した緩和ケアチーム活動の推進、地域病院と連携して、緩和ケア医療の提供</li> <li>・小児がん経験者のための長期フォローアップ外来の実施</li> </ul>	こども	S <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県内で発症するすべての固形腫瘍の診療を行い、臨床研究法に基づく臨床研究に積極的に参加した。また県外の施設で行われる新規薬剤の治験の紹介も積極的に行った。</li> <li>・令和元年11月1日に小児がん連携病院の指定を受けた。</li> <li>・次世代シーケンサーを用いた白血病の微小残存病変検出法を開発し、学会発表を行い、論文化を進めている。</li> <li>・緩和ケアチームが病棟を定期的にラウンドし、緩和ケアの実施を症例ごと具体的に検討する体制となった。さらに在宅を希望する患者および家族に地域病院と連携して医療の提供を行える体制を構築した。</li> <li>・陽子線治療においては相澤病院と連携して治療を行える体制を構築した。</li> <li>・小児がん治療に伴う卵巣機能不全に対して、諏訪マタニティークリニックと連携し、生殖機能温存を目的とした卵巣組織などの凍結・保存が可能となり、体制を整備した。</li> <li>・小児がんサバイバーに対する18歳以上を対象とした長期フォローアップ外来を開設し、これまで46名の受診があった。問題に応じて成人科への紹介を行なった。</li> <li>・小児がん経験者のための就労支援をハローワークと連携し、開始した。</li> </ul>															

	・相談支援センター機能の強化、がん患者リハビリテーションの開始			
--	---------------------------------	--	--	--

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供

(4) 災害医療などの提供

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

こころの医療センター駒ヶ根では、県内唯一の DPAT（災害派遣精神医療チーム）の登録機関として体制整備を進め、国の大規模地震時医療活動訓練に参加した。10月に発生した台風19号災害への対応のため、長野県の要請を受けて県北部へチーム員5名を派遣し、避難所の巡回などスクリーニングと避難者のケアを実施した。また、2月には、新型コロナウイルス感染症対応のため、厚生労働省の要請を受けてチーム員4名を関東地方に派遣し、帰国者の健康観察等を実施した。

木曾病院では、10月に発生した台風第19号災害の被災地（長野市）に DMAT（災害派遣医療チーム）隊を派遣した。

新型コロナウイルス感染症に対しては、本部事務局及び病院に対策本部を設置し、機構内及び県・関係機関等との連携調整により、感染患者等に対して適切な医療の提供を行うとともに、県立病院として率先して県の感染症対策に協力した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 1(4)	ア 災害医療の提供	信州	A	・4月3日 新規採用職員及び異動職員向けに防災についてのオリエンテーションを実施。

1	<p>災害が発生した場合、各病院は長野県地域防災計画に基づいて適切な医療活動を行う。</p> <p>また、木曾病院のDMA T（災害派遣医療チーム）は、直ちに被災地に出動して救命救急処置等を行う。</p> <p>こころの医療センター駒ヶ根は、県の要請に基づきDPAT（災害派遣精神医療チーム）を直ちに派遣する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月25日 非常用連絡網メール配信システム「オクレンジャー」を使用し、全職員及び委託業者を対象とした非常招集及び伝達訓練（夜間想定）を実施。</li> <li>・8月29日 須坂市消防本部の指導のもと、南棟2階から出火し、南3階病棟の患者を避難させる想定で、地域住民（立町、東横町）も参加した総合消防・防災訓練を実施した。</li> <li>・台風19号により被災した病院等（県総合リハビリテーションセンター、旧豊野病院関連施設）から21名の患者を受け入れた。</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より実際に即した連絡体制、訓練方法、災害対策マニュアル及びBCPの見直しを検討する必要がある。</li> </ul>
2	同上	駒ヶ根	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DPAT（災害派遣精神医療チーム）の体制整備を進め、チーム員を増員した。（令和元年度25名、平成30年度20名）</li> <li>・10月に発生した台風19号災害への対応のため、長野県の要請を受けて県北部へチーム員5名を派遣し、避難所の巡回などスクリーニングと避難者のケアを実施した。</li> <li>・2月には、新型コロナウイルス感染症対応のため、厚生労働省の要請を受けてチーム員4名を関東地方に派遣し、帰国者の健康観察等を実施した。</li> </ul>
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月10日に阿南消防署等と合同で災害等医療救護訓練を実施し、多数傷病者発生等のトリアージ訓練を行った。</li> </ul> <p>当院 26名、消防署 30名、地元消防団 35名 参加</p>
4	同上	木曾	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員を対象に非常用連絡メール配信システム「オクレンジャー」の送信訓練を行った。（5月）</li> <li>・当院職員を対象とした、木曾広域消防本部及び地元地区等の協力を得た院内総合防災訓練を8月に実施し、災害発生時の傷病者受け入れ態勢の強化を行った。</li> <li>・災害現場で適切な救命救急処置等を行うため、8月に木祖村において開催された木曾地区災害時医療救護訓練にDMA T（災害派遣医療チーム）の隊員が参加し、大規模災害発生時の初動体制及び関係機関との連絡連携体制の確認を行い、災害時に対する体制強</li> </ul>

			<p>化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月に大阪医療センターで行われた日本DMAT養成研修に1名、9月に名古屋医療センターで行われた技能維持研修に3名、11月に伊那中央病院で行われた長野県DMAT養成研修に4名、2月に陸上自衛隊木更津駐屯地で行われた自衛隊航空機を使用したDMAT広域医療搬送実機研修に4名参加した。</li> <li>・ 10月に発生した台風第19号災害の被災地（長野市）にDMAT1隊を派遣した。</li> </ul>
5	同上	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月3日に新任職員を対象とした消火訓練の実施、避難経路の確認を行った。</li> <li>・ 9月27日に総合防災訓練を実施し、病院全体で火災発生時の自衛消防隊の対応について訓練した。また、豊科消防署の協力により、煙道訓練及び消火訓練を実施した。</li> <li>・ 災害時に使用するための防災物品を順次整備している。</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内外の医療機関との災害時の協力に関する協定の締結。</li> </ul>
6		本部	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長野県立病院機構新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、情報収集、各病院・関係機関との連絡調整、医療器械等の導入支援等、各病院が円滑に業務を継続できるよう取り組んだ。</li> </ul>
7	<p>イ 防災対策</p> <p>災害に備えるため、以下の事項について重点的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災担当者会議の開催などにより、「事業継続計画（BCP）」及び「災害時の対応マニュアル」等の課題整理や共有化</li> </ul>	信州	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月に南棟2階からの出火を想定した総合消防・防災訓練を実施した。合わせて、「非常用連絡網メール配信システム」による非常招集訓練も実施し、夜間における非常招集内容の伝達訓練及び災害時における職員の登院時間の把握、データ収集を行った。また、併せて大規模停電が発生した想定で、実際に自宅から登院しての大規模災害訓練を実施し参加職員の実際の登院方法や時間について把握することができた。</li> <li>・ 災害時に備えるため医薬、材料、食糧をそれぞれ3日分程度備蓄しており、見直しと期限切れの水の購入を行った。</li> <li>・ 1台保有している衛星携帯電話の維持管理のため、トレーニングを兼ねた動作チェックを定期的に行っている。</li> <li>・ 「非常用連絡網メール配信システム」がいつでも利用できるよう、登録者及び発信者の</li> </ul>

				<p>管理を行い、体制の整備に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災関連用品の整備を行った。</li> <li>・大規模地震発生に備えて、院内の棚やロッカーの転倒防止対策について検討を進めている。</li> <li>・近隣病院との災害時における相互の患者受け入れについての協約書の締結（平成16年度から継続）</li> </ul> <p>（課 題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模地震発生時に備えた院内の棚やロッカーの耐震対策</li> <li>・「非常用連絡網メール配信システム」オクレンジャーの維持管理及び運用</li> <li>・災害対策マニュアルやBCPの継続的な見直し</li> <li>・停電発生時の自家発電設備等院内設備の運用・維持管理、災害時の飲用水やトイレ等の確保</li> <li>・台風19号による災害を受け、様々な状況を想定したBCP（特に受入体制）についての検討</li> </ul>
8	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉メール送信システムを利用して、6月に全職員対象に非常参集訓練を行った。</li> <li>・消火栓取扱訓練、火災を想定した避難訓練及び消火器の取扱い訓練を実施した。</li> <li>・山梨県立北病院との「災害時等における相互支援に関する協定」に基づき、当院において担当者会議を開催して連携を強化した。</li> </ul>
9	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院消防防災計画に基づき、災害用の医薬品等を備蓄の実施。</li> <li>・土砂災害防止に係る避難確保計画についてBCPワーキンググループで検討を行い、消防防災計画に追加記載する内容で防災対策委員会において計画策定した。</li> </ul>
10	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度実施した院内総合防災訓練の結果を基に、災害対応マニュアルの改訂を行い、災害発生時の傷病者受け入れ体制の強化を行った。</li> <li>・全職員を対象に非常用連絡メール「オクレンジャー」の送信訓練を行った。（5月）</li> </ul>
11	同上	こ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月27日に総合防災訓練を実施し、各部署のアクションカードの見直しを行った。また、</li> </ul>

		ども		<p>大規模災害時の対応マニュアルについての整備を継続している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月16日にエマルゴトレーニングを実施し、各部署から35名が参加した。ファシリテーター5名の指導により、大地震発生時における多数の傷病者受け入れをシナリオに災害対策マニュアルの検証を行った。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業継続計画（BCP）を検証する必要がある。</li> <li>・防災テントの整備を行う。</li> <li>・トリアージ訓練の継続的な実施。</li> </ul>
12	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本部事務局BCPの見直し（計画発動基準、対策本部設置基準、非常時優先業務の整理等）を実施した。</li> <li>・今後の防災対策に取り組むための資料収集（自家発電装置、食料・水の備蓄、電源設備の設置状況等）を行った。</li> <li>・県外における災害による診療継続不能情報を各病院と共有・注意喚起した。</li> </ul>
13	・大規模災害時に必要な最低限の電子カルテ情報のバックアップシステムの構築	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子カルテ更新時に、画像を除く各システムバックアップ及びSS-MIX2標準化ストレージを院内バックアップサーバ及び院外データセンターにバックアップを保存することとした。</li> <li>・SS-MIX2標準化ストレージのオフライン参照用端末を用意し、停電時でも参照できるよう大容量バッテリーを搭載した。</li> </ul>
14	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子カルテにおいて、院内サーバ、外部データセンター及び長時間バッテリーを搭載した専用パソコンによるバックアップシステムを導入し、災害時の体制を整えた。</li> </ul>
15	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年1月より電子カルテ等委員会を設置し、その中でバックアップシステムの構築の検討を開始した。</li> </ul>
16	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業者にシステム提案と見積の提出を依頼し、検討を行った。</li> </ul>

17	同上	こども	A	・「長野県立こども病院災害時電子カルテ継続運用マニュアル」を策定して、災害時用BCP専用端末を、北・南外来、第4病棟、NICU,PICUへ5台設置した。
18	・第一種・第二種感染症指定医療機関として、新型インフルエンザ等感染症の集団発生等に適切な対応ができるよう、定期的に「患者受入訓練」を実施（信州）（再）	信州	A	・参照（p.23-No.2）
19	・地域の医療機関などと協働で感染症発生時の地域行動計画の策定に参画（信州）（再）	信州	A	・参照（p.23-No.3）
20	県と連携して感染症の発生予防・まん延防止などの感染症対策を推進（信州）（再）	信州	A	・参照（p.25-No.7）
21	県民の感染症予防等の知識を高めるため、出前講座等による啓発活動の実施（信州）	信州	A	・感染症の知識を高める啓発活動として、出前講座や医療関係者の研修会等の講師を行った。
22	D P A T（災害派遣精神医療チーム）は、災害時の精神医療活動を適切に行うため、定期的に研修及び訓練に参加（ここ駒）	駒ヶ根	A	・院内研修を5回開催した。 ・9月には内閣府による大規模地震時医療活動訓練（都心南部直下地震を想定）に4名のチーム員が参加した。（2日間） ・DPAT先遣隊の研修に3名が参加した。
23	・災害拠点病院として、災害時における安定的かつ継続的な医療を提供（木曽）	木曽	A	・災害時対応マニュアルに必要な機材等の保管位置・数量を表示するとともに数量の確認、整理を行い災害時の対応に備えた。
24	・木曽病院のDMA T（災害派遣医療チーム）は、災害現場で適切な救命救急処置等を行うため、定期的に技能維持研修に参加、各行政機関・病院が実施する研修・訓練に参加するとともに、木曽地区災害時医療救護訓練	木曽	A	・全職員を対象に非常用連絡メール配信システム「オクレンジャー」の送信訓練を行った。（5月） ・当院職員を対象とした、木曽広域消防本部及び地元地区等の協力を得た院内総合防災訓練を8月に実施し、災害発生時の傷病者受け入れ態勢の強化を行った。 ・災害現場で適切な救命救急処置等を行うため、8月に木祖村において開催された木曽地区災害時医療救護訓練にDMA T（災害派遣医療チーム）の隊員が参加し、大規模災害

	に参加し、関係機関との連絡・連携体制の確認（木曽）			<p>発生時の初動体制及び関係機関との連絡連携体制の確認を行い、災害時に対する体制強化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月に大阪医療センターで行われた日本DMAT養成研修に1名、9月に名古屋医療センターで行われた技能維持研修に3名、11月に伊那中央病院で行われた長野県DMAT養成研修に4名、2月に陸上自衛隊木更津駐屯地で行われた自衛隊航空機を使用したDMAT広域医療搬送実機研修に4名参加した。</li> <li>・ 参照（p.46-No.4）</li> </ul>
25	・ 地域との援助協定、近隣薬局との防災協定の継続、消防署等の関係機関との大規模災害医療救護訓練等の継続的な実施やアクションカードやマニュアルの見直し、職員研修会の実施（阿南）	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成20年に阿南町北條御供地区と締結した相互援助協定及び、平成25年に災害時の医薬品等の提供に関して近隣薬局と締結した協定を継続し、災害時に医薬品を安定供給できる体制を確保している。</li> <li>・ 阿南消防署との合同トリアージ訓練の反省から、災害対策本部及びトリアージに関するアクションカードの見直しを行い、災害時の対応に備えた。</li> </ul>

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供

(5) 医療におけるICT（情報通信技術）化の推進

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州メディカルネットによる電子カルテの相互参照に取組み、効率的な医療連携や質の高い医療サービスを提供した。

テレビ会議システムの活用方法として、新型コロナウイルス感染症対策としての密集・密閉・密接回避のための会議開催や病院間における技術指導及び研修会等を行った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 1(5) 1	ア 県立病院間等を結んだネットワークシステムを活用した連携強化 ・県立病院及び信州大学医学部附属病院との間で、高画質診療支援ネットワークシステムを利用して、多地点連結医療従事者カンファレンスや各種研修会などにも活用	木曾	A	・信州大学とのカンファレンスに、小児科医師が参加した。

2	同上	こども	A	・県立病院に導入されているテレビ会議システムを利用して、信州医療センターへ小児の理学療法に係る技術指導を行った。
3	同上	本部	A	・テレビ会議システムについては、病院の担当者を参集する日程の調整が難しい各種担当者会議において、積極的な活用を図った。特に新型コロナウイルス感染症緊急事態制限が発出されてからは密集・密閉・密接を回避するために有効活用している。
4	・「信州メディカルネット」を活用した電子カルテの相互参照による情報の共有化を図るため、引き続き県内医療機関などとの間での診療体制の連携	信州	A	・信州メディカルネットは、平成31年1月の新電子カルテ運用開始に伴い、未接続とした。それに代わるものとして、須高地域の医療機関との連携を強化し、診療情報を共有するID-Linkを利用した「須高医療連携ネットワーク」の運用について、須高医師会と協議・検討を行い、仕組みを構築した。
5	同上	駒ヶ根	A	・昭和伊南総合病院や伊那中央病院等と電子カルテの相互参照を行うことで迅速な診療に役立てた。(令和元年度31件、平成30年度43件)
6	同上	阿南	A	・電子カルテ相互参照 院内医療情報システムと「信州メディカルネット」の接続を行い、「信州メディカルネット」を利用した相互データ参照・公開を行っている。また、飯田下伊那圏域での地域連携ネットワーク (Ism-Link) による閲覧も実施。 (令和元年度実績 9件、平成30年度実績 14件) (課 題) ・「信州メディカルネット」が、飯田下伊那圏域での地域連携ネットワーク (Ism-Link) との併行運用となっているため圏域内での相互参照には使いづらく、電子カルテの更新時に再度情報の共有化の運用について検討する。
7	同上	木曾	A	・信州メディカルネットを活用した医療機関同士の電子カルテデータの相互参照により、医療連携が強化された。(令和元年度5件)
8	同上	こ	A	・患者情報の共有化による効率的な医療連携、医療資源の有効活用、安全で質の高い医療

		ども		サービスの提供などを目的に構築された電子カルテの相互参照システムについては、信州大学医学部附属病院、長野赤十字病院、諏訪赤十字病院、県立阿南病院、信州上田医療センター、県立木曽病院と協定を締結している。 ・この協定に基づき、27件のカルテ公開をしており、内訳は相互参照件数18件、提供のみ8件、参照のみ1件となっている。
9	同上	本部	A	・「信州メディカルネット」の運用のため運営委員会へ参加した。
10	イ 電子化の推進 電子カルテシステムの更新後、以下の新しい機能の適切な運用を図る。(信州) ・ B C P対策 ・ 地域医療連携対応 (エイルシステム)	信州	A	・平成31年1月より新電子カルテが稼働し、須高在宅ネットワーク(エイル)とID-Linkにより診療情報を連携する仕組みを構築した。
11	電子カルテシステム更新に向けてプロジェクト会議により検討し、準備を進める。(阿南)	阿南	A	(業務の実績) ・平成31年1月より電子カルテ等委員会を設置し、システム更新に関する検討を開始。 (令和元年度 3回開催 他各科との打ち合わせ実施)
12	イ 電子化の推進	本部	A	・第3期中期計画期間で導入を目指し、訪問診療等における遠隔診療やモバイル端末による医療従事者間の情報共有等の先端技術の活用について具体的に検討を開始。

## 第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

### 2 地域における連携とネットワークの構築による医療機能の向上

#### (1) 地域の医療、保健、福祉関係機関などとの連携

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

県立病院の持つ医療機能を効率的・効果的に提供するため、地域の関係機関と連携し在宅医療に積極的に取組むとともに、地域の医療機関との連携、機能分担を進めた。また、信州メディカルネットを活用した電子カルテの相互参照により、各病院において迅速な診療に役立てた。

信州医療センターでは、こども病院の理学療法士1名の派遣（5月から10月まで1回/月）を受けて小児発達評価外来を開始し、乳幼児の小児発達評価及び継続した運動発達リハビリテーションを実施した。

本部研修センターでは、伊那中央病院と連携してシミュレーション教育指導スキルアップ研修（シリーズ①～③）を年6回開催するなど、基本的な診療等の実践的なトレーニングが行えるスキルラボを活用したより質の高いシミュレーション研修を機構職員及び地域医療機関等の職員に提供した。

各病院が地域の関係機関と連携し、幅広い分野で県立病院が持つノウハウを提供するとともに、市町村等が行う母子保健や予防医療への支援を行った。

信州医療センター、阿南病院及び木曽病院では、人間ドックや各種検診の充実を図るとともに広報活動にも力を入れ、地域における予防医療を推進した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績	
		病	評
			取組結果及び取組の効果

		院	定	
第1 2(1) 1	ア 地域の医療機関との連携 ・信州メディカルネットを活用した電子カルテの相互参照を推進、地域連携クリニカルパスの作成・活用、地域の医療機関と連携し、患者の紹介、逆紹介を積極的に実施 ・子どもの発達障がいに対し、長野県、信州大学医学部、こころの医療センター駒ヶ根、こども病院などと連携し、診療専門医・診療医の育成や診療体制整備の継続、原因や発症機序の解明などの研究・協力体制に向けた検討	信 州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・須高地域の医療機関、介護施設及び住民と活発に交流し、地域の中核病院としてソフト面、ハード面共に貢献している。</li> <li>・須高医師会が開設する須高休日緊急診療室を当院内で実施している。</li> <li>・産婦人科では、近隣診療所の急な休診に伴う地域の医療供給体制の低下を防止するため、受入態勢を整備し子宮がん検診等の患者を受け入れた。</li> <li>・近隣の医療機関、介護施設、行政機関など82か所の訪問活動を実施した。</li> <li>・研修会・会議の開催や意見交換等により須高地域の医療機関、介護施設、行政機関等と連携を図った。</li> <li>・地域医療福祉連携室に社会福祉士資格を取得している職員4人を配置している。</li> <li>・地域医療福祉連携室において、セカンドオピニオン体制を維持した。</li> <li>・令和元年5月から、こども病院理学療法士1名の派遣（1回/月）を受け小児発達評価外来を開始した。（派遣期間は5月から10月まで）</li> <li>・須高地域リハビリテーション連絡会をとおして須高地域のリハ職種との連携を強化した。</li> </ul>
2	同上	阿 南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村、南信州広域連合で構築を進めている地域包括ケアシステムへの支援について、医療・介護関係者の情報共有化を図るため、阿南病院の電子カルテ情報と、阿南病院を中核とした阿南町地域医療介護連携システムの在宅患者等の要支援者見守り情報との統合をモデル的に構築し、引き続き、地域での運用に向け登録者の拡大を図った。患者・利用者の療養、体調の変化、服薬状況、食事・排泄・家屋の状況などの医療と介護の情報を共有でき、連携機能の強化が図られる。</li> <li>（電子カルテ情報の公開：0件、介護情報の公開閲覧：39件、システム登録者：36件）</li> <li>・子どもの発達障がい診療医の育成のため、小児科医が研修を受講し、今後の診療体制の充実を図った。</li> </ul>
3	同上	木	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郡内医療機関からの紹介患者に関する合同症例検討会を開催する（年1回実施）など、</li> </ul>

		曾	<p>当院の状況を積極的に公開し、連携体制の強化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木曾広域連合から運営を委託された「在宅医療・介護連携支援センター」により、郡内各関係機関の情報共有や共通課題の解決を図り、地域包括ケアシステムの中核的役割を果たした。</li> </ul>
4	同上	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療支援病院の指定を受け、133の医療機関、175人の医師に登録いただいている。（1件1名閉院）また、本年度は新たに歯科医院64件、75名の歯科医師に登録いただいた。</li> <li>・登録医との関係を深め、地域医療連携がスムーズに行われることを目的として研修会を1回開催した。また機器の共同利用は103件だった。</li> <li>・信州大学医学部子どもこころの発達医学教室の連携病院として、研修中の医師が行う陪席実習を受け入れ、長野県の発達障害専門医・診療医の育成に協力した。同時に、当院の職員にも研修させ、人材育成に貢献した。信州大学と、こころの医療センター駒ヶ根と3施設が連携してこどもの心の拠点事業に参加し、県内の発達障がい及び児童精神領域の疾患の診療体制作りに貢献した。</li> </ul>
5	「須高在宅ネットワーク」等に積極的に参加（信州） 地域包括ケア病棟では、急性期病院との連携のほか、慢性期対応病院や介護施設及び訪問看護ステーション等と連携（信州）	信州	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シダトレン脱感作療法連携パスの運用を引き続き継続した。</li> <li>・エビペンパスについても、平成27年度より使用を開始し、展開している。</li> <li>・須高地区介護施設との定例会議を9月に開催し、相談員、施設のケアマネジャーと連携を図った。</li> <li>・須崎市高齢者福祉課、包括支援センターとの合同会議を5回開催し、地域ニーズに対する意見交換を実施した。</li> <li>・「医療と介護の連携推進協議会」のメンバーとして、ケアマネジャーなどの介護関係者との研修会を開催した。</li> <li>・須高地域医療福祉推進協議会では、「リビング・ウィルってなあに？」をテーマとした講演会と多職種研修会（2回）を開催し、意見交換を行った。</li> <li>・地域の病院、診療所、訪問看護ステーション及び行政でつくる「須高在宅ネットワー</li> </ul>

			<p>ク」に参加し「地域みんなで支える在宅医療」の実現に寄与した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・須高医師会、須高歯科医師会、須高薬剤師会等と組織する「第4回須高地区手をつなごう会」を11月に開催し、台風被害の影響が残る中、参加者は71名に上った。当院渡邊医師による講演「腰椎疾患の診断と治療」を行うとともに、介護ロボットHALを紹介し参加者が体験した。</li> </ul>
6	<p>入院から退院後まで質の高い支援が図られるように病院、診療所及び市町村・福祉施設との連携機能強化及び院内における相談機能を充実、入院時、退院時には原則精神保健福祉士が関わり一貫した支援を実施（ここ駒）（再）</p> <p>地域の精神科クリニックとの情報交換を行うなど連携体制を強化（ここ駒）</p> <p>上伊那圏域の保健・福祉・医療等関係機関で進める「認知症ケアパス」（地域連携パス）への参加（ここ駒）（再）</p>	駒ヶ根	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院後速やかに多職種により地域関係者及び家族と支援会議を行い、退院後の地域生活について検討を行った。</li> <li>・医療機関及び退院後の受入先との連携を図るため、病院や地域の診療所及び退院後に入居する福祉施設等の訪問を行った。（訪問件数：病院・診療所9件、福祉施設4件）</li> <li>・地域支援者の状況、福祉制度利用状況、入院及び退院時の課題などについてのアセスメントを実施し、地域生活へのスムーズな移行、施設での生活維持に向けた支援を行った。</li> <li>・参照（p.30-No.24）</li> <li>・クリニック等との連携強化を進めるため、上伊那地域全ての精神科医療機関（2病院、4クリニック）への訪問等により打ち合わせを行った。</li> <li>・参照（p.17-No.2）</li> </ul>
7	<p>信州メディカルネットを利用した病診連携等の有効活用、飯田市立病院を中心にした「がん診療連携パス」などによる連携、大腿骨骨折術後連携パスの新たな運用（阿南）</p> <p>J A 歯科診療所の歯科医師の訪問診療による嚥下機能検査（VE）を引き続き実施、医師・言語聴覚士等の入院患者の食事形態の判断による嚥下機能の改善（阿南）</p>	阿南	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子カルテ相互参照</li> <li>院内医療情報システムと「信州メディカルネット」の接続を行い、平成26年9月から「信州メディカルネット」を利用した相互データ参照・公開を開始した。（平成30年度実績：26件 令和元年度実績：15件）また、飯田下伊那圏域での地域連携ネットワーク（Ism-Link）による閲覧も実施。（平成30年度実績：14件 令和元年度実績：9件）</li> <li>・地域連携クリニカルパス</li> </ul> <p>がん連携診療指導料の施設基準に基づいて連携パスを活用し、がんの二次診療において、乳がんでの地域連携パスの適応症例があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非算定ではあるが、大腿骨頸部近位部骨折クリニカルパスの運用が5件あった。</li> </ul>

	診療案内を作成し、関係医療機関へ PR し、検査機器の活用の検討（阿南）			<p>（平成30年度実績：15件 令和元年度実績：24件 大腿骨頸部近位部骨折クリニカルパス 5件）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ J Aみなみ信州阿南歯科診療所と連携し、入院患者の嚥下機能の評価のため、診療所の歯科医の訪問診療により内視鏡的嚥下機能検査（VE）を実施した。（令和元年度実績 17件）</li> </ul> <p>（課 題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「信州メディカルネット」が、飯田下伊那圏域での地域連携ネットワーク(Ism-Link) との併行運用となっているため圏域内での相互参照には使いづらいので電子カルテの更新時に再度情報の共有化の運用について検討する。</li> <li>・非算定ではあるが、大腿骨頸部近位部骨折クリニカルパスの運用が1件あり、今後施設基準を満たした場合の体制を各部署と検討していく。</li> </ul>
8	<p>患者サポートセンターを中心に病院・地域連携会議を開催し、地域の医療・介護・福祉施設等と連携（木曽）（再）</p> <p>入退院調整及び相談支援等について、専任の職員を配置（木曽）（再）</p> <p>がん患者に関する地域連携クリニカルパスの運用を継続、地域との連携を強化（木曽）（再）</p>	木 曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者サポートセンターを中心に、地域の医療・介護・福祉施設等との連携、退院調整、相談支援等の実施体制を充実させた。</li> <li>・地域包括支援センター担当者会議に毎月出席し、介護の理解を深めるなど連携強化を図った。</li> <li>・病院・地域連携連絡会議（2ヶ月に1回）、病院・町村地域包括ケア推進会議（2町各1回、1町2回）、木曽広域連合 福祉・保健医療懇談会（年2回）、木曽医師会研修会等への参加を通じ、地域の関係機関との連携を図った。なお、3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。</li> </ul>
9	県及び信州大学医学部附属病院等と連携し、地域産科・周産期施設との出生前心臓診断ネットワーク（先天性心疾患スクリーニングネットワーク）の構築、インターネットも活用した地域拠点病院間の画像診断データを用いた遠隔診断を推進（長野赤十字病院と病	こ ど も	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.33-No.34）</li> <li>・口唇口蓋裂センターとしては、毎週金曜日をチーム医療の専門外来として位置付け、長野県内外から口唇口蓋裂患者の診療を行った。また松本歯科大学矯正歯科との合同カンファレンスを計3回開催し、顎裂骨移植患者を始め、顔面骨骨切り患者の治療プラン等につき検討した。12月8日には上田市の創造館にて県内外患者およびその家族、言語聴覚士、ことばの教室を担当される教師らを対象とした市民公開講座を開催し約85名の参加</li> </ul>

	<p>院間契約に基づいて胎児遠隔診断を開始) (こども) (再)</p> <p>口唇口蓋裂センターは、信州大学医学部附属病院、松本歯科大学病院とで構成する多施設間協力型センターを運営 (こども)</p> <p>発達障がい専門外来の円滑な運用を図るための連携強化 (こども)</p> <p>在宅患者に対応するため訪問診療体制の強化を検討 (こども)</p>			<p>者があった。”これからの治療を、どのように進めていくのかを事前に知ることが出来た。形成外科での治療、言語のリハビリだけでなく歯科矯正の必要性など、かなり長期にわたる治療が必要である事を初めて知りました。”治療スケジュールを各分野の先生から聞け、再確認できた。”などの声が聞かれた。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPを充実させる(当院で行っているSTカンファレンスやセンター医師の学会発表などの情報をアップする等)</li> <li>・長野県内での唇顎口蓋裂患児の治療とフォロー体制についてのさらなる周知を行う。</li> <li>・地域の言語聴覚士、矯正歯科医との連携を密に図るための連絡方法の確立が必要。</li> <li>・発達障がい専門外来では97人の診察を行い、行政・保育・教育からの診察同席者は25人、診察後の地域医療機関への紹介は28件であった。発達障がいに係る支援者育成のため、小学校教諭を対象とした研修会を1回開催し、29人が参加した。</li> <li>・人工呼吸器を使うなどの医療的ケアが必要な在宅患者に対応するため、訪問診療センターを開設し、10月から訪問診療を開始した。</li> </ul>								
10	<p>シミュレーション教育に取り組む県内の医療機関等と連携し、より質の高い研修を機構職員及び地域医療機関等の職員に提供 (研セ)</p>	本部	A	<p>・伊那中央病院と連携し、ハワイ大学医学部SimTiki研修修了者及び長野県内医療機関等でシミュレーション教育に関心のある職員等を対象とした、シミュレーション教育指導スキルアップシリーズ①～③を北信・南信2会場で計6回開催し、18施設から延べ138人が参加した。</p> <p>スキルアップシリーズ① 45人          スキルアップシリーズ② 47人          スキルアップシリーズ③ 46人</p> <p>【新規参加施設】          清泉女学院大学</p>								
11	<p>紹介率及び逆紹介率 (信州医療センター)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:15%;">区分</td> <td style="width:25%;">H29実績</td> <td style="width:25%;">R1目標</td> </tr> </table>	区分	H29実績	R1目標	信州	B	<p>・紹介率及び逆紹介率 (信州医療センター)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:15%;">区分</td> <td style="width:15%;">令和元年度目標</td> <td style="width:15%;">令和元年度実績</td> <td style="width:15%;">平成30年度実績</td> <td style="width:15%;">目標との差</td> </tr> </table>	区分	令和元年度目標	令和元年度実績	平成30年度実績	目標との差
区分	H29実績	R1目標										
区分	令和元年度目標	令和元年度実績	平成30年度実績	目標との差								

	紹介率	59.4%	59.4%			紹介率	59.4%	66.2%	59.6%	6.8%
	逆紹介率	15.7%	16.7%			逆紹介率	16.7%	13.0%	15.4%	△3.7%
	※紹介率、逆紹介率は全国自治体病院協議会方式にて算定					※紹介率、逆紹介率は全国自治体病院協議会方式にて算定				
12	紹介率及び逆紹介率 (こころの医療センター駒ヶ根)			駒 ヶ 根	A	・紹介率及び逆紹介率(こころの医療センター駒ヶ根)				
	区分	H29実績	R1目標			区分	令和元年度目標	令和元年度実績	平成30年度実績	目標との差
	紹介率	48.2%	%			紹介率	-%	52.5%	51.5%	-%
	逆紹介率	43.3%	%			逆紹介率	-%	38.1%	51.7%	-%
						※平成30年度の逆紹介率が高いのは地域クリニック開設による紹介のため				
13	紹介率及び逆紹介率(阿南病院)			阿 南	A	・紹介率及び逆紹介率(阿南病院)				
	区分	H29実績	R1目標			区分	令和元年度目標	令和元年度実績	平成30年度実績	目標との差
	紹介率	18.8%	20.0%			紹介率	20.0%	22.5%	20.3%	2.5%
	逆紹介率	14.1%	15.0%			逆紹介率	15.0%	15.3%	13.0%	0.3%
14	紹介率及び逆紹介率(木曽病院)			木 曽	A	・紹介率及び逆紹介率(木曽病院)				
	区分	H29実績	R1目標			区分	令和元年度目標	令和元年度実績	平成30年度実績	目標との差
	紹介率	24.6%	25.0%			紹介率	25.0%	28.1%	27.0%	3.1%
	逆紹介率	17.1%	17.0%			逆紹介率	17.0%	21.5%	18.1%	4.5%
15	紹介率及び逆紹介率(こども病院)			こ ど も	B	・紹介率及び逆紹介率(こども病院)				
	区分	H29実績	R1目標			区分	令和元年度目標	令和元年度実績	平成30年度実績	目標との差
	紹介率	77.0%	77.0%			紹介率	77.0%	75.4%	73.2%	△1.6%
	逆紹介率	80.7%	80.0%			逆紹介率	80.0%	75.1%	73.9%	△4.6%
						・上記は地域医療支援病院認定要件を満たしている。				

16	イ 地域の医療機関への支援 以下のとおり地域医療機関等への支援を行う。 ・高度医療機器の共同利用（信州、こども）	信州	A	・高度医療機器の共同利用			
				項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差
				CT	326件	326件	0件
				MR I	218件	170件	48件
				内視鏡	548件	607件	△59件
				その他（超音波、脳波等）	63件	52件	11件
合計	1,155件	1,155件	0件				
17	同上	こども	A	・高度医療機器の共同利用			
				項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差
				リニアック	65件	63件	2件
				CT	0件	3件	△3件
				MR I	5件	6件	△1件
				3Dモデル造形	22件	17件	5件
				R I	11件	2件	9件
合計	103件	91件	12件				
18	・出前講座や研究会等への職員派遣（信州、ここ駒）	信州	A	・出前講座を55回開催し2,779人が聴講した。（平成30年度 54回 3,218人） ・地域医療福祉連携室及び在宅診療運営委員会が中心となって、地域の行政と共催で年間10回の「家族介護教室」を開催した。			
19	同上	駒ヶ根	A	・出前講座を実施した。 精神疾患について 2回 105人 アルコール依存症 3回 100人 精神科薬について 1回 40人 S S T（ソーシャルスキルトレーニング） 1回 6人 合計 年 7回 251人			

20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種チームで地域の医療機関に協力し、地域での認知症医療を推進（ここ駒）</li> <li>・地域医療機関等に対し、アルコール依存症治療などに係る出前講座を実施（ここ駒）</li> <li>・飯田市立病院及び伊那中央病院へ月2回医師を派遣し、精神科患者の心理的問題の相談や精神科リエゾンチーム※を支援（ここ駒）</li> </ul> <p>※精神科リエゾンチーム：身体医療と精神医療をつなぎ、患者への包括的な医療を目指して、身体治療を担当する医師や看護師と精神科医、精神看護専門看護師、臨床心理士等の複数の職種が連携しチーム医療を行うもの。</p>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村の地域包括支援センターが進める認知症ケアパス（地域連携パス）への参加や、駒ヶ根市が実施する認知症初期集中支援チーム事業へ参画して認知症医療の推進を図った。</li> <li>・アルコール依存症に関する出前講座を3回実施した。</li> <li>・飯田市立病院及び伊那中央病院に月2回医師を派遣し、総合病院における精神科リエゾンチームのコンサルティングを行った。</li> </ul>
21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・へき地診療所等からの要請に基づき医師派遣等の支援を積極的に実施（阿南）</li> </ul>	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の診療所への医師派遣については、欠員時に短期の派遣を実施した。</li> </ul>
22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師会の例会会場に病院施設を開放し、病院医師と医師会会員との連携、情報交換を促進（木曾）</li> </ul>	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師会等へ病院施設を開放することで医師会主催による例会・講演会等（8回）、症例検討会（1回）が積極的に開催され、当院医師も参加し医師会会員との連携、情報交換等が活発に行われた等、地域医療の連携を図ることができた。</li> </ul>
23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3Dモデル造形センターを地域の医療機関・医療関係教育機関へ積極的にPR、利用拡大（こども）</li> </ul>	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月にホームページを更新し、価格設定を明確にし、よりわかりやすくした。また、ホームページ内の写真も刷新し視覚的に理解しやすくした。</li> <li>・令和元年度は外来発注が22件と前年17件から増加した。中でも長野赤十字病院より16件の依頼を受け、手術前シミュレーションに活用されている。院内では形成外科6件、脳神経外科5件、整形外科5件と外科系の診療科より依頼があり、手術前シミュレーションに利用されている。全受注件数は38件と前年34件を4件上回った。</li> </ul>
24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療機関からのリハビリテーションスタッフ研修生の受け入れ（こども）</li> </ul>	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に、地域医療機関のリハビリテーションスタッフを受け入れて実施する臨床研修については、3人を計12日間受け入れ、小児リハビリテーションへの理解を深めるこ</li> </ul>

		も		とができた。事後アンケート調査では、全員から治療に役立ったとの感想が得られた。
25	・地域医療支援病院に指定されたことを契機に、地域に開かれた病院として地域の医療機関との連携を推進（こども）	こども	A	・地域医療支援病院の指定を受け、133の医療機関、175人の医師に登録いただいている。（1件1名閉院）地域の診療所（医科）に加えて歯科診療所等との連携推進を図るため、本年度は新たに歯科医院64件、75名の歯科医師に登録いただいた。 医療連携登録医を対象とする研修会を開催し、医科・歯科の参加医師とこども病院の現状や地域連携についての意見交換会を実施した。 ・医療機器の共同利用：103件（リニアック 65、3Dモデル造形 22、CT 0、MRI 11、MRI 5）
26	・リニアックなど高度な医療機器を有効活用するため、地域の医療機関と連携し、成人を対象とした放射線治療を推進（こども）	こども	A	・令和元年度の治療件数は前年度比10%増の2,216件であった。今年度の紹介患者数は小児14名、成人67名 合計81名となり、前年73名を8名上回った。（平成30年度 小児10名、成人63名 合計73名） 令和元年度の放射線治療稼働額は昨年度比で第1四半期は3.3%増、第2四半期66.4%増、第3四半期は0.4%減、第4四半期は46.9%増で稼働額の累計は7,114,560円増の33,470,880円であった。
27	・信州大学小児医学講座、信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部、こころの医療センター駒ヶ根と共同し、医師や臨床心理技術者、作業療法士などを県内10圏域ごとに行われる研修会や事例検討会などに派遣（こども）	こども	A	・県から「発達障がい診療専門家現地派遣事業」の一部委託を受け、信州大学医学部附属病院、こころの医療センター駒ヶ根とともに、県内10圏域の地域連携病院と保健福祉事務所で企画する研修会に、講師として専門家を派遣し、各地域における発達障害診療のネットワークづくりに寄与した。参加者数は1,120人で各圏域の発達障がい診療のネットワークづくりに役立てた。また、医師向け研修会は台風災害のため中止となった。
28	・エコーセンターの機能を充実し、超音波診断に関する院内外の専門医・技術者等育成、海外研修の受け入れ（ベトナム、サウジアラビア、オランダなど）（こども）（再）	こども	A	・参照（p.35-No.39）

29	<p>・地域医療機関等が医療関係者等の教育を行うために必要となる、シミュレータの貸出及び講師の派遣（研セ）</p>	本部	A	<p>・地域の医療機関等に対し、基本的な診療・処置・治療の実践的なトレーニングが行えるスキルラボの活用を促し、使用者が増加した。</p> <table border="1" data-bbox="958 284 2049 914"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度 使用回数</th> <th>令和元年度 使用者数</th> <th>平成30年度 使用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師、研修医</td> <td>106回</td> <td>279人</td> <td>161人</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>104回</td> <td>970人</td> <td>1,023人</td> </tr> <tr> <td>多職種（ICLS等）</td> <td>29回</td> <td>550人</td> <td>450人</td> </tr> <tr> <td>看護補助者</td> <td>1回</td> <td>17人</td> <td>74人</td> </tr> <tr> <td>臨床工学技士</td> <td>1回</td> <td>12人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>介護福祉士</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>55人</td> </tr> <tr> <td>医学生</td> <td>38回</td> <td>145人</td> <td>140人</td> </tr> <tr> <td>看護学生（信州木曾看護等）</td> <td>2回</td> <td>39人</td> <td>38人</td> </tr> <tr> <td>薬学生</td> <td>3回</td> <td>21人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>その他（職場体験等）</td> <td>53回</td> <td>1,031人</td> <td>310人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>337回</td> <td>3,064人</td> <td>2,251人</td> </tr> </tbody> </table> <p>・福祉施設等へ講師を派遣した。  5月、7月 長野県保健師専門研修  10月 須坂看護専門学校  11月 長野県林業センター  11月 松本養護学校</p>	区分	令和元年度 使用回数	令和元年度 使用者数	平成30年度 使用者数	医師、研修医	106回	279人	161人	看護師	104回	970人	1,023人	多職種（ICLS等）	29回	550人	450人	看護補助者	1回	17人	74人	臨床工学技士	1回	12人	0人	介護福祉士	0人	0人	55人	医学生	38回	145人	140人	看護学生（信州木曾看護等）	2回	39人	38人	薬学生	3回	21人	0人	その他（職場体験等）	53回	1,031人	310人	計	337回	3,064人	2,251人
区分	令和元年度 使用回数	令和元年度 使用者数	平成30年度 使用者数																																																	
医師、研修医	106回	279人	161人																																																	
看護師	104回	970人	1,023人																																																	
多職種（ICLS等）	29回	550人	450人																																																	
看護補助者	1回	17人	74人																																																	
臨床工学技士	1回	12人	0人																																																	
介護福祉士	0人	0人	55人																																																	
医学生	38回	145人	140人																																																	
看護学生（信州木曾看護等）	2回	39人	38人																																																	
薬学生	3回	21人	0人																																																	
その他（職場体験等）	53回	1,031人	310人																																																	
計	337回	3,064人	2,251人																																																	
30	<p>ウ 地域の保健、福祉関係機関等との連携の推進  母子保健、予防医療や認知症対策へ取り組むとともに、地域の福祉関係機関と連携して、退院後の患者やその家族を支援する。</p>	信州	A	<p>・市町村、病院、福祉団体等で構成される「須高地域医療福祉推進協議会」に参加している。  ・須高地区介護施設との定例会議を9月に開催し、相談員、施設のケアマネジャーと連携を図った。  ・須坂市高齢者福祉課、包括支援センターとの合同会議を5回開催し、地域ニーズに対す</p>																																																

また、医療の提供に止まらず、児童虐待への対応や発達障がい児への支援を推進するため、市町村、保健福祉事務所（保健所）、児童相談所などの関係機関やNPOなどと連携し、県立病院の持つノウハウを提供する。

市町村、病院、福祉団体等で構成される「須高地域医療福祉推進協議会」に参加し、以下の取組みを実施（信州）

- ・がんの早期発見・治療機能及び予防医療の充実、在宅復帰支援機能の強化を推進（再）
  - ・須高地区介護施設との定例会議や須崎市高齢者福祉課、包括支援センターとの合同会議及び「医療と介護の連携推進協議会」において積極的な連携、「地域みんなで支える在宅医療」の実現のため、地域の病院、診療所、訪問看護ステーション及び行政でつくる「須高在宅ネットワーク」に参加
  - ・地域包括ケア病棟では、急性期病院との連携のほか、慢性期対応病院や介護施設及び訪問看護ステーション等と連携（再）
  - ・こども虐待の予防と早期把握のための、須高地域連携システムを維持継続
  - ・産後ケア事業を継続、生後3カ月までの乳児を持つ母親に授乳や沐浴の指導等を行う
- 「宿泊型」と「デイサービス型」の2種類の

る意見交換を実施した。

- ・「医療と介護の連携推進協議会」のメンバーとして、ケアマネジャーなどの介護関係者との研修会を開催した。
- ・須高地域医療福祉推進協議会では、「リビング・ウィルってなあに？」をテーマとした講演会と多職種研修会（2回）を開催し、意見交換を行った。
- ・地域の病院、診療所、訪問看護ステーション及び行政でつくる「須高在宅ネットワーク」に参加し「地域みんなで支える在宅医療」の実現に寄与した。
- ・須高医師会、須高歯科医師会、須高薬剤師会等と組織する「第4回須高地区手をつなごう会」を11月に開催し、台風被害の影響が残る中、参加者は71名に上った。当院渡邊医師による講演「腰椎疾患の診断と治療」を行うとともに、介護ロボットHALの紹介し参加者が体験した。
- ・地域における妊産婦、母体、胎児及び新生児への心身両面の一貫した医療の提供を継続している。
- ・参照（p.3-No.4）  
（課題）
- ・産婦人科診療体制の安定化、出産受け入れについて地域への周知と分娩件数の増加

	支援を提供（再）		
31	<p>地域の関係機関と連携して以下の取組みを実施（ここ駒）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合病院・小児科医、長野県・児童相談所、教育機関、療育・保育機関、親の会等と定期的な会議の開催による役割分担の明確化、連携関係の強化</li> <li>・他医療機関で対応困難な症状の重い県内の患者（重度の発達障がい、被虐待児等）に効果的な医療を提供</li> <li>・上伊那圏域の保健・福祉・医療等関係機関で進める「認知症ケアパス」（地域連携パス）への参加（再）</li> </ul>	駒ヶ根	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.27-No.14）</li> <li>・児童相談所、保健所、福祉など連携し、緊急性の高い被虐待児や、自殺企図のある児童などを受入れた。</li> <li>・参照（p.17-No.2）</li> </ul>
32	<p>地域の関係機関と連携して以下の取組みを実施（阿南）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療圏内の市町村及び福祉施設等への診察、リハビリ指導等のため医師及び職員の派遣を継続</li> <li>・地域包括ケアシステムに対応する地域の訪問看護ステーションの開設に向けた検討（再）</li> <li>・在宅医療や介護等と連携した地域医療の役割の明確化（再）</li> <li>・地域医療総合支援センターでは、町村と連携した認知症を地域で支える体制づくりの推</li> </ul>	阿南	<p>A</p> <p>令和元年度 リハビリ理学療法士派遣実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天龍村 集団11回 ・泰阜村（デイケア） 集団47回、個別97件</li> <li>・売木村 集団24回 ・救護施設阿南富草寮 集団12回</li> <li>・南信州広域連合、飯田医師会等で構築を進めている地域包括ケアシステムへの支援について、地域での退院調整ルールワーキンググループ会議に参加し、医療・介護関係者の情報共有化を図り、医療・介護・福祉の連携について協議を進めた。</li> <li>・認知症なんでも相談室では、地域住民や関係団体へ啓発活動を積極的に行い、関係団体との協力関係の構築など認知症を地域で支える体制づくりを推進した。（認知症サポーター養成講習会2回 35人）</li> <li>・3歳児健診を阿南町、天竜村、泰阜村から引き続き受託し、発達障がい児等の早期発見につなげている。</li> <li>・地域連携室が中心となり、町村と連携し、地域の医療・介護等との連携、退院指導等の</li> </ul>

	<p>進、乳児健診において町村保健師等と連携した発達障がい児の早期発見とフォローアップ体制を整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療圏町村との連携を一層強化し、退院支援の充実、保健予防や健診事後指導を町村と連携して行い、地域住民の健康管理を推進</li> <li>・特別養護老人ホーム等への医師派遣における施設内での診療において、当院の電子カルテシステムの活用</li> </ul>			<p>実施体制を充実させた。</p>
33	<p>地域の関係機関と連携して以下の取組みを実施（木曾）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の病院・保健福祉関係者連絡会議等を継続的に開催、情報交換や、学習会を行うことにより、連携を強化</li> <li>・産後ケア事業への参画により地域の母子保健関係者との連携を行うとともに、産後2月までの院内デイ等を実施しケアサポートの充実を図る。</li> <li>・木曾広域連合から「在宅医療・介護連携支援センター」業務を受託、在宅医療及び介護連携を支援する相談窓口を運営、地域包括支援センターとの連携を強化</li> </ul>	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤医が体調を崩した木曾町みたけ診療所に医師を派遣した。(2~3月計6回)参照 (p.12-No.16)</li> <li>・地域巡回りハビリテーションを計20回行い、転倒予防や認知症予防に関する講義や体操の指導をした。(参加者合計248名)</li> <li>・感染症対策、褥瘡対策についての地域の福祉施設の研修会に認定看護師を派遣した。</li> <li>・木曾郡上松町と協働し、赤沢自然休養林の開園期間中(5~10月)に実施した事業のうち、毎週行われている「森のお医者さん」(ストレスチェック・血圧測定)には54名の参加、月1回開催の「医師と歩く森林セラピーロード」には53名の参加があった。また、森林セラピードックは2名の受け入れがあった。</li> <li>・産後ケア事業への参画により、2か月に1回病院地域母子連携会議を実施し、課題を共有した。</li> <li>・木曾広域連合、木曾病院・木曾の医療を守る会と共催し、11月の病院祭に合わせて地域医療についての公開講座を開催した。</li> </ul>
34	<p>医療的ケア児の在宅移行と在宅生活維持支援のための情報収集及び地域作りを推進(こども)</p>	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.20-No.5)</li> <li>・各圏域の重心WGへ必要時参加し、助言を行った。</li> <li>・こども病院の役割への理解、転院・退院後の連携について、地域基幹病院および入所施</li> </ul>

	<p>医療、福祉、教育、行政関係者との連携による、小児在宅医療に係るネットワークを構築（こども）（再）</p> <p>医療、福祉、教育、行政関係者を対象とした研修会・学習会の開催や実習の受入れを行い、人材育成を充実（こども）</p> <p>「長野しろくまネットワーク」（在宅電子連絡帳等）の運用、ホームページでの情報提供など、小児在宅に係る全県的なネットワークの推進、在宅患者のレスパイトケアの実施について検討（こども）（再）</p> <p>地域療育機関や特別支援学校、市町村、福祉関係機関等と患者支援・地域連携会を開催、発達障がい児や重症心身障がい児等の地域でのリハビリテーションが円滑に進むよう支援（こども）</p>		<p>設との情報交換を行い、より一層の病院間連携を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療機関懇話会開催1回。今後、福祉、教育、行政機関との懇話会を検討。</li> <li>・患者支援地域連携会の開催希望のあった関係機関12施設と会議を実施した。互いの施設に係る患者についての情報交換や施設の情報交換を行うことにより施設間の連携向上が図れた。</li> </ul>																								
35	<p>人間ドック及び各種検診の充実を図り、予防医療を推進（信州、阿南、木曾）</p>	信州	<p>・人間ドック及び各種検診の充実を図り、予防医療を推進した。</p> <table border="1" data-bbox="952 1010 2060 1353"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日帰りドック件数</td> <td>1,831件</td> <td>1,920件</td> <td>△89件(95.4%)</td> </tr> <tr> <td>2日ドック（通院）</td> <td>149件</td> <td>164件</td> <td>△15件(90.9%)</td> </tr> <tr> <td>特定健康診査件数</td> <td>45件</td> <td>85件</td> <td>△40件(52.9%)</td> </tr> <tr> <td>企業健康診断件数</td> <td>369件</td> <td>439件</td> <td>△70件(84.1%)</td> </tr> <tr> <td>生活習慣病予防健診件数</td> <td>912件</td> <td>1,275件</td> <td>△363件</td> </tr> </tbody> </table>	区分	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差	日帰りドック件数	1,831件	1,920件	△89件(95.4%)	2日ドック（通院）	149件	164件	△15件(90.9%)	特定健康診査件数	45件	85件	△40件(52.9%)	企業健康診断件数	369件	439件	△70件(84.1%)	生活習慣病予防健診件数	912件	1,275件	△363件
区分	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差																								
日帰りドック件数	1,831件	1,920件	△89件(95.4%)																								
2日ドック（通院）	149件	164件	△15件(90.9%)																								
特定健康診査件数	45件	85件	△40件(52.9%)																								
企業健康診断件数	369件	439件	△70件(84.1%)																								
生活習慣病予防健診件数	912件	1,275件	△363件																								

							(71.5%)																																
				脳ドック件数	165	185件	△20件 (89.2%)																																
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・オプション検査 4,660件 (平成30年度5,431件)</li> <li>・ホームページ、病院広報誌、市町村広報誌等により広報活動を実施した。</li> <li>・健康診断の質の維持を図るとともに安全対策を見直した。</li> <li>・理学療法士によるロコモ検診を実施した。(令和元年度実績104件)</li> </ul>																																			
36	同上	阿南	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日帰りドック件数</td> <td>212件</td> <td>205件</td> <td>7件(103.4%)</td> </tr> <tr> <td>生活習慣病予防健診件数</td> <td>269件</td> <td>272件</td> <td>△3件 (98.9%)</td> </tr> <tr> <td>脳ドック件数</td> <td>88件</td> <td>83件</td> <td>5件 (106.0%)</td> </tr> <tr> <td>特定健康診査件数 (単独)</td> <td>28件</td> <td>26件</td> <td>2件 (107.7%)</td> </tr> <tr> <td>乳がん検診 (集団)</td> <td>421件</td> <td>446件</td> <td>△25件 (94.4%)</td> </tr> <tr> <td>子宮がん検診 (集団)</td> <td>396件</td> <td>428件</td> <td>△32件 (92.5%)</td> </tr> <tr> <td>商工会検診</td> <td>194件</td> <td>198件</td> <td>△4件 (98.0%)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間ドックの地域のニーズは高く、内科医師が不足する中でも予約枠を増やした。また、婦人科検診他各種検診は若干減少したが、公衆衛生活動収益全般で伸びがみられた。</li> <li>・次のとおりPRを行い、ほぼ前年度並みの受診者を確保することができた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ、市町村広報誌等により広報活動を実施</li> <li>・管内関係機関の定例会の際に、当院ドック活用推進について依頼を実施</li> <li>・地元食材を使ったドック食 (信州産豚肉、アルプスサーモン) に季節メニューを導入しPR</li> </ul> </li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高い内視鏡の技術を持つ医師の安定的確保</li> <li>・郡内町村保健師との連携及び再受診につなげる事後指導の充実を図る。</li> </ul>				項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差	日帰りドック件数	212件	205件	7件(103.4%)	生活習慣病予防健診件数	269件	272件	△3件 (98.9%)	脳ドック件数	88件	83件	5件 (106.0%)	特定健康診査件数 (単独)	28件	26件	2件 (107.7%)	乳がん検診 (集団)	421件	446件	△25件 (94.4%)	子宮がん検診 (集団)	396件	428件	△32件 (92.5%)	商工会検診	194件	198件	△4件 (98.0%)
項目	令和元年度実績	平成30年度実績	前年度との差																																				
日帰りドック件数	212件	205件	7件(103.4%)																																				
生活習慣病予防健診件数	269件	272件	△3件 (98.9%)																																				
脳ドック件数	88件	83件	5件 (106.0%)																																				
特定健康診査件数 (単独)	28件	26件	2件 (107.7%)																																				
乳がん検診 (集団)	421件	446件	△25件 (94.4%)																																				
子宮がん検診 (集団)	396件	428件	△32件 (92.5%)																																				
商工会検診	194件	198件	△4件 (98.0%)																																				

37	同上	木 曾	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成 30 年度実績</th> <th>前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日帰り人間ドック</td> <td>516 件</td> <td>455 件</td> <td>61 件 (113.4%)</td> </tr> <tr> <td>1泊2日人間ドック</td> <td>0 件</td> <td>4 件</td> <td>△4 件 (0%)</td> </tr> <tr> <td>脳ドック</td> <td>74 件</td> <td>108 件</td> <td>△34 件 (68.5%)</td> </tr> <tr> <td>生活習慣病予防検診</td> <td>770 件</td> <td>720 件</td> <td>50 件 (106.9%)</td> </tr> </tbody> </table>	区分	令和元年度実績	平成 30 年度実績	前年度比	日帰り人間ドック	516 件	455 件	61 件 (113.4%)	1泊2日人間ドック	0 件	4 件	△4 件 (0%)	脳ドック	74 件	108 件	△34 件 (68.5%)	生活習慣病予防検診	770 件	720 件	50 件 (106.9%)
				区分	令和元年度実績	平成 30 年度実績	前年度比																	
				日帰り人間ドック	516 件	455 件	61 件 (113.4%)																	
				1泊2日人間ドック	0 件	4 件	△4 件 (0%)																	
				脳ドック	74 件	108 件	△34 件 (68.5%)																	
生活習慣病予防検診	770 件	720 件	50 件 (106.9%)																					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間ドックに心臓検査コースを新設し、循環器系疾患予防への対応を拡充した。 (令和元年度実績：2件)</li> <li>・国保特定健診を木曾郡内町村から受託するとともに、岐阜県坂下病院の診療所化に際し、木曾郡南部の乳がん検診、子宮がん検診、職員健康診断等の受託を開始した。</li> <li>・ドック受診者を対象に生活習慣病のための食事に関する説明、栄養相談を実施した。</li> <li>・ホームページにより人間ドックの広報を行った。</li> </ul>																								

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

2 地域における連携とネットワークの構築による医療機能の向上

(2) 5病院のネットワークを活用した診療協力体制の充実強化

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

県立病院間で、理事長や改革統括医療監による内科外来診察業務をはじめ、医師、看護職及び医療技術職の人事交流や相互派遣を積極的に行い、診療体制の維持・確保に努めるとともに、他院での経験を通して当該職員のスキルアップや意識の向上を図った。

特に、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れに際しては、病院間で職員派遣を行い、職員の負担軽減を図った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 2(2) 1	県立病院間で医師等の人事交流や相互派遣をするなど、診療をはじめとする業務の協力体制を充実	信州	A	・木曽病院の骨髄病理診断を当院遺伝子検査科及び臨床検査科が実施している。 ・こども病院へ週2回、泌尿器科医師を派遣した。
2	同上	駒ヶ根	A	・阿南病院臨床工学技士の派遣を受け、医療機器点検整備を実施した。(年2回) ・阿南病院、信州医療センターから診療放射線技師の派遣を受け、診療体制の維持及び労働環境の改善を図った。(年4回)
3	同上	阿	A	・こころの医療センター駒ヶ根へ診療放射線技師を派遣した。(3日間)

		南		<ul style="list-style-type: none"> <li>・こころの医療センター駒ヶ根へ臨床工学技士を派遣した。(2日間)</li> <li>・新型コロナウイルス感染症患者に医療を提供する信州医療センターの支援のため、看護師2名、介護福祉士1名を派遣した。</li> </ul>
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症患者に医療を提供する信州医療センターの支援のため、看護師2名を派遣した。</li> </ul>
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整形外科医師1名を木曾病院へ毎週1回派遣した。</li> </ul>
6	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院間の相互応援を推進し、必要な医師の派遣ができるよう調整を図った。</li> <li>・医師の派遣により、病院の診療体制支援を継続した。</li> <li>※派遣実績：理事長（信州月2回、木曾月1回、阿南月1回） 原田理事（木曾週2回）</li> <li>・医学生を対象とした病院説明会（11月）では、5病院すべてから指導医等が参画し、講演や体験プログラムの実践を通じて、連携強化することができた。</li> </ul>
7	・木曾病院及び阿南病院に医師を派遣、木曾地域と下伊那南部地域の精神科医療を充実（ここ駒）	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科医を木曾病院に週1回、阿南病院に月2回派遣し、木曾地域と下伊那地域南部の精神科医療の充実を図った。</li> </ul>
8	・こころの医療センター駒ヶ根とこども病院は、信州大学医学部附属病院と共同して、こどもの心の診療を充実（再）	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.32-No.31）</li> </ul>
9	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.32-No.32）</li> </ul>
10	・こころの医療センター駒ヶ根から外来診療業務に医師の派遣を受けるなど、他病院から	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こころの医療センター駒ヶ根から精神科の非常勤医師の派遣を受け、必要な診療体制の確保を図った。（月2回）</li> </ul>

	医師の派遣を受け、必要な診療体制の確保 (阿南)		
--	-----------------------------	--	--

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献

(1) 医療従事者の確保と育成

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

医療従事者の確保について、医師については大学医局との連携や医師求人サイトの活用、看護師については看護師養成校への訪問やインターンシップの実施、薬剤師確保のための薬学生病院説明会の開催や就職ガイダンスへの参加等、あらゆるチャンネルを駆使して取り組んだ。

適材適所を原則とした計画的な採用活動を実施し、特に看護職員については、医療安全の確保と経営的な視点を両立させる適正人員数を算出し、適正な人員配置に努めた。

育児短時間制度や院内保育所等を活用した働きやすい職場環境の整備に努め、また、医療クラークの確保により医師の負担軽減を図った。

院内広報誌・職員だよりの発行を通して、職員間の情報共有やコミュニケーションを図り、職員間の理解と一体化につなげた。

本部研修センターでは、課程別の基礎研修から医療技術職員に対する専門研修まで含めた体系的な研修カリキュラムを構築し、計画的な人材の育成に努め、各病院においても、独自の院内研修の充実により、職員の資質向上に努めた。

各病院において、医師・看護職・医療技術職の認定資格の取得を奨励し専門研修への派遣を行い、医療技術の向上を図った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果

<p>第1 3(1) 1</p>	<p>ア 積極的な医療従事者の確保 (ア) 医療従事者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット、ホームページ等広報の充実、医療系職種養成学校への積極的な訪問活動、学生就職ガイダンスへの積極的な参加などにより医療系職種の採用活動を充実（本部）</li> <li>・医師確保については、県の「信州医師確保総合支援センター」分室として、医学生及び初期臨床研修医等を対象としたシミュレーション研修を実施、県の医師確保対策を支援（研セ）</li> <li>・信州大学医学部等学生を対象とした県立病院機構の説明会を開催、機構本部と病院が連携しながら、大学医局との関係強化を進めるとともに、医師研究資金制度の活用などにより、医師確保を推進（研セ、本部）</li> <li>・看護職員、薬剤師、事務総合職等の職種について、インターンシップ事業を積極的に展開（本部）</li> </ul>	<p>信 州</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の確保に向け医師求人サイトへの掲載、大学医局との連携などあらゆるチャンネルを駆使し、県、機構本部と病院が一体となり取り組んだ。</li> <li>・医師臨床研修マッチングにおいて、医学生に寄り添った情報発信と当院のよさをアピールすることで、3名の枠に対して3名確保し、フルマッチした。</li> <li>・HPの掲載内容の充実や、研修医ブログの定期的な更新の効果もあり、安定した病院見学者数を確保している。（11人）</li> <li>・看護師養成校への訪問を、県内4校、県外3校について今年度は2回実施した。</li> <li>・看護師の就職ガイダンスへ2回参加予定であったが、1回は中止となったため1回のみ参加となった。</li> <li>・看護師のインターンシップは2回計画し、8月8日に12人が参加し、3月12日は5人希望者がいたが中止となった。</li> <li>・看護師病院説明会は8回開催し、19人が参加した。</li> </ul>
<p>2</p>	<p>同上</p>	<p>駒 ヶ 根</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師確保のため、機構本部と連携して県内3カ所、県外2カ所の養成校や大学を訪問し、病院の紹介、看護師応募の案内、修学資金貸与制度の活用の働きかけ等を行った。</li> <li>・看護師の合同就職説明会へ2回参加した。また、看護師のインターンシップを開催し、6名が参加した。</li> <li>・日本精神神経学会新専門医制度における単独型の基幹研修施設として、後期研修医（専</li> </ul>

				攻医)を1名採用した。
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元包括医療協議会と協働し、4月28日に飯田女子短期大学キャンパスにて地域版の合同就職ガイダンスを開催した。</li> <li>・看護師のインターンシップについては、ホームページで募集を行ったが応募はなかった。</li> <li>・情報誌「TSUNAGU」に木曾病院と共同で記事を掲載し、職員募集のPRを実施した。</li> <li>・10月に地域の看護師のための再就職支援研修会の実施に協力した。(参加者21人)</li> </ul>
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護大学や専門学校を積極的に訪問(県内2校、県外4校)するとともに、修学資金の利用促進を図り、看護師の確保に努めた。(新規修学資金利用者5名)</li> <li>・病院説明会(9月)に1人、インターンシップ(8月)に2人の参加があった。</li> <li>・信州木曾看護専門学校学生への説明会(交流会)に8人の参加があった。</li> <li>・将来的な医師の確保に向け、全国の医学生を対象に「病院見学会」を開催し、1名の参加があった。</li> <li>・将来的な病院事務職員及び医療技術職員の確保に向け、県内高校生を対象とした「病院医療体験」を7月に開催し、13名の参加があった。また3月にも計画し、129名から申し込みがあったが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止とした。</li> <li>・中南信地区の高校生に配布される就職活動用企業紹介冊子「TSUNAGU」へ病院紹介記事を掲載し、将来の就職選択肢となるよう、認知度の向上を図った。</li> <li>・適正かつ効率的な人員配置に向けた取組として、当院の定年退職者、木曾介護老人保健施設へのボランティア参加者、民間企業退職者等を対象に「プレミアムパートナー」と名付けた短時間勤務者の募集を行い、看護・介護補助者の確保を図った。(5名)</li> </ul>
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年実施している看護学校訪問のほかに、当院への就職歴のある看護学校・大学へ院長が訪問を行った。また、一度訪問した学校等へ、こども病院への採用試験の案内を含めたポスターを作成し、配布を行った。</li> <li>・NICU・PICU研修生の募集を、学会や雑誌に掲載を実施した。また、信濃毎日新聞へ</li> </ul>

			<p>看護師等の募集広告を実施。JR特急あずさにも1ヶ月募集ポスターの掲示を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ参加者は、3月19名（5名就職26%）8月18名（3名就職16%）。高校生一日体験は2回開催し50名の参加があった。</li> <li>・退職者面接を実施し、支援を行い退職者数の減少も図れ、令和元年度離職率を低下することができた。（10.5%が5.6%に低下）</li> <li>・看護師採用を37名確保できた。</li> </ul>
6	同上	本部	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州医療センター1年目初期研修医を対象に、シミュレーション研修を20回実施し、延べ56人が参加した。</li> <li>・信州医療センター2年目初期研修医2人をハワイ大学医学部SimTikiシミュレーションセンターへ派遣した。</li> <li>・信州医療センターにおいて、臨床実習を行う医学生にシミュレーション研修を33回実施し、延べ58人が参加した。</li> <li>・県立5病院と連携し、病院見学参加者増と県立病院機構研修医育成病院としてのブランディングを目的に、医学生を対象とした、第3回県立病院機構病院説明会を信州大学で開催し、2大学から11人の医学生が参加した。</li> <li>・阿南病院及び木曽病院主催の病院見学会（医学生向け）のサポートを行い、信州大学から1人の医学生が参加した。</li> <li>・看護師養成校へは県内13校、県外12校に訪問活動を実施</li> <li>・県立5病院の薬剤部と連携し、インターンシップ参加者の増加、採用試験への申込者の増加を目的に薬学生等を対象とした薬学生病院説明会を11月10日に銀座NAGANOで開催</li> <li>・合同就職ガイダンス等への出展</li> </ul> <p><b>【看護職】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月 マイナビ看護セミナー@長野（27名）</li> <li>2月 マイナビ看護セミナー@松本（61名）</li> <li>2月 マイナビ看護セミナー@長野（88名）</li> </ul>

		<p>3月 信州で看護（開催中止）</p> <p>【薬剤師】</p> <p>4月 東京薬科大学（3名）</p> <p>8月 薬学生就職支援セミナー（4名）【新】</p> <p>11月 薬学生病院説明会（19名）【新】※機構単独企画</p> <p>3月 マイナビEXPO 薬学生（開催中止）</p> <p>3月 東北医科薬科大学（開催中止）</p> <p>【医療技術職】</p> <p>8月 新潟医療福祉大学 医療福祉施設求人説明会（言語聴覚士）（7名）【新】</p> <p>【事務職等】</p> <p>6月 シューカツNAGANOインターンシップフェア@名古屋(14名)【新】</p> <p>12月 シューカツNAGANOインターンシップフェア@長野（33名）【新】</p> <p>3月 就活開幕LIVE（開催中止）</p> <p>3月 信州大学（開催中止）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機構ホームページのリニューアル、採用情報のスマートフォン対応による学生への広報を強化（3月）</li> <li>・「退職看護職員のナースセンター登録制度」の利用継続</li> <li>・令和元年度の看護職員採用試験は3回（6、8、11月）実施し、延べ97名の応募があり、うち既卒者からは46名の応募が得られた。（採用者は計70名（うち既卒31名））</li> <li>・薬学生インターンシップを通年で実施し、延べ18名の参加が得られた。</li> </ul> <p>（内訳）信 州 … 4名</p> <p>          駒ヶ根 … 2名</p> <p>          阿 南 … 1名</p> <p>          木 曾 … 4名</p> <p>          こども … 7名</p>
--	--	---

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務総合職インターンシップを2回（8月、12月）実施し、11名の参加が得られた。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師の特定行為研修に向けた支援（研セ）</li> </ul>	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定行為のできる看護師の育成のため、機構看護職員を対象とした研修の実施に向けた申請準備を行った。</li> <li>・5月 伊那中央病院看護師特定行為研修センターを見学</li> <li>・7月 関東信越厚生局に申請の事前相談</li> <li>・院長会議、看護部長・事務部長会議で研修内容、研修運営等について検討</li> <li>・信州医療センターを指定医療機関とすることに決定</li> <li>・実施する研修を領域別パッケージ研修[在宅・慢性期領域]に決定</li> <li>・11月末 関東信越厚生局に申請書類を提出</li> <li>・2月26日 指定医療機関の指定（厚生労働省医政局長）</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の医療機関等で行う合同就職ガイダンスへの参加（阿南）</li> <li>・将来的な病院事務職員及び医療技術職の確保に向け、県内高校生を対象とした「病院医療体験」を開催（阿南、木曽）</li> <li>・将来的な医師の確保に向け医学生を対象とした「病院見学会」を開催（木曽）</li> </ul>	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元包括医療協議会と協働し、4月27日に飯田女子短期大学キャンパスにて地域版の合同就職ガイダンスを開催した。</li> <li>・情報誌「TSUNAGU」に木曽病院と共同で記事を掲載し、職員募集をPR</li> <li>・10月に地域の看護師のための再就職支援研修会の実施に協力した。（参加者21人）</li> <li>・将来的な医療技術者の確保に向けた、「高校生のための医療体験」事業を開催し、参加高校生が院内で各科に分かれ医療業務を体験したり、職員との交流を実施した。</li> </ul> <p>（飯伊地区高校生参加者9名 看護 4名 リハビリ 3名 放射線 1名 薬局 1名）</p>
9	同上	木曽	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的な医師の確保に向け、全国の医学生を対象に「病院見学会」を開催し、1名の参加があった。</li> <li>・将来的な病院事務職員及び医療技術職員の確保に向け、県内高校生を対象とした「病院医療体験」を7月に開催し、13名の参加があった。また3月にも計画し、129名から申し込みがあったが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止とした。（参照p.77-No.4）</li> <li>・中南信地区の高校生に配布される就職活動用企業紹介冊子「TSUNAGU」へ病院紹</li> </ul>

				介記事を掲載し、将来の就職選択肢となるよう、認知度の向上を図った。
10	(イ) 働きやすい職場環境の整備 ・医師をはじめとする病院スタッフの働き方改革を踏まえ、インフォームドコンセントの原則勤務時間内実施や、労働時間の適切な把握、年次休暇の取得を促進（本部） ・育児短時間勤務及び育児部分休業などの制度に対する適切な理解促進と病院現場に即した活用を推進（本部）	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師28人が育児短時間制度を活用し、仕事と子育ての両立を実現している。</li> <li>・看護師については、適正人員数について各病棟の看護師長に説明を行い検討したことで、配置数の考え方が浸透し、限られた人員の中で部署間で協力する体制が強化された。</li> <li>・限られた人材を効果的に活用するために、救急外来と一般外来、内視鏡センターと健康管理センターを、それぞれ一つの看護単位として管理する体制とした。</li> <li>・院内保育所「カンガルーのぽっけ」（定員10人）では、保護者である職員が安心して働ける環境の提供に努めるとともに、4月「お花見」5月「こいのぼり会」7月「七夕まつり」8月「夕涼み会」9月「秋の遠足」10月「ハロウィン」12月「クリスマス会」2月「豆まき」3月「ひなまつり」を開催し病院と保育所の交流を深めている。（保育総延人数1,108人）</li> <li>・看護師が本来業務に専念できる環境確保のため、介護福祉士2人が地域包括ケア病棟において夜間勤務に従事している。</li> </ul>
11	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児休業等に対応するため、看護師及び臨床心理技術者4人を期間限定職員等として随時採用し、職員の負担軽減を図った。</li> <li>・看護部及び地域リハビリテーション部に有期職員4人を配置し、タスクシフトによる職場環境の改善を進めた。</li> <li>・育児短時間制度及び育児部分休業制度を7人が活用して、子育てと仕事の両立を図っている。</li> </ul>
12	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療クラーク3人体制を継続し、電子カルテ代行入力、診断書、意見書作成補助にあたらせ、医師等の負担軽減を図った。</li> </ul>
13	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児期間中の勤務制度の周知を図り、育児部分休業は医師1人、看護職員3人が、育児短時間勤務は17人が利用した。</li> </ul>
14	同上	こど	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産休及び育児休暇を39人が取得中である。</li> <li>・育児短時間制度及び育児部分休業制度を30人が活用して、子育てと仕事の両立を図った。</li> </ul>

		も		ている。
15	同上	本部	A	<p>「医療安全の確保」と「経営的な視点」を両立させる看護部の適正人員数のために、自作の「適正人員試算表」を活用した試算数と重症度、医療・看護必要度等の分析を継続するとともに、各病院の看護師長と業務内容の検証及び適正な人員数の試算を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機構独自の新しい勤怠管理システムを導入し、9月からの試行を経て1月から本格稼働を開始し、全所属において打刻による出退勤の適正把握を図った。</li> <li>・夏季休暇を特別休暇から年次休暇の扱いに改正し、柔軟な運用による休暇取得の促進を図った。(R2.1~)</li> <li>・均衡待遇の観点から、有期雇用職員の休暇制度の充実を図った。(R2.1~)</li> <li>・機構独自の「36協定締結の手引き」を作成し、時間外労働の上限規制の遵守や縮減、適正管理に関して周知を行った。(R2.2)</li> <li>・新しい人事給与システムの稼働に合わせて、業務の効率化を図るため、旅費制度を大幅に改正したほか、実務運用に資するための各種取扱要領を作成した。(R2.3) (給与事務、診療賞与、通勤手当、旅費、自家用車の業務使用)</li> </ul>
16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師の産育休者を対象にして、キャリアシート及び妊娠時の手続きフローシートを活用した面談を実施、職員自身のキャリア形成と復帰後の働き方を検討、職場復帰に向けた支援の実施(信州)</li> <li>・育児短時間勤務者の勤務形態に応じた適切な配置等、部門横断的な検討を継続(信州)</li> <li>・看護師が看護業務に専念できるよう介護福祉士、看護補助者等を活用(信州)</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全産育休者を対象にして、キャリアシート及び妊娠時の手続きフローシートを活用した面談を実施し、職員自身のキャリア形成と復帰後の働き方の検討を促し、復帰に向けた支援を継続して実施した。</li> <li>・育休者のフォローアップ研修を該当者全員に年2回実施し、復帰後の不安解消に役立った。</li> <li>・各部署に介護福祉士、看護補助者等の配置を行い、看護師が看護業務に専念できる体制作りを行っている。</li> </ul>

	・魅力再発見・組織発展プロジェクトでの意見をくみ上げるなど、意見が反映されることで達成感を感じられる職場づくりを推進（信州）			
17	・職員のワークライフバランス充実のため、時差出勤の推進（木曽）	木 曽	A	・時差勤務（サマスタ含む）の利用を進め、ワークライフバランスの充実を図った。
18	・医師等の負担を軽減するため医療クラーク（医師事務作業補助者）を活用（こども）	こ ど も	A	・医療クラーク13人を配置し、医師の負担軽減を図っている。
19	・病院において院内広報誌等を発行（信州、ここ駒、阿南、木曽）	信 州	A	・院内広報誌「みちしるべ」を年2回（8、12月）発行し、管理者からのメッセージや各部署からのお知らせ、各部署の取組みや活動の紹介等を掲載し、職員間の理解と一体化を図った。
20	同上	駒 ヶ 根	A	・院内の情報共有を目的に、院内広報誌「猫ベンチのつぶやき」を臨時も含め8回発行し、幹部職員のインタビュー、新入職員やセクションの紹介、職場環境改善コアチームの活動などを掲載した。
21	同上	阿 南	A	・職員日より「なごみ」を発行し、職員間の情報共有やコミュニケーションを図った。
22	同上	木 曽	A	・職員相互の理解を深め、組織の一体感を醸成するため、職員の紹介や院内情報などを掲載した院内広報紙「時の河」を年4回発行した。 ・経営状況や各科の取組を紹介した「経営改善ニュース」を月1回発行した。
23	同上	こ ど も	A	・院内外向け広報誌「しろくまニュースレター」を年7回発行した。
24	イ 研修体制の充実	信	A	・研修センターと連携し、医師・研修医・医学生・看護師等を対象にシミュレータを活用

	<p>(ア) 研修システムの構築</p> <p>病院等との意見交換を行い、要望等を取り入れた研修計画を策定し、課程別研修から専門研修まで含めた研修を実施し、職員の知識・技術の向上を図る。(研セ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機構本部及び各病院との連携のもとに全職員を対象とした病院経営、医療安全、メンタルヘルス及びコンプライアンス等に関する研修を実施（本部）</li> <li>・県立病院で実施する新人看護職員研修を計画段階から支援、及び講師派遣（研セ）</li> <li>・「新規採用職員研修」や「キャリア形成研修」など各種研修会の開催により、様々なスキルアップのための機会を提供（研セ）</li> <li>・シミュレータを有効活用し、シミュレーション研修の充実（研セ）</li> <li>・各種シミュレータを活用し、医療機関や福祉施設等への出前研修等の実施（研セ）</li> </ul>	州		<p>した技術研修を実施した。</p> <p>※腹腔鏡、大腸カメラ、上部消化管内視鏡、中心静脈カテーテル挿入シミュレータ、分娩シミュレータ、A E D、Simman 3 G、さくら、リトルアン、切開キットなどを使用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期研修医シミュレーション教育を10回実施した。</li> </ul>
25	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種によるシミュレーション研修を研修センターと共催で行い、情報伝達、共有の必要性について学んだ。(54人参加)</li> </ul>
26	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2名の新人看護師の研修を実施</li> <li>・医療機器の取り扱い、看護技術の向上を目的とした集合研修を13回開催し、併せて、フォローアップ研修も病院看護師メンバーの一員として業務が実施できるよう年間を通じ実施した。</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県看護協会の新人看護職員研修（県の補助事業）に6回参加した。</li> <li>・診療圏域内の中学校6校でBLS研修を実施した。</li> </ul> <p>6月 売木中学校 1～3年生 15名  7月 天龍中学校 1～3年生 11名  遠山中学校 2年生 10名  泰阜中学校 2～3年生 24名  阿南第一中学校 2年生 18名  阿南第二中学校 3年生 5名  計 83名</p>
27	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採用看護職員も含めた研修で、シミュレータを活用した研修を10回実施した。</li> <li>・新人職員を対象に多重課題、急変時の対応、緊急時の報告をテーマとするシミュレーション研修を計3回実施したほか、中堅職員を対象とした急変時の新人職員への指導について、シミュレーション研修を実施した。</li> </ul>
28	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機構職員として受講義務のある研修は、研修回数・時間等の工夫やeラーニング等の利用によって、参加率の向上が図れた（感染研修90%以上、医療安全90%以上、接遇80%以上など）。</li> <li>・BLS・PBLs、各シミュレーション研修等は、その内容により院内全体・部署別等に落とし込み実施することができた。</li> <li>・キャリア開発研修等、看護部発信の研修だったが、各医療スタッフの受講も増え、キャリアを形成していくことステップアップしていくことが、全職員の共通理解になってきた。</li> </ul>
29	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の知識・技術の向上を図るため、病院等の意見を反映させた、課程別研修から専門研修までを実施した。</li> <li>・キャリア形成研修では、病院機構に関する知識の醸成を図るためのプログラムを新たに実施した。</li> </ul>

--

<b>【課程別研修】</b>	
新規採用職員課程Ⅰ研修	92人
新規採用職員課程Ⅱ研修	55人
勤務3年目研修	34人
キャリア形成研修①	48人
キャリア形成研修②	30人
キャリア形成研修③	18人
キャリア形成研修④	39人
リーダー研修Ⅰフォロワーシップ研修	40人
リーダー研修Ⅱリーダーシップ研修	37人
新管理職研修	21人
<b>【選択研修】</b>	
公文書の書き方・扱い方・労働条件・サービス研修	12人
OJT研修	26人
<b>【看護部専門研修】</b>	
レジリエンス研修	17人
<b>【医療技術部専門研修】</b>	
医療技術部集合研修	35人
臨床検査技師研修会	32人
診療放射線技師研修会	17人
薬剤師研修会	34人
栄養部門研修会	8人
管理栄養士研修会	14人
臨床工学技士研修会	9人
<b>【事務職研修】</b>	

			<p>事務職員研修 20人</p> <p>事務職新規採用者研修 3人</p> <p>・信州医療センター新人研修委員会のメンバーとして、新人看護職員研修計画の段階から支援、協力した。</p> <p>新人研修委員会等への参加 12回</p> <p>新人看護師研修の支援 8回</p> <p>・阿南病院と連携し、中学校6校でシミュレータを活用したBLS（一次救命処置）研修を実施した。</p> <p>6月 売木中学校 1～3年生 15人</p> <p>7月 天龍中学校 1～3年生 11人</p> <p>遠山中学校 2年生 10人</p> <p>泰阜中学校 2～3学年 24人</p> <p>阿南第一中学校 2年生 18人</p> <p>阿南第二中学校 3年生 5人</p> <p>・福祉施設等でシミュレータを活用した研修を実施した。</p> <p>5月、7月 長野県保健師専門研修 21人</p> <p>11月 長野県林業センター 13人</p> <p>11月 松本養護学校 16人</p>
30	・看護師のキャリア開発ラダーレベルを踏まえた研修の実施と各病院への支援（本部、研セ）	本 部	<p>A</p> <p>・看護の実践能力評価の標準化を図るため、看護部長会及び教育担当者会議を中心にラダーの見直し作業を行い、新しいキャリア開発ラダー（案）を作成</p> <p>・令和2年度からの本格運用に向けて令和元年度は試行を行い、人事評価との運用の調整を検討していく。</p> <p>・看護師のキャリア開発ラダーレベルを踏まえた研修にて、講師を行った。</p> <p>こども病院研究アドバイザー研修 9人</p> <p>信州医療センターメンター研修 15人</p>

				信州医療センター看護部 I b研修 23人 こども病院フィジカルアセスメント研修II 17人
31	(イ) シミュレーション研修の指導者育成と実践 ・ハワイ大学医学部 SimTiki シミュレーションセンター研修受講者等シミュレーション研修に携わる職員を中心としたセミナーの開催を通じ指導者の育成、スキルアップを図る。 (研セ) ・県内外のシミュレーション教育における指導的立場にある者の協力を得て、シミュレーション教育のレベルアップ (研セ) ・信州木曾看護専門学校の教員向けに、シミュレーション指導者研修を実施 (研セ)	本部	A	・SimTiki研修修了者及び長野県内医療機関等でシミュレーション教育に関心のある職員等を対象とした、シミュレーション教育指導スキルアップシリーズ①～③を北信・南信2会場で計6回開催し、18施設から延べ138人が参加した。また、機構職員8人が講師として携わった。 スキルアップシリーズ① 45人 スキルアップシリーズ② 47人 スキルアップシリーズ③ 46人 <b>【新規参加施設】</b> 清泉女学院大学 ・信州木曾看護専門学校の教員向けにシミュレーション指導者研修を実施し、12人が参加した。
32	(ウ) 各病院及び研修センター分室を通じた研修の充実 各病院においては、病院独自の院内研修の実施、学会等の企画・運営への積極的な関与等を通じ、公的医療機関としての使命を果たすという意識の醸成、知識・技術の向上を図る。	信州	A	・院内の各委員会等の企画による研修会を実施 新任職員 (医師) オリエンテーション、感染対策研修会、医療安全推進研修会、褥瘡予防研修会、サービス向上ロールプレイング研修会、育児休暇中フォローアップ研修会、重症度・医療・看護必要度研修会、クリニカルパス学習会、口腔ケア研修会、接遇研修会、糖尿病学習会、医療ガス安全管理研修会、R S T呼吸器学習会、看護師復帰支援研修会、臨床病理カンファレンス等 なお、院内研究会を令和2年3月に企画し、8演題が提出されたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止せざるを得なかった。(抄録を各部署へ配布)
33	同上	駒ヶ根	A	・依存症拠点医療機関として必要な人材を育成するため、重点的に外部研修を受講した。 ・研修参加者による自己評価及び上司による評価を行い、研修内容を見直した。 ・院内研究発表会を2回実施し、各セクションの取組みを発表する機会を設け、院内の情

				報共有を図った。
34	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症認定看護師による認知症研修会を実施した。 (職員認知症サポーター研修 1回 16名参加 昨年度未受講者等 18人)</li> <li>・医療安全研修会、院内感染研修会、職員BLS研修会等、院内研修会を充実させるとともに、院外研修へ積極的に参加し、人材育成を図った。</li> <li>・院内情報交換会を実施し、各部門での取り組み等を発表し、情報の共有を図った。(2回開催 参加者 81人)</li> </ul>
35	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内の各委員会の企画による早朝勉強会(年11回)、院内感染対策研修会(年2回)のほか、院内研究会、医療安全研修会、診療報酬勉強会、症例検討会、医療倫理研修会、コミュニケーション研修会、アメーバ研修等を活発に行い、職員の資質向上に努めた。</li> </ul>
36	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内臨床研修助成制度、院内業績優秀制度、院外研修助成制度を制定し、職員の研修、研究体制を充実させたことで、診療技能の向上に加え英文論文、著書の数も増加した。</li> <li>・また、学術活動を通して職員の資質向上を図り、小児専門医療機関としての当院の専門性、学術レベルを一層向上させるとともに、当院の対外的な認知度を高めるために、学会等における職員の研究発表等について支援を行った。</li> <li>・信州大学との連携大学院の平成31年度開講に向けて、入学希望者を募り、研究支援体制を構築した。 (課題)</li> <li>・今後も継続して、厚生労働省等からの科学研究費をはじめ、研究資金の確保に努める。</li> </ul>
37	県立病院等合同研究会の開催等、職員が研究成果等を発表できる機会を確保	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月7日に阿南町で県立病院等合同研究会が開催され、当院から2名が研究成果の発表を行った。</li> </ul>
38	看護学生の実習体制充実のため、臨床実習担当者を看護学生等実習指導者養成講習会へ計画的に派遣(信州、こども、木曾、こども)	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州木曾看護専門学校・県立須坂看護専門学校へ講師として18名派遣した。</li> <li>・看護学生等実習指導者養成講習会を看護師2人が受講した。</li> </ul>

39	同上	駒ヶ根	A	・実習担当者2名が臨床指導者研修会に参加した。
40	同上	木曾	A	・看護学生の実習体制充実のため、臨床実習担当者を看護学生等実習指導者養成講習会へに派遣した。(1名派遣)
41	同上	こども	A	・令和元年度は、実習指導者研修への参加はなかったが、各病棟実習指導者経験2年目以上のスタッフが多く、細やかな指導をできた
42	こころの医療センター駒ヶ根では、精神科研修・研究センターにおいて以下の取組みを実施 ・信州大学との連携大学院教育により、医学博士取得を目指す医師を養成 ・日本精神神経学会認定の精神科専門医制度基幹施設病院及び日本老年精神医学会専門医制度認定施設として研修医の受け入れを推進 ・信州大学病院及び長野県看護大学との連携を強化し、研究及び研修を実施	駒ヶ根	A	・信州大学との協定による連携大学院教育は、新たに医師1人が加わり、医師2人が臨床業務に携わりながら研究活動を進め、学位の取得を目指した。 ・信州大学大学院と連携し、統合失調症を対象とする作業療法の研究協力を行った。 ・当院の寄付講座として、信州大学医学部に開設された「地域精神医療学講座」において「長野県での精神医療にかかわる人的リソースの変遷」に関する調査が進められた他、認知症に関する論文出版、学会発表が行われた。 ・新専門医制度の基幹施設として全国の初期研修医に対し募集を行い、医師1人を採用した。 ・新たに1人の医師が精神保健指定医に指定され、当院医師13人のうち、精神保健指定医が12人となり、措置入院、緊急措置、医療保護入院などの救急患者受入体制が強化された。 ・長野県看護大学が企画する学部授業参観に実習指導者1名が参加した。
43	信州大学との連携大学院教育により職員の研究活動を推進し、医学博士取得を目指す医師並びに医療者を養成(こども)	こども	A	・信州大学との連携大学院が開講し、4名が入学し、院内の教育研究体制を整備した。 ・連携大学院セミナーを始め研究発表や議論の場を整備し、研究マインドの醸成に貢献した。 ・病院医学雑誌への投稿を推奨し、他職種による研究成果が発表された。

44	<p>木曾病院及びこども病院の研修センター分室では、配置されているシミュレータの活用等により、各病院が持つ機能や特色を活かした研修を実施（研セ）</p> <p>・木曾病院の研修センター分室では医学生向け病院見学会及び高校生向け医療体験を開催</p>	木曾	A	<p>・将来的な医師の確保に向け、全国の医学生を対象に「病院見学会」を開催し、1名の参加があった。</p> <p>・将来的な病院事務職員及び医療技術職員の確保に向け、県内高校生を対象とした「病院医療体験」を7月に開催し、13名の参加があった。また3月にも計画し、129名から申し込みがあったが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止とした。</p> <p>(参照p.77-No.4)</p>						
45	同上	こども	A	<p>・小児科専門医を目指す専攻医ならびに初期研修医のための研修セミナーを開講し、座学および実技を交えた幅広い研修を提供した。その結果、診療技能の向上、専門医の取得、当院への研修希望の増加などが成果として現れた。</p> <p>・学生向け説明会でシミュレーション体験講習を行い、当院の役割と研修環境の周知を行った。</p>						
46	<p>ウ 医療技術の向上</p> <p>(ア) 認定資格等の取得の推進</p> <p>各病院において、全職種の医療技術向上と職員の資質向上に役立つ認定資格等の取得を奨励し、専門研修への派遣を計画的かつ積極的に行う。</p> <p>認定看護師の配置状況</p> <table border="1" data-bbox="241 1058 813 1394"> <thead> <tr> <th data-bbox="241 1058 432 1153">病院名</th> <th data-bbox="443 1058 633 1153">人数</th> <th data-bbox="645 1058 813 1153">認定看護師の分野内訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="241 1161 432 1394">信州医療センター</td> <td data-bbox="443 1161 633 1394">11人</td> <td data-bbox="645 1161 813 1394">感染管理2人、救急看護2人、がん化学療法看護、皮膚・排泄ケ</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	人数	認定看護師の分野内訳	信州医療センター	11人	感染管理2人、救急看護2人、がん化学療法看護、皮膚・排泄ケ	信州	A	<p>・看護師特定行為研修を看護師1人が修了した。</p> <p>・今年度、認定看護師教育課程（慢性心不全）の研修を看護師1人が受講した。</p> <p>感染管理 2人 救急看護 1人 がん化学療法看護 1人 皮膚排泄ケア 1人 摂食嚥下障害看護 1人 糖尿病看護 1人 手術看護 1人 認知症看護 1人</p> <p>その他、認定看護管理教育課程 ファーストレベル2人 セカンドレベル1人受講</p> <p>・臨床検査科の認定資格等の取得状況は以下のとおり。</p> <p>博士 1人 細胞検査士・国際細胞検査士 2人</p>
病院名	人数	認定看護師の分野内訳								
信州医療センター	11人	感染管理2人、救急看護2人、がん化学療法看護、皮膚・排泄ケ								

		ア、摂食・嚥下障害看護、糖尿病看護、手術看護、認知症看護			超音波検査士（循環器領域） 3人 超音波検査士（腹部領域） 2人 超音波検査士（表在領域） 1人 感染制御認定臨床微生物検査技師 1人 認定消化器内視鏡技師 2人 日本糖尿病療養指導士 1人 東北信地域糖尿病療指導士 1人 2級臨床検査士（循環生理学） 2人 2級臨床検査士（臨床科学） 1人 臨床緊急検査士 4人 健康食品管理士 1人 特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習修了者 1人 有機溶剤作業主任者作業講習修了者 1人 毒劇物取扱者 1人
	こころの医療センター 駒ヶ根	4人	精神科認定看護師3（薬物療法、薬物・アルコール依存症、児童・思春期精神）、認知症看護		・リハビリテーション技術科の認定資格等の取得状況は以下のとおり。 3学会合同呼吸療法認定士 10人 心臓リハビリテーション学会 認定指導士 1人
	阿南病院	1人	認知症看護		・放射線技術科の認定資格等の取得状況は以下のとおり。 肺がんCT検診認定技師 1人 核医学専門認定技師 1人 X線CT技能検定 1人 放射線管理士 1人 放射線機器管理士 1人 ICLS 1人 マンモグラフィ認定 4人
	木曽病院	6人	感染管理、皮膚・排泄ケア、緩和ケア、がん化学療法、認知症看護、糖尿病看護		
	こども病院	12人	皮膚・排泄ケア2、新生児集中ケア3、		

	<p>感染管理 2、 小児救急看護 2、がん化学療法看護、 手術看護、緩和ケア</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養科認定資格等の取得状況は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> <li>栄養サポート専門療法士 3名</li> <li>糖尿病療養指導士 2名</li> <li>東北信地域糖尿病療養指導士 1名</li> <li>病態栄養専門管理栄養士 1名</li> <li>がん病態栄養専門管理栄養士 1名</li> <li>がん専門管理栄養士研修指導師 1名</li> <li>静脈経腸栄養管理栄養士 1名</li> <li>臨床栄養代謝専門療法士 1名</li> </ul> </li> <li>・薬剤部の取得状況は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> <li>感染制御専門薬剤師 1人</li> <li>感染制御認定薬剤師 1人</li> <li>日本静脈経腸栄養学会</li> <li>栄養サポートチーム専門療法士 2人</li> <li>日本薬剤師研修センター 認定薬剤師 8人</li> <li>日本薬剤師研修センター</li> <li>認定実務実習指導薬剤師 4人</li> <li>日本病院薬剤師会</li> <li>生涯研修履修認定薬剤師 3人</li> <li>スポーツファーマシスト 1人</li> <li>H I V感染症薬物療法認定薬剤師 1人</li> <li>日本糖尿病療養指導士認定機構</li> <li>糖尿病療養指導士 2人</li> </ul> </li> <li>・臨床工学科の取得状況は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> <li>3学会合同呼吸療法認定士 2人</li> </ul> </li> </ul>
<p>※上記の他、小児看護専門看護師 2人を配置（こども）、特定行為に係る看護師を養成するための専門研修への派遣検討（信州）、摂食・嚥下障害者看護の認定看護師の研修参加（阿南）</p>			

				透析技術認定士 2人 臨床ME 専門認定士 1人 呼吸治療専門臨床工学技士 1人 血液浄化専門臨床工学技士 1人 消化器内視鏡技師 2人 臨床高気圧酸素治療装置操作技師 1人
47	同上	駒ヶ根	A	・認定看護管理者教育課程 セカンドレベル 1人修了
48	同上	阿南	A	・細胞検査士の認定資格取得 1名
49	同上	木曾	A	令和元年度認定資格等の取得状況 ・検診マンモグラフィ撮影認定技師（更新）1人 ・X線CT認定技師（更新）1人 ・3学会合同呼吸療法認定士（取得）1人 ・透析技術認定士（取得）1人 ・二級検査士（循環生理学）（取得）1人  ・認定看護管理者教育課程 ファーストレベル 2人修了 セカンドレベル 1人修了  ・認定看護師の状況 認定看護管理者 1人 感染管理 1人

				皮膚排泄ケア 1人 緩和ケア 1人 がん化学療法 1人 糖尿病看護 1人												
50	同上	こども	A	・令和元年度、新たな認定看護師の取得はなかったが、リエゾン精神看護専門看護師が採用された。対応が難しい患者・家族への関わりや、産後メンタル支援が充実できた。また、インシデントが起こった病棟のスタッフへの支援やメンタル不調を訴えるスタッフへの対応等において、支援する管理者や該当者本人・関わるスタッフ等への支援が充実した。専門的知識に培われたアドバイスやカウンセリングを受けることができた。												
51	県立病院における認定資格の取得人数 <table border="1" data-bbox="235 667 815 762"> <tr> <td>区 分</td> <td>H30 実績</td> <td>R1 計画値</td> </tr> <tr> <td>認定看護師資格</td> <td>1人</td> <td>2人</td> </tr> </table> 認定看護管理者資格の取得推進 <table border="1" data-bbox="235 863 815 1007"> <tr> <td>区 分</td> <td>H30 まで</td> <td>R1 計画値</td> </tr> <tr> <td>認定看護管理者資格</td> <td>3人</td> <td>1人</td> </tr> </table>	区 分	H30 実績	R1 計画値	認定看護師資格	1人	2人	区 分	H30 まで	R1 計画値	認定看護管理者資格	3人	1人	本部	B	・本年度は信州医療センターで1名（慢性呼吸器疾患看護）認定を受けた。 ・認定看護分野の見直されていることに併せ、これからの取得奨励方針や人材の活用方針を再検討する必要がある。
区 分	H30 実績	R1 計画値														
認定看護師資格	1人	2人														
区 分	H30 まで	R1 計画値														
認定看護管理者資格	3人	1人														
52	(イ) 大学院等への就学支援 業務に活かせる知識・技術等を取得させるため、大学院等へ進学できる環境を整備 働きながら大学院等への進学を希望する職員に配慮した修学部分休業制度の活用	駒ヶ根	A	・修学部分休業を活用し、事務部職員1人が大学院を修了した。												
53	同上	こども	A	・信州大学との連携大学院は令和元年度に4名が入学した。 ・連携大学院に進学した職員の研究について、セミナーを開催した。												

54	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修学部分休業は2名（看護師1、事務職1）が利用し、大学院で修学した。</li> <li>・今後も制度の周知を継続するとともに、業務をフォローできる組織体制の構築に努める</li> </ul>
55	連携大学院に進学する職員に対し、独自の研究奨励制度の下、研究奨励費を支給し、研究活動の支援を実施（こども）	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携大学院に進学した職員3名に対し、研究奨励費の支給を行った。</li> </ul>
56	<p>(ウ) 学術集会や研究会等での研究の奨励</p> <p>各病院において、医療に関する職員の学術研究の取組みを奨励し、学術集会や研究会等での研究発表や論文発表の機会を確保、優秀な研究成果の表彰等を実施</p> <p>学術集会や研究会等での発表や論文作成リストを、病院ホームページにて公開（信州）</p> <p>病院独自の支援制度により職員の研究及び研究発表等を支援（こども）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床医学助成制度：小児・周産期の先進高度チーム医療に貢献する研究に対して助成</li> <li>・優良業績表彰：優秀な論文、出版物の発表に対して表彰</li> <li>・研究発表等助成金：学会での研究発表や論文、出版物の発表、出版に係る職員の活動に対して助成</li> <li>・職員が開催する学術集会等に対して、当院の学術的発展を推進するための開催助成金制度を有効に活用</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療に関する職員の学術研究や講演会活動をホームページにて公表している。</li> </ul>

57	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会発表 医師2人、薬剤師2人、作業療法士1人</li> <li>・ポスター発表 医師1人、作業療法士1人</li> </ul>
58	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会での発表を医師、医療技術部、看護部合わせて16件行った。</li> </ul>
59	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.89-No.36)</li> </ul>
60	同上	本部	A	<p>(本部事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論文投稿 1件</li> <li>・学会での口演発表 2件</li> </ul> <p>(本部研修センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会での口演発表 2件</li> <li>・学会でのポスター発表 1件</li> </ul>
61	<p>(エ) 看護職員キャリア開発ラダーの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本看護協会版クリニカルラダーを組み込んだキャリア開発ラダーの検討と試行</li> <li>・キャリア開発ラダーに基づいた学習内容の検討</li> </ul>	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本看護協会版クリニカルラダーを組み込んだ看護師ラダーと、日本看護協会版マネジメントラダーを基に管理者ラダーを作成した。</li> <li>・取扱要領を修正し説明資料を作成、令和2年度からの運用に向け看護職員に周知した。</li> <li>・ラダーレベルに応じた学習内容を明示した。</li> </ul>

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献

(2) 県内医療に貢献する医師の育成と定着の支援

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

総合診療専門医の養成については、信州医療センターは引き続き基幹施設として、他の県立病院は連携施設として、総合診療専門研修プログラムに基づき総合診療医の養成を推進した。

信州医療センターは、臨床研修指定病院として、初期臨床研修医や自治医科大学5、6年次生及び信州大学4、5年次生の臨床実習等を受け入れた。特に初期研修医については、シミュレーション研修の実施や2年目初期研修医2名のハワイ大学医学部 SimTiki シミュレーションセンターへの派遣などを行った。

各病院においても、へき地医療や小児科などの臨床研修プログラムにより臨床医を受け入れ、県内医療に貢献する医師の育成に力を入れた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 3(2) 1	ア 総合診療専門医の養成 ・5病院の特色を最大限に活かした研修プログラムによる総合診療専門医の養成	信 州	A	・「総合診療専門研修プログラム」の継続運用に加え、総合診療専門領域のサブスペシャリティ領域として日本プライマリ・ケア連合学会の後期研修プログラム「長野県家庭医養成塾」の認定を受けた。

	・「へき地医療臨床プログラム」に基づき信州医療センター等と連携し新専門医制度における連携病院として総合診療専門医の養成（阿南）（再）			
2	同上	駒ヶ根	－	・総合診療専門研修プログラムの連携施設であるが、研修実績はなかった。
3	同上	阿南	－	・総合診療専門研修プログラムの連携施設であるが、研修実績はなかった。
4	同上	木曾	－	・総合診療専門研修プログラムの連携施設であるが、研修実績はなかった。
5	同上	こども	－	・総合診療専門研修プログラムの連携施設であるが、研修実績はなかった。
6	<p>・高度救急医療にかかる研修を行うため、高度救命救急センターを有する信州大学と提携（信州）</p> <p>・福島県立医科大学と提携し、同大学の家庭医療学専門医コースへの派遣研修を選択研修として実施（信州）</p> <p>・研修プログラムとスタッフの充実を図り、専門分野に特化した指導體制を強化、豊富な臨床の場の提供によってジェネラリストの養成と定着を推進（信州）</p>	信州	A	<p>・研修医が高度救急医療にかかる研修を行うため、高度救命救急センターを有する信州大学で研修を行っている。また、世界的にも屈指のシミュレーションセンターを有するハワイ大学医学部のシミュレーション研修にも研修医を2人派遣した。</p> <p>・総合診療専門医の養成に備え、福島県立医科大学と提携を継続している。</p> <p>・8月に、福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座葛西龍樹主任教授による総合医養成セッションを開催した。（参加者10人）</p> <p>・他の領域別専門医、一般の医師、歯科医師、医療や健康に関わるその他の職種などと連携し、地域の医療、介護、保健など様々な分野でリーダーシップを発揮しつつ多様な医療サービスを包括的かつ柔軟に提供する医師である総合診療専門医育成のため、総合診療専門医基幹施設の継続運用のほか、サブスペシャリティ領域として日本プライマリ・ケア連合学会の後期研修プログラム「長野県家庭医養成塾」の認定を受けた。</p>

7	<p>イ 臨床研修医の受入れと育成</p> <p>臨床研修医の増員に努めるとともに、臨床研修プログラムの充実を図り、臨床研修医の積極的な受け入れ（信州）</p> <p>新たな専門医制度に対応した総合診療専門医養成プログラムを活用し、新卒医師等の初期臨床研修後の受け皿としての役割を果たすことで、地域医療を志す医師を育成・確保（信州）</p> <p>研修センターと密接に連携し、シミュレーション教育を積極的に取り入れた病院独自の育成プログラムの実施、総合診療専門医基幹施設の準備に着手（信州）</p>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修医を今年度新たに2人受入れた。</li> <li>・自治医科大学6年次生臨床実習受入（1人）</li> <li>5年次生夏季実習受入（2人）</li> <li>・信州大学5年次生臨床実習受入（16人）</li> <li>4年次生臨床実習受入（7人）</li> <li>・HPの掲載内容の充実や、研修医ブログの定期的な更新の効果もあり、安定した病院見学者数を確保した。（11人）</li> <li>・初期研修医及び総合診療専門医募集のため、ホームページにプログラムを公開している。</li> <li>・医師臨床研修マッチングにおいて、医学生に寄り添った情報発信と当院のよさをアピールすることで、3名の枠に対して3名確保し、フルマッチした。</li> <li>・レジナビや合同説明会に参加し、募集活動を行った。（年4回）ブース来訪者数合計95人。</li> <li>・研修センターと連携し、医師・研修医・医学生・看護師等を対象にシミュレータを活用した技術研修を実施した。</li> </ul> <p>※腹腔鏡、大腸カメラ、上部消化管内視鏡、中心静脈カテーテル挿入シミュレータ、分娩シミュレータ、AED、Simman 3 G、さくら、リトルアン、切開キットなどを使用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期研修医シミュレーション教育を10回実施した。</li> </ul>
8	<p>信州大学医学部附属病院で行う「信州大学と長野県内関連病院群研修プログラム」に信州医療センターが関連病院として参加、それぞれの特徴を活かしたプログラムを提供し初期研修を受け入れ（信州）</p>	信州	A	<p>信州大学からのたすき掛け1人を受入れ予定だったが、該当者が国家試験不合格により、たすき掛け受入れ実績はなかった。</p> <p>臨床実習生の受入れは、5年次生16人、4年次生7人。</p>
9	<p>精神科研修・研究センターにおいて、制度改正により平成32年度から増加する初期研修</p>	駒ヶ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修医の受入れに際して、関係病院と調整を行い、全ての要望に応えられるよう計画を策定した。</li> </ul>

	医の受け入れのため、関係病院との調整、院内体制を整備（ここ駒）	根		
10	<p>（一社）日本専門医機構認定の小児科専門研修プログラムを提供、小児科専門医を育成、短期研修医を受け入れ、人材を育成（こども）</p> <p>小児の専門的救急医療の対応ができる職員のスキルアップ・教育制度を整備、質の高い小児救急医療サービスを確保（こども）</p>	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2名の小児科後期専門研修医を当院および関連する施設で受け入れた。新専門医制度に基づくカリキュラムを整備し、新制度下で新たに1名の専攻医を受け入れた。また、適宜短期研修を受け入れた。</li> <li>（課 題）</li> <li>・継続的で魅力ある研修体制の整備とさらなる充実を図る。</li> </ul>
11	<p>1年目初期研修医を対象に、ハワイ大学医学部 Sim Tiki シミュレーションセンターのプログラムを活用した独自のプログラムでシミュレーション研修を実施、2年目初期研修医を対象にハワイ大学医学部 Sim Tiki シミュレーションセンターへの派遣研修を実施（研セ）</p> <p>県の「信州医師確保総合支援センター」分室として、医学生及び初期臨床研修医等を対象としたシミュレーション研修を実施（研セ）（再）</p>	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州医療センター1年目初期研修医を対象に、シミュレーション研修を20回実施し、延べ56人が参加した。</li> <li>・信州医療センター2年目初期研修医2人をハワイ大学医学部SimTikiシミュレーションセンターへ派遣した。</li> <li>・信州医療センターにおいて、臨床実習を行う医学生にシミュレーション研修を33回実施し、延べ58人が参加した。</li> <li>・県立5病院と連携し、病院見学参加者増と県立病院機構研修医育成病院としてのブランディングを目的に、医学生を対象とした、第3回県立病院機構病院説明会を信州大学で開催し、2大学から11人の医学生が参加した。</li> <li>・阿南病院及び木曽病院主催の病院見学会（医学生向け）のサポートを行い、信州大学から1人の医学生が参加した。（参照p.78-No.6）</li> </ul>

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献

(3) 信州木曾看護専門学校の運営

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州木曾看護専門学校では、平成28年度の開校以降、4年間に100名の卒業生を輩出した。国家試験合格率は平成30年度までの3年間は100%、令和元年度は96.3%であった。県内への就職率は卒業生の90%であり、平成30年度の新卒離職率は0%（全国新卒離職率7.8%）であった。

県内就職者は、看護師不足が顕著な木曾、上伊那、飯伊地域へ平成28年度11名、平成29年度9名、平成30年度は11名、令和元年度は10名であり、地域医療に貢献できる人材を輩出することができた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画 (令和元年度計画に修正済みです)	業務実績（平成30年度実績が記載されています）		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 3(3) 1	学生定員90人 恵まれた自然と歴史ある環境のもと、人間の生命や生活の質を多角的に理解し尊重できる豊かな人間性を育むとともに、科学的思考に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養成する。また、生涯にわたって学び続ける態	木 曾 看 看	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開校以来6年が経ち、平成28年度卒業生（第1期生）平成29年度卒業生（第2期生）平成30年度卒業生（第3期生）は国家試験合格率100%、令和元年度卒業生は96.3%であった。1・2・3期生で保健師・助産師の資格取得のため進学した5名全員がそれぞれの資格を取得し県内の病院、市町村役場に就職した。</li> <li>・卒業生の就職先は、県内で看護師不足が顕著な木曾、上伊那、飯伊地域へ平成28年度11名、平成29年度9名、平成30年度は11名、令和元年度は10名が就職した。</li> </ul>

	<p>度を身につけ、地域における保健・医療・福祉の充実及び発展に貢献する人材の育成を目指す。</p> <p>また、5年間の実績を踏まえてカリキュラムを見直し、授業と実習の質の向上に努めるとともに、引き続き看護師国家試験受験へのサポートを行う。また、卒業生と在校生の交流の機会を設け、先輩としての力を活かせるようフォローアップしていく。</p> <p>ア 特色あるカリキュラムの提供と看護の基礎的実践力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域性を活かした授業内容、地元地域への愛着を育む課外活動及び学校行事を提供</li> <li>・シミュレーション教育を充実し、基礎的な看護技術の習得と実践力の向上</li> <li>・木曽病院をはじめ臨地実習施設と連携を取り、学生が学びやすい実習体制の整備</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境論の講義や地域の里山の散策などの活動を通して、自然と人間、里山の暮らし、森林セラピーについて理解を深めた。卒業時のアンケートでは、最も印象に残った科目に環境論が挙げられた。</li> <li>・実習では、1年生は基礎看護学実習2回(7月、1月)、2年生は成人看護学実習Ⅰと老年看護学実習Ⅱ(8月、2月)、3年生は成人、老年、母性、小児、精神、在宅の領域別看護学実習(5月から11月)、統合実習(11月から12月)を実施し、実習地域も拡大した。木曽病院の他に飯伊、上伊那、塩尻、安曇野、大町地域の7病院と協議・連携しながら実施、在宅看護学実習では地域の訪問看護・巡回診療・町村保健活動等に同行し地域医療の実際を学んだ。</li> <li>・3年生は、事例または文献研究を学内で発表し、優れた論文は、長野県看護学生研究発表会、県立病院機構等研究会で発表した。その経験を通し、科学的思考の基盤を形成した。</li> <li>・基本的な看護技術の習得において、2年生が1年生に指導する方法を導入し、双方の技術向上に寄与した。</li> <li>・3年生の国家試験対策として必修問題及び模擬試験に重点的に取り組んだ。又、2年生から低学年模擬試験を実施した。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの評価、実習体制の充実</li> <li>・看護技術教育の実践的な学びを深める教材の充実</li> <li>・基礎学力向上及び国家試験へのサポート体制の充実</li> <li>・思考力を育てる教材の研究</li> </ul>
2	<p>イ 教員等の安定的な確保及び教育力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県の看護教育経験者及び臨床現場である県立病院との人事交流の促進等による専任教員の安定的な確保</li> <li>・専任教員として、段階的な教育力の向上</li> </ul>	木 曾 看	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教員2人の配置(木曽病院との人事交流で2名が専任教員へ)された。</li> <li>・教務主任養成講習会へ1名派遣した。</li> <li>・各専門領域別に教員が配置され、教授体制が整った</li> <li>・教員は年に1回程度の学会参加を始め、専門領域の研修へ参加した</li> <li>・シミュレーション教育充実のための研修会参加-本部研修センター研修へ2名参加</li> </ul>

	<p>放送大学・大学院などの進学促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内での基礎的な看護技術指導での内容統一及び協力体制作りを促進</li> <li>・教職員等の学会・研修会等への参加の機会を増やし、教育力・教育環境の向上</li> <li>・研修会や臨地実習指導者会議での意見交換等を通して、実習における教育力の向上</li> <li>・長野県看護教員のキャリア別達成目標（教員版のキャリアラダー）について、日本看護協会や県立病院機構看護職のキャリアラダーを踏まえて、本校での運用について検討</li> <li>・適任者の教務主任養成講習会への派遣</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教員の教育力向上への支援、及び平成29年3月に提示された「長野県看護教員のキャリア別達成目標」を生かした教員全体の教育力向上－中堅期の研修へ1名が参加（課題）</li> <li>・専任教員の実習指導と学内授業との調整（実習指導教員の確保と生かし方）</li> <li>・基礎学力向上及び国家試験対策への指導力向上</li> <li>・シミュレーション教育充実のための研修会の実施</li> <li>・各実習施設での臨床実習指導者育成への働きかけ及び教員との情報交換・意見交換など</li> <li>・新任教員の教育力向上への支援、及び平成29年3月に提示された「長野県看護教員のキャリア別達成目標」を生かした教員全体の教育力向上</li> <li>・教務主任養成講習会受講へ派遣</li> <li>・教員の養成－養成講習会への参加促進依頼</li> <li>・教員のキャリア形成の促進－大学・大学院への進学の促進</li> </ul>
3	<p>ウ 学生募集及び学生確保に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲・目的意識の高い学生の確保に向け、一般入試に指定校などの推薦入試を組み合わせた選考を実施</li> <li>・ホームページ・ブログなど各種の広告媒体でのPR、オープンキャンパスの開催など、県内及び木曽の隣接県への広報活動を実施</li> </ul>	木 曾 看	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内（南信・中信・北信）及び木曽隣接地域(岐阜県)の高等学校訪問校62校、高等学校進路相談会参加11回（模擬授業含む）。</li> <li>・オープンキャンパスを2回（7月、10月）実施、述べ223人参加（付添者含む、昨年度より29人増）</li> <li>・推薦入学試験1回（11月）・一般入学試験2回（1月初旬、2月末）実施、昨年度より12%減の出願・受験。令和2年度入学生28人を決定</li> <li>・オープンキャンパス参加者アンケート結果より、ホームページからの情報把握者の増加を確認</li> <li>・ホームページのブログで学生の活動状況を広報（年40回）</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内高等学校等への情報伝達の強化(学校訪問、高校進路相談会、地域進路ガイダンス、模擬授業、学校見学受入れ等)</li> </ul>
4	<p>エ 学生の学習環境及び生活環境の整備・充</p>	木	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立病院機構研修センターのシミュレーション教材を有効活用、借用2回（基礎看護学</li> </ul>

	<p>実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の運営に必要な、教材等の整備</li> <li>・学校及び学生宿舍周辺地域との調整等を行い、学生の生活を支援、地域との交流を促進</li> <li>・入学前学習から入学後の学習習慣のサポート</li> <li>・国家試験対策の推進、進学及び就職へのサポート</li> </ul>	<p>曾 看</p>	<p>教材フィジカルアセスメントモデル、母性看護学教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室は昨年に続き木曾郡町村会からの専門図書整備への継続的な支援を得て段階的に蔵書数を増加している（令和元年度3月末5,294冊—102冊増加）</li> <li>・図書係活動で学生による推薦図書の掲示や年間図書貸出しランキングと表彰、蔵書点検を実施</li> <li>・学生宿舍は平成27年度から2棟28戸の提供（経済力を考慮した選考による）を継続、地域行事にも参加</li> <li>・学校設置地区の文化祭(11月)への参加交流</li> <li>・近隣の林業大学校との交流：木曾町歓迎会、看護の日、学校祭への相互参加、交流事業を2回（林業大学校訪問1回、当校への招待1回）実施</li> <li>・地域の住民とともに手話の学習会に参加</li> <li>・3年生の国家試験対策として必修問題及び模擬試験に重点的に取り組み（必修対策ドリル1月～2月はほぼ連日、全国模試4回、朝テスト、個別相談・保護者との連携、学習指導、グループ学習指導、土曜日の学校開放等）</li> </ul> <p>（課 題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段階的に具体的な教育方法に相応しい教材を整備</li> <li>・学生の余暇活動を支援する用具の整備</li> </ul>
5	<p>オ 卒業生と在学生との交流の場づくりとフォローアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームカミングデイをとおして卒業生の状況を把握、支援</li> <li>・卒業生と在学生や学校受験対象者との交流</li> <li>・同窓会活動等のサポート—第1回同窓会総会へのサポート</li> </ul>	<p>木 曾 看</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームカミングデイの実施（6月）10人の卒業生が来校し教員と交流。</li> <li>・同窓会から、オープンキャンパス、3年生の国家試験対策、壮行会に卒業生を派遣依頼し、在校生支援や学生確保に協力をしてもらった。殊に、国家試験の支援は効果的であった。</li> <li>・就職先病院から参観日の招待があり、卒業生の就業状況、成長をみる事ができた。</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会総会を実施。提出議案の審議を行い、その後教員を交えて懇親会を開催した。</li> </ul>

6	<p>カ 地元関係団体などとの連携・協力体制の構築など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評議会（地元行政機関、地域住民などから構成される学校評議員が参加）を開催</li> <li>・地元行事への参加、地域の人々の教育活動への参画及び学校祭の開催</li> </ul>	木 曾 看	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評議員を委嘱し、学校評議会を開催(7月)</li> <li>・校外授業(4月、5月、6月、9月)や地元行事等(9月、11月、2月)への参加により地元の方々と交流 (課題)</li> <li>・引き続き学校評議員等からの意見を収集</li> <li>・地域との交流を継続、拡大(授業、実習等との調整)</li> </ul>
7	<p>キ 組織的、継続的な学校運営及び教育活動の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価ガイドライン等に基づき、自己評価の仕組みを構築</li> <li>・学校評議会等をとおして意見を聞き、学校運営へ反映(再)</li> </ul>	木 曾 看	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員担当科目では適宜リアクションペーパー、アンケートにより学生の状況を把握して授業計画に反映</li> <li>・自己評価の準備として統一した評価項目の設定をした。</li> <li>・年に3回のカリキュラムの評価会議を設け評価と課題の抽出を行った。 (課題)</li> <li>・自己評価の実施</li> </ul>

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献

(4) 県内医療水準の向上への貢献

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

本部研修センターでは、昨年度に引き続き、大阪市立総合医療センターの協力を得てシミュレーション教育指導スキルアップシリーズを開催したほか、貸出可能なシミュレータリスト等をホームページに掲載し、他医療機関等における利便性の向上を図った。

信州大学医学部や信州木曾看護専門学校をはじめとする県内の医療関係教育機関からの要請に基づき、各病院から医師・看護師を派遣するとともに、各病院のもつ医療機能に応じ、職種ごとに実習生を積極的に受入れた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 3(4) 1	<p>ア 県内医療従事者を対象とした研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シミュレーション教育における専門家を幅広く招聘し、シミュレーション教育に関する講習会の開催（研セ）</li> <li>・ホームページ等を活用した広報活動を積極的にを行い、シミュレータの利用促進（研セ）</li> </ul>	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県立小児医療センターの協力を得て、第6回長野小児救急セミナーをこども病院と共催で開催。長野県内外の初期・後期研修医13人が参加した。</li> <li>・大阪市立総合医療センターの協力を得て、シミュレーション教育指導スキルアップシリーズ③を開催し、長野県内の17施設から46人が参加した。</li> <li>・貸出可能なシミュレータリスト及び借用申請書等をホームページに掲載した。</li> <li>・信州医療センター1年目初期研修医を対象に、シミュレーション研修を20回実施し、</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年目初期研修医等を対象に、ハワイ大学医学部 Sim Tiki シミュレーションセンターのプログラムを活用した独自のプログラムでシミュレーション研修を実施（研セ）</li> </ul>			<p>延べ56人が参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.78-No.6）</li> </ul>
2	<p>信州医療センターでは、感染症センターによる以下の取組みを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本感染症学会認定施設として感染症専門医を育成</li> <li>・医療機関内で感染制御に関わる薬剤師の短期研修</li> <li>・医療機関内で結核のケアに従事する看護師の短期研修</li> <li>・厚生労働省、AIDS 予防財団の委託を受けて、介護施設、訪問看護ステーション看護師に対する3日間の実地研修を継続</li> <li>・感染症に関する知識を広めるため、研修会や公開講座の実施</li> <li>・感染症対策関係閣僚会議が作成した薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの実現に向け、教育分野や感染予防・管理分野等の医療機関に向けた情報発信</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症センターにより以下の取組を行った。</li> </ul> <p>日本感染症学会認定施設として感染症専門医を育成</p> <p>医療機関内で感染制御に関わる薬剤師の短期研修開始に向けた準備</p> <p>感染症に関する知識を広めるため、研修会や公開講座の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わかりやすい胸部画像読影のポイント（8月3日）</li> <li>観察技術を身に付けよう！＜呼吸器系の観察・血ガス値の見方＞（8月3日）</li> <li>第3回北信HIVセミナー（11月13日）</li> </ul> <p>感染症対策関係閣僚会議が作成した薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの実現に向け、教育分野や感染予防・管理分野等の医療機関に向けた情報発信</p>
3	<p>こころの医療センター駒ヶ根では、精神科研修・研究センターにおいて、以下の取組みを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学との連携大学院教育により、医学</li> </ul>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学との協定による連携大学院教育は、新たに医師1人が加わり、医師2人が臨床業務に携わりながら研究活動を進め、学位の取得を目指した。</li> <li>・日本精神神経学会新専門医制度における単独型の基幹研修施設として、後期研修医（専攻医）を1名採用した。</li> </ul>

	<p>博士取得を目指す医師を養成（再）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本精神神経学会認定の精神科専門医制度基幹施設病院及び日本老年精神医学会専門医制度認定施設として研修医の受け入れを推進（再）</li> <li>・信州大学及び県看護大学と連携し、研究及び研修を実施（再）</li> <li>・精神医療に関する研修会や院外の講座等を実施</li> <li>・県内の薬剤師を対象に精神科薬剤療法についての受入研修を実施</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学大学院と連携し、統合失調症を対象とする作業療法の研究協力を行った。また、長野県看護大学が実施する看護研究研修会に1名参加した。</li> <li>・研修・研究センター長による公開講座を開催した。</li> <li>・地域の薬局から研修生3名を受入れ、精神科薬剤師研修プログラムを実施した。</li> </ul>
4	<p>こども病院では、以下の取組みを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療機関からのリハビリテーションスタッフ研修生の受け入れ（再）</li> <li>・信州大学小児医学講座、信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部、こころの医療センター駒ヶ根と共同し、医師や臨床心理技術者、作業療法士などを県内10圏域ごとに行われる研修会や事例検討会などに派遣（再）</li> <li>・エコーセンターでは、超音波専門技師養成研修を実施して県内の超音波専門技師育成と日本超音波医学会の超音波専門技師資格取得者希望者の研修・教育を行って有資格者の育成に努める</li> <li>・研修センターと協同で、実地研修セミナー</li> </ul>	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.63-No.24）</li> <li>・循環器センターローテーションフェローについて心臓超音波検査の実地研修を例年通り行った</li> <li>・総合スクリーニング部門で、日本超音波医学会認定超音波検査技師資格を、放射線科技師が院内から初めて合格した。</li> <li>・エコーセンター所属超音波検査技師による全国学会発表演題5題、2講演を行った。</li> </ul>

	を開催して胎児診断及び超音波診断の教育と普及																														
5	イ 医療関係教育機関などへの支援 県内医療関係教育機関等での教育を担うため職員を派遣する。また、実習生を積極的に受け入れる。	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学、杏林大学、自治医科大学医学部クリニカルクラークシップ実習として、年間24人の医学生を受け入れた。</li> <li>・須坂看護専門学校へ医師、看護師、医療技術職員を講師として派遣している。</li> <li>・信州木曾看護専門学校、佐久大学助産師別科へ管理栄養士を講師として派遣している。</li> <li>・各科で以下の実習生を受け入れた。</li> </ul> <table> <tr> <td>看護部</td> <td>須坂看護専門学校</td> <td>170人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>上尾看護専門学校（通信課程）</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>特定行為研修実習（日看協）</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション技術科</td> <td>信州大学</td> <td>理学療法士 1人 作業療法士 1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>長野保健医療大学</td> <td>理学療法士 2人 作業療法士 1人</td> </tr> <tr> <td>放射線技術科</td> <td>鈴鹿医療科学大学</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>栄養科</td> <td>高崎健康福祉大学</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>北里大学保健衛生専門学院</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>松本大学</td> <td>2人</td> </tr> </table>	看護部	須坂看護専門学校	170人		上尾看護専門学校（通信課程）	6人		特定行為研修実習（日看協）	1人	リハビリテーション技術科	信州大学	理学療法士 1人 作業療法士 1人		長野保健医療大学	理学療法士 2人 作業療法士 1人	放射線技術科	鈴鹿医療科学大学	1人	栄養科	高崎健康福祉大学	1人		北里大学保健衛生専門学院	1人		松本大学	2人
看護部	須坂看護専門学校	170人																													
	上尾看護専門学校（通信課程）	6人																													
	特定行為研修実習（日看協）	1人																													
リハビリテーション技術科	信州大学	理学療法士 1人 作業療法士 1人																													
	長野保健医療大学	理学療法士 2人 作業療法士 1人																													
放射線技術科	鈴鹿医療科学大学	1人																													
栄養科	高崎健康福祉大学	1人																													
	北里大学保健衛生専門学院	1人																													
	松本大学	2人																													
6	同上	駒ヶ根	A	<p><b>【講師派遣】</b></p> <table> <tr> <td>信州大学医学部</td> <td>医師 1人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>信州木曾看護専門学校</td> <td>医師 4人</td> <td>看護師 4人</td> </tr> <tr> <td>長野県看護大学</td> <td>看護師 1人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>須坂看護専門学校</td> <td>看護師 2人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>上伊那医師会付属准看護学院</td> <td>看護師 2人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>岡谷市看護専門学校</td> <td>看護師 1人</td> <td></td> </tr> </table>	信州大学医学部	医師 1人		信州木曾看護専門学校	医師 4人	看護師 4人	長野県看護大学	看護師 1人		須坂看護専門学校	看護師 2人		上伊那医師会付属准看護学院	看護師 2人		岡谷市看護専門学校	看護師 1人										
信州大学医学部	医師 1人																														
信州木曾看護専門学校	医師 4人	看護師 4人																													
長野県看護大学	看護師 1人																														
須坂看護専門学校	看護師 2人																														
上伊那医師会付属准看護学院	看護師 2人																														
岡谷市看護専門学校	看護師 1人																														

			<p>【実習生受入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療部 信州大学医学部医学科 8人</li> <li>・看護部 長野県看護大学 39人</li> <li style="padding-left: 20px;">須坂看護専門学校 29人</li> <li style="padding-left: 20px;">信州木曾看護専門学校 27人</li> <li style="padding-left: 20px;">上伊那医師会附属准看護学院 9人</li> <li>・リハビリテーション科</li> <li style="padding-left: 20px;">信州大学医学部保健学科 19人</li> <li style="padding-left: 20px;">長野保健医療大学 1人</li> <li style="padding-left: 20px;">中部大学 1人</li> <li>・地域連携室 東京福祉大学 心理学科 1人</li> <li style="padding-left: 20px;">長野大学社会福祉学部 1人</li> </ul>
7	同上	阿南 A	<p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州木曾看護専門学校へ「総合医療論Ⅱ」「疾病と治療論Ⅳ」「地域看護」の講師として3人(7単位)派遣した。</li> <li>・阿南高校福祉コースへの講師派遣については、病院から「こころとからだの理解」16回(32時間)、老健から「生活支援技術」として22回(44時間)派遣した。</li> <li>・信州木曾看護専門学校、飯田女子短大へキャリアデザイン授業へ講師として1名ずつ派遣</li> <li>・実習生、体験学習については以下のとおり積極的に受け入れた。</li> </ul> <p>飯田女子短期大学看護学科 「看護基礎Ⅰ」 5日 1年生9人 「看護基礎Ⅱ」10日間 2年生8名 「総合実習」10日間 3年生3人</p> <p>阿南第一中学校 職場体験 1人 2日間 下條中学校 職場体験 3人 2日間 阿南第二中学校 7人 見学2時間</p>

				<p>天竜村中学校 3人 見学2時間  信州木曾看護専門学校 5人 1日間 5回  看護学生 インターンシップ 1人 1日  東京医療学院大学 1人 約2ヶ月</p>
8	同上	木曾	A	<p><b>【講師派遣】</b>  ・信州木曾看護専門学校へ非常勤講師として延べ123人派遣した。</p> <p><b>【実習生受入】</b>  ・看護部で5月から2月にかけて149日間実習生を受け入れた（信州木曾看護専門学校）  ・リハビリテーション技術科で2人、栄養科で3人、放射線技術科で1人、社会福祉士1人の学生実習を受け入れた。</p>
9	同上	こども	A	<p>・長野県看護大学、信州大学医学部医学科・保健学科、佐久大学、松本短期大学、信州木曾看護専門学校、岡谷看護専門学校等に小児、産科講義の講師として職員を派遣した。</p> <p>・信州大学医学部保健学科及び長野県看護大学の実習生を積極的に受け入れた。</p> <p>・信州大学医学部子どもこのころの発達医学教室の研修コース受講生の陪席時実習を受け入れた。</p>
10	同上	本部	A	<p><b>【講師派遣】</b>  信州木曾看護専門学校 医師1名（理事長を除く。）  須坂看護専門学校 看護職1名（研修センター）  松本短期大学 事務1名  長野県看護協会 看護職2名</p>

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献

(5) 医療に関する研究及び調査の推進

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

国・大学などと連携し、臨床研究や基礎研究を推進するとともに、各病院の持つ機能を活かした治験（新薬の臨床試験等）を実施し、県内医療水準の向上に貢献した。

公開講座や出前講座をはじめ、ホームページや各種メディアを通じて、各病院で行った調査研究の成果を、積極的に情報発信し県民の健康増進に貢献した。

また、こころの医療センター駒ヶ根及びこども病院は、信州大学との協定に基づく連携大学院教育により、臨床業務に携わりながら研究活動を進め医学博士取得を目指す医師を養成している。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 3(5) 1	ア 研究機能の向上	信州	A	・浅野直子遺伝子検査科部長 国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）研究委託費 「びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の新規難治性病型に対する治療研究」

	大学などと連携し、医療に関する共同研究等へ積極的に参加し、医療水準の向上を図る。			
2	同上	駒ヶ根	A	・作業療法士が信州大学修士課程において、臨床研究を実施している。
3	同上	木曾	A	・小児科医師が、信州大学と共同研究中である。
4	同上	こども	A	・信州大学医学部小児医学教室や新生児・療育学講座、遺伝医学教室などと連携し、共同研究体制を構築した。 ・信州大学の連携大学院での研究についても信州大学医学部との連携体制をより充実させた。
5	信州医療センターでは、感染症センターによる以下の取組みを実施 ・難治性感染症の治療法の確立に向けた全国多施設共同研究に参加 ・遺伝子解析装置を用いて病原体の診断や耐性検査する体制（人員体制を含む）を整備し、院内や他医療機関へ情報を提供 ・抗酸菌、特にマック菌の病態を研究解析し、新規治療法の開発 ・北信地区8病院と連携して、肺炎球菌・菌株を収集し、血清型分析を行い、肺炎球菌ワクチンの適応を検証	信州	A	・感染症センターによる以下の取組に向けた準備を行った。 難治性感染症の治療法の確立に向けた全国多施設共同研究への参加 遺伝子解析装置を用いて病原体の診断や耐性検査する体制（人員体制を含む）を整備し、院内や他医療機関への情報提供 抗酸菌、特にマック菌の病態を研究解析し新規治療法を開発

	・信州大学での血液病理診断及び医療関係者との難解症例カンファレンスを実施			
6	こころの医療センター駒ヶ根では、精神科研修・研究センターにおいて、以下の取組みを実施 ・信州大学との連携大学院教育により、医学博士取得を目指す医師を養成（再） ・信州大学及び県看護大学と連携し、研究及び研修を実施（再）	駒ヶ根	A	・信州大学との協定による連携大学院教育は、新たに医師1人が加わり、医師2人が臨床業務に携わりながら研究活動を進め、学位の取得を目指した。 ・信州大学大学院と連携し、統合失調症を対象とする作業療法の研究協力を行った。 ・新専門医制度の基幹施設として全国の初期研修医に対し募集を行い、医師1人を採用した。
7	厚生労働省科学研究費や文部科学省科学研究費などの積極的な活用、臨床や遺伝解析などの基礎研究の取組みを推進、信州大学との連携大学院を活用した研究活動を推進（こども）	こども	A	・日本医療研究開発機構（AMED）研究費委託事業1件を受託し、小児医療に関する研究に参加した。 ・参照（p.90-No.43）
8	イ 医療に関する臨床研究への参加 治験については、審査委員会の設置による適正かつ安全な実施環境を整備、各病院の状況に応じて積極的に実施	信州	A	・新たな治験を2件（整形外科：膝関節全置換術、呼吸器・感染症内科：市中肺炎）を開始した。非弁膜症性心房細動は、症例を追加し継続している。
9	同上	木曾	A	・製造販売後調査について、製薬メーカーへ報告を行った。
10	同上	こども	A	・治験支援機関である（株）エシックとの間でCRC業務等の委託契約を締結しており、治験事務局と連携しながら、企業主導治験を3件実施中である。

11	<p>ウ 地域への情報発信による健康増進への取組</p> <p>県民の健康増進に寄与するため、県立病院で行った研究や調査の成果を、ホームページ、学会、地域の懇談会、講演会、公開講座及び出前講座により公表</p>	信州	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月5日 第17回病院祭を開催した。(参加者約2,500人)</li> <li>以下の公開講座を開催した。</li> <li>5月25日第2回市民公開講座 共催：須高医師会 後援：須坂市、小布施町、高山村 テーマ「あなたの肺は大丈夫ですか？気になる肺の病気あれこれ」 須坂市メセナ小ホール 講師：呼吸器・感染症内科部長 山崎善隆医師 呼吸器外科部長 坂口幸治医師 (参加者197人)</li> <li>・出前講座を55回開催2,779人が聴講した。(平成30年度 53件 3,118人) 主なテーマは以下のとおり ▽筋力を低下させないために▽接触嚥下障害について▽高齢者の呼吸器疾患▽肺炎について▽結核について▽感染対策について▽一次救命処置▽家庭でできる応急手当(小児)▽高齢者の食生活について▽オムツ(スキントラブル)交換について▽糖尿病の食事療法について▽性教育について▽大腸がんについて▽クローン病について▽めざせ！ピンピンコロリ▽家庭でできる褥瘡予防と初期対応について▽健康に役立つ漢方の知識▽発達障害について▽治療食調理実習▽正しい薬の飲み方 食事と薬▽健康に過ごすための食生活について▽エピペン使用方法▽変形性股関節症のリハビリについて▽事故防止KYT研修▽中・高生と赤ちゃんのふれあい▽訪問看護のお話▽認知症のお話▽看護のしごと。</li> <li>・医療に関する職員の学術研究や講演会活動実績をホームページにて公開している</li> <li>・マスメディアを利用した病院広報・PRにより健康に関する関心を高め、地域の健康増進に寄与した。</li> <li>・新聞掲載 信濃毎日新聞 8回(産後うつ、インフルエンザ、新型コロナウイルス等) 須坂新聞 10回(運営協議会、病院祭、須坂モデル)</li> <li>・テレビ出演</li> </ul>
----	---	----	--

				<p>Goolight「ニュースウォーカー 医療コーナー」(対策型胃内視鏡検診、熱中症等)</p> <p>Goolight「子育てポケット」(産後の心と体)</p> <p>その他コロナウイルス関連で感染症専門医師が各局の取材に対応</p>
12	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座 10月「子どもの生きる力を高めるために」(講師 副院長 原田謙) 聴講者 約50人 (第11回病院祭に併せて開催)</li> <li>・参照 (p.63-No.20)</li> <li>・新聞掲載 信濃毎日新聞 6回 (ゲーム依存症、認知症疾患医療センター開設等) 中日新聞 4回 (ゲーム障害の治療検討等) 長野日報 5回 (思春期・青年期医療強化等) 医療タイムス 12回 (子どものこころ診療センター開設、依存症専門医療機関指定等) 月刊かみいな 12回 (月1回掲載 デイケア、服薬、DPAT等)</li> </ul>
13	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院祭の開催に併せて信州大学医学部附属病院 医師 岡田 まゆみ氏を講師に迎え、阿南病院で実施されているドクターヘリの運用内容についての公開講座を実施した。</li> </ul>
14	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院スタッフが講師となり、治療、運動、薬物療法、検査、日常生活、食事会と幅広い内容の糖尿病教室を7月から12月にかけて計6回開催し、延べ75人の参加者があった。そのうち7月は地域住民も対象とした糖尿病に関する一般公開講座(病院機構第2回公開講座)を行い、住民の健康に対する意識向上を図った(参加者18人)</li> <li>・病院祭に合わせて、地域医療に関する一般公開講座を開催し、60人の参加があった。</li> <li>・出前講座を行った。主なテーマは以下のとおり。 (▽病院薬剤管理▽病院薬剤師の役割▽自殺・企図者支援について▽移乗・移送について▽腰痛予防▽筋力とバランスの維持▽歯あわせ健康・口腔体操▽性教育)</li> </ul>
15	同上	こど	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座の開催案内のホームページへの掲載</li> <li>・9月7日「アレルギー対応食クッキング」栄養科：松本市エムウィング</li> </ul>

		も	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月8日に公開講座「口唇裂・口蓋裂のはなし」口唇口蓋裂センター：上田市創造館</li> <li>・12月14日に公開講座「さあ、風疹を止めよう！」予防接種センター：こども病院</li> <li>・病院の医学指標を機構本部のホームページで、また各診療科での診療実績や手術成績についてこども病院のホームページで公開している。</li> </ul>
--	--	---	--

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

4 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

(1) より安全で信頼できる医療の提供

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

各病院の医療安全管理者による相互点検や共通のチェックシートを活用した自己点検を実施し、医療安全の質の向上につなげた。

また、機構独自の研修会や県との共催による管理者研修会、多職種を対象としたシミュレーション研修を開催し、職員の質の向上を図った。

各病院において、引き続きクリニカルパスの適用を進め、また、セカンドオピニオンについては、利用者の希望に基づき適切に対応した。

各病院では、あいさつ運動の実施や接遇研修会の開催を通して、患者対応力の一層の向上を図った。

県の個人情報保護条例及び情報公開条例に基づき適切な情報管理を行うとともに、職員が受講しやすいよう、eラーニング形式による情報セキュリティ及び個人情報保護に関する研修を実施し、個人情報の適切な取り扱いを推進した。

医療機器の購入要望に対しては、各病院の医療機器購入検討委員会や幹部のヒアリングにより、先送りや凍結も含め精査し、さらに、購入時期に合わせ、各病院の医療技術部長らで構成する医療器械等審査部会を開催する等、効率的な購入に努めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 4(1)	ア 医療安全対策の推進	信州	A	・7月に南2階病棟と、臨床工学科の相互点検を行った。南2階病棟は廊下にストレッチャーや車椅子が置かれていると指摘があり定位置を決めた。臨床工学科では災害用ヘル

1	<p>県立5病院の医療安全の標準化と質の向上を図るため、以下の取組みを実施</p> <p>(7) 医療安全対策（本部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全への取組状況を医療安全管理者が互いに実地確認し合う医療安全相互点検を実施</li> <li>・5病院共通の医療安全チェックシートを活用した院内自己点検を実施、課題の把握を行い、改善策の立案や体制の整備</li> </ul>			<p>メットが置いてある位置に表示がなかった為、表示をして誰でもわかるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全チェックシートを活用した院内自己点検を10月から12月にかけて各部署の医療安全委員会を中心に実施し、医療安全管理者が総合評価を行い課題の抽出をおこなった。危機管理の対応などの項目で評価が低く今後の課題が明らかになった。</li> </ul>
2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月にA2病棟と外来の相互点検を実施し、院内の基準時計に関することや口頭指示票の運用について徹底した。</li> <li>・自己点検シートを活用して、各所属長とリスク部員が点検を行った。</li> </ul>
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月に第3病棟・検査科の相互点検を実施。第3病棟については改善指摘事項はなし。検査科では、病院内の基準時計は電子カルテの時計であると指摘。病院内の意識付けを行うため、機械保守点検簿に時刻合わせの項目を追加。</li> <li>・シートを利用した自己点検を各部署のリスクマネージャーと共に行った。危機管理面での課題が明確となり、特に時間外、休日の院内への入退者の管理についてさらに改善していく。</li> </ul>
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月に薬剤部、4階地域包括ケア病棟の相互点検を実施したほか、再点検として放射線技術科を実施した。</li> <li>・避難経路や避難器具の保管場所を分かりやすく表示する、障害物の撤去等を行った。</li> <li>・避難経路や保管場所を分かりやすく表示、防火扉前の荷物の撤去等を行った。</li> <li>・全部署において、リスクマネージャーを中心に自己点検を実施し、点検結果において防犯対策等達成度の低かった項目に対し、研修会を実施した。また部会で課題の確認を行うことで各部署における防犯対策に対する意識付け等を行うことができた。</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯対策として、休日夜間出入口の制限等、入退館の管理、不審者対応を徹底した。</li> </ul>
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月9日に放射線科及びPICUの相互点検を実施した。平成30年度の再点検で検査科の避難経路の所在地の明記と5病棟のPCの保管状況及びストッパー周知状況について確認を行った。相互点検に関しては、放射線科については災害時の役割について、消火班についての周知がされていなかったため周知した。PICUについては避難経路の所在地の記載がされていなかったため明記した。</li> <li>・全部署において各部署のセイフティマネージャーにより医療安全チェックシートによる自己点検を実施している。</li> <li>・達成率は前年度と傾向としてあまり変化はなくよい状況は保っている。大規模災害に関する職員の訓練としてエマルゴ研修を行った。</li> </ul>
6	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月に木曽病院、11月に阿南病院、12月にこころの医療センター駒ヶ根、1月にこども病院を「危機管理体制」をテーマに実施した。相互点検を継続して実施することにより、医療安全に対する質の向上を図ることができている。</li> <li>・多くの職員を巻き込んで実施することで、医療安全に対する認識のずれ等の把握ができ、その問題点に医療安全管理者が介入し点検を続けることで、認識の統一・改善につなげていくことができている。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院機構職員を対象とした医療安全研修会の開催</li> <li>・全県の医療関係者も対象とした医療安全管理研修会の開催</li> <li>・各病院において、職員の資質向上を図るための研修を実施</li> <li>・医療安全への知識・認識の標準化を図るためシミュレーション研修を多職種で実施</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に開催された県立病院機構の医療安全研修会「チームで取り組む医療安全 ノンテクニカルスキルの重要性」に10名参加し、職場におけるコミュニケーションの重要性を学ぶことができた。</li> <li>・6月に医療安全管理室長から「医療事故の初期対応」の研修会を行った。参加者420名</li> <li>・9月「輸血用血液製剤の取り扱い」「医療機器医ガスの取り扱い」参加者60名</li> <li>・10月に「M&amp;Mカンファレンス カルテ開示から始める医療安全」を計画したが、台風19号の災害のため、中止とした。</li> <li>・3月シミュレーション研修会を計画したが、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。</li> </ul>

8	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に開催された県立病院機構の医療安全研修会に5人参加し、チーム医療の必要性を多職種で学ぶことができた。</li> <li>・10月及び1月にコミュニケーションエラーについて、各2回ずつシミュレーション研修を行い、30人が参加した。</li> </ul>
9	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6～7月薬剤安全管理研修会（DVD研修を含む）6回開催。5～6月放射線・医療機器安全管理研修会（DVD研修を含む）7回開催。医療安全に関する知識の習得、資質の向上を図った。</li> <li>・12月9日院内において研修センター協力のもと「患者さんからの苦情・クレームの初期対応をシミュレーションから学ぶ」を開催し34名が参加した。</li> </ul>
10	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月20日に開催された県医療安全管理研修会「医療安全ワークショップ」に6名参加した。</li> <li>・院内研修として医療安全研修会（BLS）」を年3回実施した。</li> <li>・2月26日に研修センターの協力のもと医療安全シミュレーション研修会を予定していたが、新型コロナウイルス感染対策のため中止した。</li> </ul>
11	同上	こども	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月30日に開催した医療安全研修会「医療安全の推進にチーム医療は必要ですか。チームで取り組む医療安全」をテーマに15人参加した。</li> <li>・院内において、6月と11月に医療安全と感染対策合同で、院内全職員を対象に研修会を実施した。6月は出席率98%、11月は100%と高い出席率となった。（平成30年度出席率：72% 研修会の開催形態が違うため出席率は年度末集計）</li> <li>・院内において昨年度と同じテーマ「クレーム対応時、暴言・暴力をどう回避するか」をテーマに合計2回開催し、70人の多職種職員が参加した。</li> </ul>
12	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画通りに研修会を実施し、「医療安全の推進にチーム医療は必要ですか。チームで取り組む医療安全」をテーマにチームステップスについて基礎知識を得ることができた。</li> <li>・県立5病院と連携し、職員の接遇の向上を図るため、接遇研修を開催し、212人が参</li> </ul>

				<p>加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種を対象とした医療安全シミュレーション研修を、県立病院にて開催した。</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td>阿南病院</td> <td>12月9日</td> <td>34人</td> </tr> <tr> <td>こども病院</td> <td>10月25日、31日</td> <td>74人</td> </tr> <tr> <td>こころの医療センター駒ヶ根</td> <td>10月31日、1月23日</td> <td>55人</td> </tr> </table> <p>信州医療センター、木曾病院、総合リハビリテーションセンターは中止。</p>	阿南病院	12月9日	34人	こども病院	10月25日、31日	74人	こころの医療センター駒ヶ根	10月31日、1月23日	55人
阿南病院	12月9日	34人											
こども病院	10月25日、31日	74人											
こころの医療センター駒ヶ根	10月31日、1月23日	55人											
13	・研修受講履歴を把握できる個人カードを作成し、職員の医療安全研修の受講促進	本部	A	・名刺サイズの研修履歴カードを使用し、受講履歴を管理することができた。									
14	・各病院で実施する医療安全研修にテレビ会議システムを活用	5病院	A	・各病院にて医療安全研修会を実施したが、今年度はテレビ会議システムを活用する機会がなかった。									
15	・医療安全に関する知識の習得及び資質の向上を図るため、先進的な取組みを行う病院の情報を収集	本部	A	・12月3日にインシデント・アクシデント管理システムの運用について先進的に取り組んでいる諏訪中央病院へ視察に行き、システムの内容変更に向けて参考にすることができた。									
16	・医療安全対策地域連携病院（長野市民病院・山田記念朝日病院）との相互チェックを実施（信州）	信州	A	・10月1日に信州医療センターで相互点検を行った。南5階病棟、放射線技術科をラウンドにより、南5階病棟は消防隊の進入経路に車いす用の体重計が配置してあると指摘を受け配置を変更した。病棟は災害時に病棟以外の外部救助者が一目で患者の担送、護送などわかるように表示をすることが必要であるということで、部屋の入り口に色でわかるように表示をした。放射線技術科では職員通路にある柵類の固定がされていないと指摘があり、地震発生時に支障が出ないように固定をした。									
17	(イ) 感染対策 ・各病院において、感染症発生時を想定した院内及び関係機関などとの間で伝達訓練などを実施	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練等を行い、第一種・第二種感染症指定医療機関及び県の政策医療としての結核患者の受入体制と、新型インフルエンザなどの感染症の集団発生等に適切な対応ができる体制を維持した。</li> <li>・院内感染症対応マニュアルは、職員に配布するとともに電子カルテ上でも参照を可能としている。</li> </ul>									

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県との情報伝達訓練は毎年1回実施している。</li> <li>・日常業務の中で、感染症発生時の伝達方法について、適宜確認を行っている。</li> </ul>
18	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回、全セクションのラウンドを行い、問題点の解決と感染防止のための環境整備に対する職員の意識向上を図った。</li> <li>・院内感染対策マニュアルについて、必要に応じ保健所に助言を求め改訂を行った。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症への対応のため、情報収集、面会制限や院外関係者が参加する研修・会議の中止を決定した他、対策本部を設置した。</li> </ul>
19	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症に対するマニュアルを作成し、院内シミュレーションを実施し患者受け入れの確認を実施した。</li> </ul>
20	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策のより一層の推進と院内感染防止の徹底を図るため、「院内感染対策マニュアル」を改訂した（年1回）。また、院内感染対策研修会を年2回実施した。</li> <li>・阿南病院と感染対策に係るカンファレンスを年4回実施した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策として、発熱外来の設置と感染症患者の受け入れ体制を整備した。</li> </ul>
21	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活動により院内感染情報を速やかに把握し、情報収集及び共有し、チームメンバーや関係部署と協力して対応した。</li> <li>・アウトブレイク時、一時入院制限なども行ったが、速やかな介入と改善活動により、院内感染を可及的速やかに終息することができた。</li> </ul>
22	・日本環境感染学会認定教育施設としての実績を活かし、「北信ICT連絡協議会」の運営に参加（信州）	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北信地域で抗菌薬使用量と耐性率に関するサーベイランス活動、合同カンファレンス及び相互ラウンドなどによって感染防止技術・対策の向上に貢献した。</li> <li>・山崎善隆感染症センター長が北信ICT連絡協議会代表理事を務め、年2回（5月、12月）、講演会と合同カンファレンスを開催した。</li> </ul>
23	・感染防止地域連携病院との相互視察を実施（信州、木曾、こども）	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携加算で連携している長野赤十字病院、長野市民病院等のラウンドを受け、指摘された事項については速やかな改善がなされた。</li> </ul>
24	同上	木	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども病院との相互視察を互いに1回ずつ実施した。</li> </ul>

		曾		
25	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止地域連携加算で連携している木曽病院・信州大学医学部附属病院と、それぞれICTメンバーが相互視察を実施した。新生児病棟のMRSA対策については、特に信大病院との情報交換などもあり、様々な対策の結果、MRSA新規発生が激減している。</li> </ul>
26	・感染管理認定看護師は、医療関連感染サーベイランスを行い、院内の感染発生状況を把握し必要な感染対策を提案・実施、基本を周知するため研修会を開催（信州、こども）	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染管理認定看護師は、感染制御部、院内感染対策委員会の一員として院内のみならず院外においても感染防止対策の中心的な役割を果たしている。</li> <li>・サーベイランス <ul style="list-style-type: none"> <li>日本環境感染学会（JHAIS）が行っている中心静脈血流感染サーベイランス、尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランスに参加し、全国のデータと比較し対策を検討した。</li> <li>・地域医療機関、介護施設等からのコンサルテーションを行った。</li> <li>・目黒美紀感染管理認定看護師による感染症の知識普及のための介護施設等への講演会活動</li> <li>・その他院内外での活動例</li> </ul> </li> </ul> <p>院内環境ラウンド、全職員対象の研修会、マニュアルの改訂を実施 看護部のリンクナース部会で感染予防の標準化、環境改善、研修を実施</p>
27	同上	こども	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種サーベイランス活動の実践を継続した。結果は適宜現場にフィードバックをした。改善活動の遵守状態の調査や、その評価を、部署の職員と実施していくことが次年度の目標である。</li> <li>・年2回、職員全員対象の研修会を開催した。全職員が参加できるよう、研修会は同じ内容で複数回(1研修8～10回)実施し、さらに動画での補習を行った。その結果、参加率は前期98%、後期は100%となり、530名もの全職員・全職種が参加し、有効な研修会となった。（平成30年度出席率：7月 88% 11月 78%）</li> </ul>
28	イ 患者中心の医療の実践	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間接遇標語である「届けよう優しい笑顔と思いやり」を院内全体に掲示し周知を図った。</li> </ul>

	<p>県立病院への来院者が気持ちよく病院を利用できるよう、利用者へのあいさつ運動を継続的に実施するなど、患者対応力の向上を図る。また、患者サービスの一層の向上や職員の資質向上を図るための接遇研修会を実施する。(各病院)</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員接遇研修会 10月3日(木) 16:30～ 講師：(株)インソース 青木理子先生(参加者44人)</li> <li>・8～3月第2週の火～金曜日に、サービス向上委員会を中心に1日3～4名であいさつ運動を実施した。(年間45日) ※あいさつ運動：患者さんやご家族に声掛けすることで安心感を与えるとともに、職員にあいさつを促す</li> <li>・いいところ探し：各部署の「いいところ」を自薦及び他薦。病院祭の出展ブースで発表し来場者が投票</li> <li>・患者満足度調査を実施し患者対応力の向上を図った。 12月9日(月)から外来及び入院患者アンケートを配布・回収 調査報告会 令和2年度前半予定</li> </ul>
29	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス向上委員会で毎月標語を作成し、電子カルテ及び院内に掲示し啓発活動を行った。「職員マナーブック」も併せて毎月紹介した。</li> <li>・「あいさつ運動」強化週間を、6月と2月にセクションごとに実施し、意識の向上を図った。</li> <li>・院内の環境整備のため、掲示物の点検を8月と2月に実施し、不備な点はその場で改善した。</li> <li>・新規採用職員、転入職員へのオリエンテーションに接遇に関する項目を組み込み、研修を行った。(4月3日 参加者12人)</li> </ul>
30	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2か月毎にテーマを決め、そのテーマに掲げて、患者への対応を実施した。</li> <li>・11月22日に外部講師を招き、接遇研修会を実施した。(参加者 43人)</li> </ul>
31	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス向上委員会で「接遇標語」を作成し、院内各所に掲示し周知を行った(2ヶ月に1回)</li> <li>・接遇の改善を図るため、身だしなみチェックを行った。</li> <li>・5月及び10月に、守る会の協力をいただき、プランターに花の苗を植え、入り口や中</li> </ul>

			<p>庭に配置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2月18日に外部講師を招き、接遇研修を実施した。(参加者 84人)</li> <li>・入院患者を対象に、七夕コンサート(7月)、クリスマスコンサート(12月)を開催、職員及び地域ボランティアによる音楽演奏などを披露し、サービス向上を図った。</li> </ul>												
32	同上	こ ど も	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度も8月と令和2年1月に、接遇月間を設け実施した。各部署でスローガンを作成し取り組んだ。その取り組みについて、あいさつ新聞にて発表できた。</li> <li>・令和元年度は、接遇研修参加率の向上を目指し取り組んだ。過去の研修後アンケートから、時間外研修を中止した。接遇について全員に考えてもらえるように、院内に設置している「提案箱」の中から接遇に関するご意見等を確認してもらうという書面研修(2月)にした。研修の形態を変えたところ研修参加率は97.6%と向上した。</li> <li>・環境チェックは2回/年実施でき、事務部施設管理係と共に修繕ができた。</li> </ul>												
33	<p>クリニカルパス(入院患者の治療計画を示した工程表)の適用を引き続き進めるとともに、セカンドオピニオン体制の充実を図る。</p> <p>このほか、質の高い医療・看護を行うため以下の取組みを実施</p> <p>(7) 信州医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第三者評価(病院機能評価、健診施設機能評価)を受審</li> <li>・クリニカルパス(入院患者の治療計画を示した日程表)の適用推進</li> <li>・介護福祉士、看護補助者職員等を活用し日常生活支援を実施</li> <li>・地域医療福祉連携室に社会福祉士を取得している福祉相談員の配置</li> </ul>	信 州	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に根差した安全・安心、信頼される質の高い医療を効果的に提供するため、病院機能評価(3rdG:Ver.2.0)を11月に受審した。病院全体が一丸となって改善活動に取り組み、4回目の認定となった。</li> <li>・クリニカルパス(入院患者の治療計画を示した日程表)の適用を引き続き進めた。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者延人数</td> <td>4,614人</td> <td>5,201人</td> </tr> <tr> <td>パス適用患者延人数</td> <td>1,617人</td> <td>1,610人</td> </tr> <tr> <td>パス適用率</td> <td>35.1%</td> <td>31.0%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士が夜勤を開始するとともに、時差勤務による食事提供サービス等の日常生活支援を行っている。</li> <li>・地域医療福祉連携室に社会福祉士を取得している福祉相談員を4人配置している。</li> <li>・地域医療福祉連携室の医療相談によるセカンドオピニオン外来の利用はなかった。</li> </ul>	内容	令和元年度実績	平成30年度実績	患者延人数	4,614人	5,201人	パス適用患者延人数	1,617人	1,610人	パス適用率	35.1%	31.0%
内容	令和元年度実績	平成30年度実績													
患者延人数	4,614人	5,201人													
パス適用患者延人数	1,617人	1,610人													
パス適用率	35.1%	31.0%													

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入退院支援室の運用の拡大（再）</li> <li>・入院患者に対し休日に提供している理学療法、作業療法及び言語聴覚療法を継続（再）</li> </ul>			
34	<p>クリニカルパス（入院患者の治療計画を示した工程表）の適用を引き続き進めるとともに、セカンドオピニオン体制の充実を図る。</p> <p>このほか、質の高い医療・看護を行うため以下の取組みを実施</p> <p>(イ) こころの医療センター駒ヶ根</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クオリティマネジメント委員会を中心に病院機能維持及び医療の質の向上</li> </ul>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な医療の質向上を目的に来年度病院機能評価を受審するため、クオリティマネジメント委員会及び内部監査員を中心に準備を進めた。</li> <li>・内部監査員を対象に医療の質を評価し、改善するために必要な知識やスキルを習得するための研修会を実施するとともに、ケアプロセス調査を実施し、チーム医療についての再確認を行った。</li> <li>・精神科に特化した電子カルテシステムにより、クリニカルパスの適用を引き続き進めた。</li> <li>・セカンドオピニオンについて1件の実施があった。</li> </ul>
35	<p>クリニカルパス（入院患者の治療計画を示した工程表）の適用を引き続き進めるとともに、セカンドオピニオン体制の充実を図る。</p> <p>このほか、質の高い医療・看護を行うため以下の取組みを実施</p> <p>(ウ) 阿南病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤医師による当直・救急応援、呼吸器内科・外科・整形外科・精神科・泌尿器科及び婦人科の外来診療の継続による診療体制の充実</li> <li>・クリニカルパスの見直しや新規策定、患者が理解しやすい治療計画の作成・説明</li> <li>・リハビリを必要とする患者への短期集中的なリハビリテーション入院の受入れ及びリハ</li> </ul>	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリニカルパスの運用に向け、検討委員会及びワーキンググループにおいて検討を進めた。</li> <li>・外科等を中心に他病院から非常勤医師の当直、救急応援を受け、診療体制の充実を図った。</li> <li>・現在の当院の患者動向や医療の専門性を考慮し、本格的なセカンドオピニオン外来は実施せず、当面は紹介に関する情報提供を行っていく。</li> <li>・看護必要度評価加算について、毎月算定の可否を判断しこまめに届出を行い、できる限り算定した。</li> <li>・医局会や経営企画会議において周知し、施設入所者等の短期検査入院を積極的に受け入れた。施設入所者のPEG交換の短期入院を促進し、20名の入院があった。</li> <li>・今年度の院外処方箋は発行率80%程度を維持し、医薬分業体制の継続を図り、院内においては入院患者に対する薬剤管理指導等を実施し、薬物療法の有効性及び安全の向上を図った。</li> </ul>

	<p>ビリクリニカルパスの策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連施設との連携による入所者等の定例化した短期検査入院の積極的な受け入れ</li> <li>・ 職員が認知症を正しく理解し高齢者に優しい病院・地域づくり実践のため、職員認知症サポーター研修の継続実施</li> </ul>																	
36	<p>クリニカルパス（入院患者の治療計画を示した工程表）の適用を引き続き進めるとともに、セカンドオピニオン体制の充実を図る。</p> <p>このほか、質の高い医療・看護を行うため以下の取組みを実施</p> <p>(エ) 木曽病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ がん相談支援センターによる患者相談、情報提供を進め、がん予防、がん診療支援等の機能の充実（再）</li> <li>・ 患者サロンを定期的に開催することにより患者への支援（再）</li> <li>・ がん早期発見のため、関係機関との連携を強化、相談・情報提供機能の充実</li> <li>・ がん患者に関する地域連携クリニカルパスの運用を継続、地域との連携を強化（再）</li> </ul>	木 曾	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ クリニカルパスの運用推進に向けて、電子カルテへの反映上の課題について、情報収集及び検討を行った。</li> <li>・ 地域がん診療病院としてがん相談支援センターへ専従職員1人を引き続き配置するとともに、患者サロンの毎月2回開催（うち1回は院内職員の講師によるミニ勉強会）、広報紙の発行（年2回）等、がんに関する相談・情報提供及び患者への支援体制の充実を図った。</li> <li>・ 緩和ケアチームに認定看護師を引き続き専従で配置するとともに、週1回院内ラウンドを実施した。</li> <li>・ 緩和ケア外来を設置し、週1回診療を実施するなど、診療体制を充実させた。</li> <li>・ 信州大学医学部附属病院での症例検討会への定期的な参加及び信州大学がんセンターから派遣された教授による化学療法、放射線治療、緩和ケア等、病棟・外来での診療・職員への指導等、信州大学医学部附属病院との連携によりがん診療体制を強化した。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="958 1046 2051 1254"> <thead> <tr> <th>相談実績</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>平成30年度 実績</th> <th>前年との差</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん相談支援センター</td> <td>1,045件</td> <td>657件</td> <td>388件</td> <td>159.1%</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>211件</td> <td>192件</td> <td>19件</td> <td>109.9%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ がんチャリティーイベント「リレーフォーライフジャパン松本」にチームとして参加、又地域のイベントに出前病院として参加し、がん相談支援センターのブースを設置する等、地域がん診療病院としてのアピールを図った。</li> </ul>	相談実績	令和元年度 実績	平成30年度 実績	前年との差	対前年度比	がん相談支援センター	1,045件	657件	388件	159.1%	緩和ケアチーム	211件	192件	19件	109.9%
相談実績	令和元年度 実績	平成30年度 実績	前年との差	対前年度比														
がん相談支援センター	1,045件	657件	388件	159.1%														
緩和ケアチーム	211件	192件	19件	109.9%														

37	<p>クリニカルパス（入院患者の治療計画を示した工程表）の適用を引き続き進めるとともに、セカンドオピニオン体制の充実を図る。</p> <p>このほか、質の高い医療・看護を行うため以下の取組みを実施</p> <p>(オ) こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の自立教育のためのツール作成、外来でのコーディネーター看護師の育成、成人先天性心疾患の地域医療ネットワークを構築</li> </ul> <p>(再)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本成人先天性心疾患学会の専門医研修連携施設として、信州大学と成人先天性心疾患専門医研修制度を開始し、信州大学や他の県内医療機関からの成人先天性心疾患患者のカテーテル治療の安定的供給を目指す。</li> <li>・3Dモデル造形センターが製作する頭蓋骨等の3Dモデルを活用した手術前シミュレーション、患者への事前説明及び医療関係者教育・研修等の実施</li> <li>・カルテ及び説明と同意の書の院内監査により、患者にもわかりやすい書類の作成</li> </ul>	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.42-No.54)</li> <li>・電子カルテによるクリニカルパスが稼働中であり、今年度は5件新規で稼働を開始して全45件が稼働中である。</li> <li>・本年度のパス利用率20～30%にて推移。新規パス4件作成し運用を開始した。バリエーションは1～5%程度の発生率であった。本年度もパスを使用することで、チーム医療の向上、協働・情報の共有化、ケアの標準化、ケアの効率化、在院日数の短縮に効果があったと考える。</li> <li>・セカンドオピニオン件数：5件。</li> <li>・参照 (p.33-No.35)</li> <li>・平成31年4月より日本成人先天性心疾患学会専門医修練関連施設（信州大学との連携修練施設）として認可を受け、こども病院からは暫定専門医2名も認可され診療を開始している。</li> <li>・日本成人先天性心疾患学会患者登録および日本小児循環器学会先天性心疾患および小児期発生心疾患実態調査に協力し、対象となる疾患登録を実施。</li> <li>・信州大学との成人先天性心疾患患者のカテーテル治療を実施(8例)。</li> <li>・信州大学成人先天性心疾患センターからの隔週ごとの成人先天性心疾患移行外来は順調に経緯、2ヶ月に1度のこども病院から信州大学への成人先天性心疾患外来フォローも日常診療的に経緯している。</li> <li>・日常外来診療においても、移行医療対象者に対する診察前チェックを行っている。</li> <li>・当院の小児脳神経外科、整形外科、形成外科より作成依頼を受けている。一件の依頼に対し2個の3D造形モデルを作成し、シミュレーション用と患者家族説明用を提供している。院外からの注文実績は今年度22件と平成30年度の17件から5件増加した。中でも長野赤十字病院からは16件の依頼を受けており、手術前シミュレーションに活用されている。</li> <li>・カルテ監査において記載漏れの多い「説明と同意の書」について書式変更し、記載漏</li> </ul>
----	---	-----	---	--

				<p>れ対策を実施した。今後のカルテ監査で改善されるか注視していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院診療計画書に多職種が協働した記載ができるよう変更した。</li> <li>・電子カルテ監査項目を集約し、項目数の削減をはかった。</li> <li>・病院機能評価への対応も見据えて監査方法や内容の見直しを継続中。</li> </ul>
38	ウ 適切な情報管理 県個人情報保護条例及び県情報公開条例に基づいた適切な情報管理	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者等から診療情報提供の依頼があった場合には、個人情報を取り扱う観点から厳正に申出者の資格確認を行い、速やかに対象となる情報を特定して提供できるよう努めている。また、審査にあたっては関係法令等に照らし、全部提供することについて、問題がないか慎重に判断している。</li> <li>・令和元年度情報提供取扱件数：45件（平成30年度 19件）</li> </ul>
39	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2件の診療情報提供の申出があり、指針に基づき情報開示を行った。</li> </ul>
40	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11件の診療情報提供の申請があり、指針に基づき情報開示を行った。</li> </ul>
41	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・16件の診療情報提供の申請があり、指針に基づきすべて情報開示を行った。</li> </ul>
42	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が受講しやすいようeラーニング形式により情報セキュリティ及び個人情報保護に関する研修を実施した。また、受講確認テストを行い習熟度の向上を図ることにより、個人情報の適切な取扱いを推進した。</li> </ul>
43	県立病院情報基盤ネットワークの適切な運用及び情報セキュリティに関する知識の習得や意識の向上を図るため、研修会等の開催	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の適正な取扱い、情報基盤ネットワークの適切な運用及び情報セキュリティに関する知識の習得のため、当院の新入職員オリエンテーションの中で全新入職員に対し情報セキュリティ研修を行った。</li> </ul>
44	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採用職員、転入職員へのオリエンテーションで個人情報の適正な取扱い、情報基盤ネットワークの適切な運用及び情報セキュリティに関する知識の習得のための研修</li> </ul>

		根		<p>を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティ研修を84人が受講し、受講確認テストを実施したことにより、職員の情報セキュリティに関する意識の向上に寄与した。</li> </ul>
45	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に新規入職者向けの研修会を開催し、病院独自の電子カルテの院内管理運用規程とセキュリティ遵守のための具体的遵守事項を説明した。</li> <li>・8月から3月にかけて、機構本部主催の情報セキュリティ研修会（e-ラーニング）を実施した。（受講対象者71名、受講者71名）</li> </ul>
46	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初任者、転入者を対象とした情報セキュリティ研修会を年度当初のオリエンテーションに合わせて開催した。</li> <li>・受講対象者に対してDVD研修（4回）及びナーシングスキル研修を実施し、個人情報漏えい防止を徹底した。</li> </ul>
47	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採用者及び年度途中入職者のオリエンテーションにおいて個人情報、情報セキュリティの講義を行った。</li> </ul>
48	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.131-No.42）</li> </ul>
49	<p>エ 医療機器の計画的な更新・整備</p> <p>高額な医療機器について、各病院で計画的な更新やリユースを検討</p> <p>高額な医療機器の選定に際しては、医療器械等審査部会で、仕様やスペックの妥当性や機種統一等の観点から検討、医療機能に見合った機器の選定</p> <p>導入後の医療機器等については、計画に対する費用対効果が得られているか検証</p>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・翌年度の医療器械等の各部署からの購入希望に対して、4日間にわたる院長ほか幹部によるヒアリングの上、機器のスペック等の妥当性の精査をはじめ機器購入による収支見通しやランニングコスト等の観点から検討を行い、購入機器を選定した。</li> </ul>

50	同上	駒ヶ根	A	・医療機器の購入に当たり、価格交渉を強化して、一層低価格での契約となるよう努めた。
51	同上	阿南	A	・医療機器の更新については、各セクションからヒアリングを実施し、医療機器等購入調整委員会を、必要に応じて開催し、更新機器の購入を審査決定した。また、修理不能で急遽更新が必要となった機器については、計画の前倒しで調整し購入した。 ・令和元年度は、「超音波診断装置」、「上部内視鏡ビデオスコープ」、「眼底カメラ」等を購入した。
52	同上	木曾	A	・翌年度の医療機器購入について、院内の医療機器等購入検討委員会を開催し、申請部署からヒアリングを行い、仕様、台数等を含め必要性を審査し、購入機器を決定した。 ・老朽化により不具合のある医療機器について状態により優先順位をつけ更新を行い、診療体制の充実を図った。
53	同上	こども	A	・翌年度分の医療機器の購入については、120品目の購入希望に対して、院長ヒアリングを行うとともに、医療機器等購入委員会でその必要性・緊急性を精査し、41品目に絞り込みを行った。 ・事務部だけでなく、各部署においても業者との価格交渉を行い、一層の支出額の縮減に努めた。
54	同上	本部	A	審査対象として41件（書面審査5件含む）の医療器機について、妥当性の検証をし、適切な購入ができるように検討を行った。 医療器機等の効率的・効果的な購入のための既存の「検討表」に加え、購入した医療器機の収益性を（人件費等の固定費を控除予測できる「医療器機等購入収益予測表」を活用した。 計画と実績の乖離を検証することにより、次期購入時の参考とすることや原因分析から利活用方法の検討を行った。

## 第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

### 4 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

#### (2) 患者サービスの一層の向上

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

患者満足度調査の中で診療待ち時間の調査を行い、結果を共有し接遇面での改善など対応策を検討したほか、信州医療センター及び木曽病院では、会計待ち時間の改善と利用者の利便性の向上に向け、医療費あと払いサービスの運用を行った。

調剤薬局との協働により医薬分業体制を維持するとともに、病棟薬剤業務を強化し、服薬指導・持参薬管理など患者満足度の向上に努めた。

臨床評価指標（C I）や医療の質の評価指標（Q I）について、わかりやすい解説を工夫しホームページ上で公開するとともに、各病院の診療案内を、病院だよりやホームページへ掲載するなど、診療情報の発信を積極的に行った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 4(2) 1	ア 患者満足度の向上 (ア) 診療待ち時間の改善等 各病院において診察及び検査などに関する待ち時間調査などを実施、待ち時間短縮等の改善	信 州	A	・毎月の運営会議資料クリニカルインディケーターにて外来平均待ち時間（診療科別）をモニタリングしている。 ・平成29年9月から会計待ち時間の改善及び受診者の利便性向上を図るために導入した医療費あと払いサービスについて、運用を継続した。利用範囲については、一般診療、人間ドック、時間外土日祝日を継続し、訪問看護、訪問リハビリ等への利用を拡大した。令

				<p>和2年3月末現在の登録者数は340人で、うち令和元年度は166人の新規登録があった。 (課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療費あと払いサービスの登録者数の増加に向けた広報の充実</li> </ul>
2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子カルテにある受付管理機能で、患者ごとの診察状況や受付からの待ち時間が常に把握できるようになり、待ち時間が長い患者に配慮する等により待ち時間の短縮を図った。(令和元年度21分 平成30年度22分)</li> <li>・予約外で来院した患者を円滑に受け入れるため、医師のバックアップ体制を明確にし、グループウェアで情報共有した。</li> </ul>
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・待ち時間が生じていることに対する患者への説明やおわびを励行するよう外来看護部門を中心に取組んだ。また他の部門でも待っている患者に意識して、声を掛けるように標語を各部署に掲示した。</li> <li>・外来予約制の運用に継続して取り組み、時間予約の枠の見直し、電光掲示板による院内情報や休診案内、薬の引き渡し案内等によりサービスの向上を図っている。</li> </ul>
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未収金を縮減するため、院外処方箋の運用変更、督促手続きの適正化、弁護士への管理委託等を行うとともに、夜間休日外来の郡内患者に対しても預り金や医療費あと払いサービスを推奨した。</li> <li>・待ち時間調査を実施した。予約済の患者について、概ね予約時間に受診できたが、予約がない患者については、平均1～2時間待ちで、前年度より待ち時間がやや長くなっている状況が見られた。</li> <li>・各科、診察待ち時間の案内板を出す、長時間待ちの患者には声かけをするなど、接遇面での対応を心がけた。また、外来患者の待ち時間対策として、気軽に読んでもらえるチラシ「きそっぴい通信」を2ヶ月に1回発行した。</li> </ul>
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来満足度調査結果から、「医師の思いやり」「看護師への満足度」「職員全体への満足度」において昨年度より上昇がみられた。</li> <li>・待ち時間については、30分～1時間が約2%と昨年度より上昇したが、10分～30約</li> </ul>

				1%、1時間～1時間30分においては約6%程度減少した。しかし、1時間30分～2時間約2%、2時間～2時間30分約3%と昨年度より上昇していた。引き続き改善が必要である
6	(イ) 患者の満足度の向上 各病院において接遇研修会を実施	信州	A	・参照 (p.125-No.28)
7	同上	駒ヶ根	A	・参照 (p.126-No.29)
8	同上	阿南	A	・参照 (p.126-No.30)
9	同上	木曾	A	・参照 (p.126-No.31)
10	同上	こども	A	・参照 (p.127-No.32)
11	患者満足度調査について、引き続き実施、5病院間で満足度向上のための取組内容等の情報交換 (本部)	本部	A	・本部では平成30年度の調査報告会を実施。各病院での報告会を順次実施。 ・本年度の調査は10月から実施。委託業者による集計と分析を経て、5月以降に順次報告会を行う予定である。
12	同上	信州	A	・患者満足度調査は、入院108人、外来226人に実施した。結果については調査結果報告会 (令和2年度前半予定) において、分析結果を院内全体に周知予定。
13	同上	駒ヶ根	A	・入院、外来とも調査結果は平成30年度と大きな変化はなく、高い満足度を維持した。 (回答者 入院81人、外来282人) ・この調査結果について運営会議で報告するとともに、セクションごと結果の考察と今後の対応について検討し満足度の向上・維持への取組みを進めていくこととした。
14	同上	阿	A	・患者満足度調査は入院患者 113人 外来患者 300人に配布した。

		南		<ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみや月毎のテーマについて、今後もサービス向上接遇委員会を中心に接遇の改善等につなげる。</li> </ul>
15	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院患者への食事の充実 入院患者への食事アンケート（1回）を実施したほか、ワゴンサービス4回、乳製品等のミニワゴンサービス5回、出産お祝い膳63回（102人）行事食38回を実施し、患者サービスの向上を図った。</li> <li>・患者満足度調査を実施し、入院84人、外来159人より回答が得られた。入院患者、外来患者ともに前年より全体的に、満足度が低下した。この調査結果について各部署結果の考察と今後の対応について検討し、満足度の向上・維持への取組を進めていくこととした。</li> </ul>
16	地域薬剤師との連携を維持、病棟専任薬剤師を配置し、服薬指導、持参薬管理など病棟薬剤業務の強化を図り、患者満足度の向上（信州、阿南、こども）	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院外処方せん発行率は93.3%であった。保険薬局との連携により、入院患者の持参薬の確認だけでなく、必要に応じて入院前の服用状況、院外処方箋による調剤時の工夫、患者の状態などの情報提供を受けるため、薬剤管理情報連絡書の運用を開始し、23件の情報提供を受けた。</li> <li>・入院患者では、病棟薬剤管理指導件数は9,678件であり、薬剤師が減員となる状況の中、病院経営にも貢献した。また、プレアボイド報告数は54件であり、薬物療法の有効性と安全性の確保に取り組んでいる。薬剤管理指導業務及び病棟薬剤業務の支援システムを更新し、効率的な運用を図っている。</li> <li>（課題）</li> <li>・育休代替えの薬剤師が確保できず、職員の負担が増大している。</li> </ul>
17	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.29-No.20）</li> <li>・薬剤師によるお薬相談を実施し、外来患者の薬物療法への不安を解消できるように努めた。（外来指導64件、薬剤師外来を含む）</li> <li>・院外処方箋発行率は95.9%と医薬分業体制を確立した。</li> </ul>
18	同上	阿	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院外処方箋の平均発行率は79.3%で、医薬分業体制の継続を図った。</li> </ul>

		南		<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院患者への薬剤指導を充実させるとともに病棟薬剤業務を継続し、安全かつ効果的な薬物治療を推進した。</li> </ul>
19	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師連絡会議で院外処方箋発行率向上への協力を依頼するとともに、医事課や調剤薬局と連携し推進を図ったが、発行率は上半期88.5%から後半は87.9%、年度を通じ88.2%とほぼ同水準の発行率であった。</li> <li>・3階北病棟、3階南病棟、療養病棟の各病棟で、病棟薬剤業務実施加算の算定要件を満たす薬剤師を配置し、持参薬管理、服薬指導等を行った結果、服薬指導件数は2,059件から2,366件に向上した。</li> </ul>
20	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全病棟で病棟薬剤業務を実施した。医薬品情報の一元管理に取り組み、転棟時の処方確認やTDM業務の充実など薬物療法の有効性、安全性の向上に貢献できた。持参薬は入院受付時に鑑別が出来るように看護部との協働し、持参薬鑑別システムを構築した。院外処方箋発行率は96.3%で、院外薬局からの疑義照会は薬剤部が窓口となり対応をし、保険薬局との連携に努めた。</li> </ul>
21	<p>信州医療センターでは、以下の取組みを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来院患者の待ち時間ストレス解消や待合室での日常の健康に関する情報を提供するため、デジタルサイネージを継続</li> <li>・「意見箱」や出前講座などの様々な機会に収集している「信州医療センターアンケート」による意見を、サービス向上委員会で共有し改善</li> <li>・患者と医療者の対話を促進する医療メデイエーション活動のため、研修会への参加などにより人材育成</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来院患者の待ち時間ストレス対策と情報の効果的な提供のため、情報を容易に入手できるデジタルサイネージの設置を継続した。</li> </ul> <p>主な放映内容は以下のとおり</p> <p>ニュース、天気予報、季節の健康情報、熱中症、感染症、咳エチケット、インフルエンザ、アルコール手指消毒、ピロリ菌、糖尿病、検査結果の読み方、病院の特徴、当院の医師や診療科の紹介、施設案内、お産受入、人間ドック紹介、検診のお知らせ、セカンドオピニオン等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院内に設置した意見箱に寄せられた患者等からの意見について、各部署からの回答案をもとに委員会において対応を検討。寄せられた意見は、毎月運営会議にて院内全体に周知するとともに、南棟1階総合窓口前掲示板に回答を掲示。</li> <li>・入院患者への食事アンケート（3回）を実施した。バイキング・お楽しみ献立提供数254食、出産お祝い膳220食、行事食12回、選択食提供回数246回（提供食数：4,295食）を実</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療費あと払いサービスの利用を広め、会計待ち時間の短縮や支払いについて利便性の向上</li> <li>・入退院支援室の運用の拡大（再）</li> </ul>			<p>施し、患者サービスの向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年9月から導入した医療費あと払いサービスについて広く周知し、会計待ち時間の改善及び受診者の利便性向上を図った。</li> </ul>
22	<p>こころの医療センター駒ヶ根では、以下の取組みを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で質の高い薬物療法の提供</li> <li>・病棟における多職種チーム医療の推進</li> <li>・薬剤師の訪問看護への同行及び訪問薬剤管理指導による患者サービスの向上</li> </ul>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.29-No.20）</li> <li>・参照（p.137-No.17）</li> <li>・在宅患者の再入院を防ぐため、訪問看護に同行して薬剤管理指導を行った。（訪問件数29件）</li> <li>・NSTラウンド、認知症ラウンドに薬剤師が参加し、チーム医療を推進した。</li> </ul>
23	<p>阿南病院では、以下の取組みを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間予約制、午後診療などによる患者の利便性の向上</li> <li>・「サービス向上・接遇委員会」の一層の充実</li> <li>・ロビーコンサート、なごみ市などによるアメニティの向上</li> </ul>	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての外来科において予約制の運用を行っており、時間予約の枠の見直し、電光掲示板による院内情報や休診案内、薬の引き渡し案内等によりサービスの向上を図っている。</li> <li>・病院北側の駐車場の拡幅整備により、以前より多くの駐車スペースが確保され、受診者の利便性が向上した。</li> <li>・ロビーコンサート、なごみ市（毎週火・木曜日に開催）などを定期的に行い、アメニティの向上を図っている。</li> </ul> <p>ロビーコンサート： 職員バンド（3回実施、看護の日のイベント等）</p>
24	<p>木曾病院では、以下の取組みを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員や地域のボランティアによるコンサートを開催、患者サービスの向上</li> <li>・入院患者を対象に、ワゴンサービス、出産お祝い膳等のフードサービスを実施</li> <li>・院内設置の意見箱により来院者からの意見等を収集、管理者会議等で検討</li> <li>・“木曾地域の医療を守る会“と一緒にエント</li> </ul>	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院患者を対象に「七夕コンサート」（7月）、「クリスマスコンサート」（12月）を開催、職員及び地域ボランティアによる音楽演奏などを披露し、サービス向上を図った。</li> <li>・院内設置の意見箱により、来院者からの意見を24通いただき、管理者会議等で検討の上、公開を希望しないものを除き、掲示板に回答を掲載した。</li> <li>・5月22日及び11月18日に「木曾病院・木曾地域の医療を守る会」の協力をいただき、エントランス及び中庭に花のプランターを設置し、療養環境の向上を図った。</li> <li>・医療費あと払いサービスについて、外来、入院、訪問の対応が行えるようにし、希望者に利用を広めた。</li> </ul>

	<p>ランス及び中庭へ花を植え院内アメニティの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療費あと払いサービスの利用を広め、支払いについて利便性の向上</li> </ul>			
25	<p>こども病院では、以下の取組みを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイルド・ライフ・スペシャリスト※を配置、子ども達が医療を受ける過程での不安の軽減となるよう療育支援、子ども自身への情報提供や兄弟姉妹に関する相談等に対応、医療相談員（医療メディエーター）の配置により、患者サービスの向上</li> <li>※チャイルド・ライフ・スペシャリスト：病院生活における子どもの精神的負担を軽減し、子どもの成長・発達を支援する専門職。病棟や外来における遊びの援助、子どもの理解力に応じた説明、治療における精神的サポート、兄弟姉妹への援助などの業務を行う。</li> <li>・病棟保育士の組織体制を強化、保育業務の専門性及び自立性を高め、こどもの成長発達を支援</li> <li>・外来診療の質の向上のため、院外薬局と連携、患者の利便性の向上に寄与</li> <li>・多様なボランティア活動の受け入れを積極的に行い、子どもの療養生活環境の向上</li> <li>・ボランティアの育成やモチベーション向上</li> </ul>	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイルド・ライフ・スペシャリストは、多職種協働したチーム医療のなかで、特に病児に対するインフォームド・コンセント／アセントが彼らの闘病生活を支え自己肯定感を維持するための効果的な情報となり得るように心理社会的側面からの支援に努めた。令和元年度は、病棟及び外来においてのべ833件の活動実績となった。</li> <li>・特に心臓移植待機児や小児がん治療後の患者の病識に関する教育や、長期的なフォローアップを他職種と分担するにあたり、個々のニーズに合わせたカンファレンスの開催や教材の作成をおこなった。</li> <li>・緩和／グリーフケアの領域では、ご遺族へ送付する100日カードや疼痛緩和のためのアロマケアの運用に携わった。手続きを簡易化し、必要時にすぐにアクセスできるような体系的な仕組みづくりをした。</li> <li>・医療相談員は、療育支援部所属の相談業務係となり「よろず相談室」での対応だけでなく、院内のご意見箱に寄せられた声にも目を通し、患者家族および職員の環境・状況改善となるよう働きかける役割を担った。令和元年度の活動実績は、相談件数 919件、提案箱対応数 147件。</li> <li>・薬薬連携の強化に向けて長野県薬剤師会雑誌に寄稿したり、地域薬剤師会で小児医療の課題と現状を講演し、今後の在宅医療、成人移行の問題について理解と協力を働きかけた。</li> <li>・ボランティア登録数 団体登録6団体、個人登録52名。多い月で108名、月平均にして72名のボランティアの方に活動していただいた。令和元年度のボランティア交流会は新型コロナウイルス対策のため中止とした。</li> </ul>

	のため講習会や座談会開催			
26	イ 患者への診療情報の提供 臨床評価指標（クリニカルインディケーター）や、より質の高い医療を提供できるよう医療の質評価指標（クオリティインディケーター）をホームページ上に公開、機構全体のホームページの充実や各病院の診療案内等を広報誌に掲載するなど、情報発信	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの臨床評価指標等を随時更新している。</li> <li>・健康管理センターの予約状況等の情報を容易に入手できるように、随時更新している。</li> <li>・当院のチーム医療の取り組み状況を伝えるため、ホームページに院内、院外の研修活動等の情報を掲載している。</li> </ul>
27	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の質の評価公表等推進事業の報告ページへリンクを貼り、多くのデータ閲覧ができるようにした。</li> </ul>
28	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿南町等の広報誌に診療案内等を毎月掲載し、積極的に情報発信を図った。</li> <li>・手術件数やクリニカルインディケーターについては、ホームページへの掲載等により公表している。</li> </ul>
29	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院外広報誌である「病院だより」を年4回発行した。医師の紹介や診療案内、身近な病気やがんの情報、病院の取組み等を掲載し、行政機関等を通じて地域住民へ全戸回覧した。</li> <li>・ホームページで、診療案内やお知らせ、業務実績、医療の質等の情報を随時更新した。</li> </ul>
30	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国のこども病院（小児専門病院）が参加する日本小児総合医療施設協議会（JACHRI）が実施するJACHRI病院間でのベンチマーク比較に参加した。その結果は「新生児科領域の臨床指標」「2018年こども病院臨床指標」として取りまとめられJACHRIホームページへ公開されている。</li> <li>・厚生労働省による「病院情報の公表」（臨床評価指標等）をホームページに公開したことで、患者への医療情報の提供を行うことができ、またDPC機能評価係数への評価に繋がるため増収にもつながった。</li> </ul>

31	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床評価指標（Q I）や医療の質の評価指標（C I）について、情報を収集。</li> <li>・広報担当者会議を開催し、各病院間の情報交換を実施。</li> </ul>
32	全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」と日本病院会の「Q Iプロジェクト（Q I推進事業）」を継続（信州）	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価、公表推進事業」と日本病院会の「Q Iプロジェクト（Q I推進事業）」を継続し、指標のベンチマークによりQ I委員会等を通じてフィードバックを行い、医療の質の改善を図った。</li> </ul>
33	全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」を継続（ここ駒、木曾、こども）	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国自治体病院協議会主催の「医療の質の評価・公表等推進事業」に継続して参加し、データの提出を行った。</li> <li>・「医療の質の評価・公表等推進事業」で得たデータについて、運営会議等を通じて院内へフィードバックを行った。</li> </ul>
34	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」を推進した。</li> </ul>
35	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」については、総合病院の評価であり、小児専門病院に特化した評価でないため、事業参加を見送った。</li> <li>・日本小児総合医療施設協議会（J A C H R I）の「こども病院臨床評価指標」と「新生児科領域の臨床指標」に参加した。</li> </ul>
36	信州医療センターでは以下の取組みを実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会、講演会、出前講座、院内研修会等の活動を病院ホームページに公開</li> <li>・広報誌を須高地域に全戸配布、須坂市報への当院の情報掲載、須高ケーブルテレビへの休診情報等を掲載</li> <li>・来院患者の待ち時間ストレスの間接的対策と待合室で情報を提供するため、日常の健康</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会、講演会、出前講座、院内研修会等の活動を病院ホームページにて公開している。</li> <li>・須坂市報への当院の情報掲載を継続した。なお、須坂市報12月号における特集企画では、当院の院長が寄稿し、当院の役割や取組みについて地域へ向けた情報発信を行った。</li> <li>・院外広報誌「かがやき」を6月、10月、2月に発行し、須高地域に全戸配布を行った。</li> <li>・「親子病院見学会」の開催を継続し、地域住民へ当院への理解を深めてもらうように努めた。（11月30日実施、18名の親子等が参加）</li> </ul>

	に関する情報を容易に入手できるデジタルサイネージを継続（再）			
37	ホームページの迅速な更新による病院情報のアピールと、市町村広報誌への毎月情報掲載や、病院だよりの定期的な発行による地域への情報発信（阿南）	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページについては必要があれば、随時迅速な更新に心がけ、広く情報発信した。（令和元年度 更新回数 51回）</li> <li>・市町村広報誌へ毎月掲載を依頼し、医療情報等の紹介を行った。阿南町においては毎月掲載してもらった。</li> <li>・病院だより「地域とともに」を発行し、地域住民や利用される方に阿南病院への理解を図った。</li> </ul>

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 1 法人の力を最大限発揮する組織運営体制づくり

#### (1) 柔軟な組織・人事運営

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

各病院が提供する医療サービス内容、施設基準、収支見通しを検討し、効率的な職員配置に努めた。

特に看護部については、「医療安全の確保」と「経営的な視点」を両立させる適正人員数の検討・分析結果に基づき、各病院が人員配置の適正化に向けて前向きな取組みを行った。

医療組織にふさわしい人事評価制度の構築のため、「人事評価検討ワーキンググループ」による検討を進め、8月に「人事評価制度の基本方針（素案）」を取りまとめるなど、令和2年度からの新しい人事評価制度試行導入に向けた準備を行った。

その他、各病院等において、職員が持つノウハウや情報を共有し、課題を検討するための各種プロジェクトチームを積極的に開催した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 1(1) 1	ア 組織・人事運営 県立病院の円滑な業務運営に資するため、採用計画の立案に際しては、各病院が提供する医療サービスの内容・施設基準・収支の見	信 州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療サービスの内容によって職員を配置している。</li> <li>・医師については、泌尿器科の常勤医を確保し、患者数及び手術件数の増加と収益確保に努めた。</li> <li>・看護師については、適正な人員数と配置場所について検討を行い、限られた人員を効果</li> </ul>

	通しを十分把握・分析し、効率的な職員配置に努める。また、長期的視点に立って経営の安定化を図るため人件費の医業収益に対する比率（人件費率）を随時注視し、その低減に努める。			的に活用するという意識の変化がみられた。 ・全産育休者を対象にして、キャリアシート及び妊娠時の手続きフローシートを活用した面談を実施し、復帰に向けた支援を実施した。
2	同上	駒ヶ根	A	・医療の質と経営の質の両立を図るよう必要な人員を採用し、配置した。 ・外来クラーク2人の枠を維持することにより、超過勤務時間の削減及び書類作成の迅速化を進め、医師業務の削減と患者満足度の向上を図った。 ・育児休業等に対応するため、必要な職員を年度中途に随時採用した。
3	同上	阿南	A	・必要な部署ごとに、正規職員や有期雇用職員を確保するために随時採用をするなど適正配置に努めた。（年度中途の採用：看護師 2名） ・また人件費率に関しては、運営会議で資料を提供し、改善を検討した。
4	同上	木曾	A	・患者数の減少に見合った職員数について検討を行い、職員配置の適正化を図った。
5	同上	こども	A	・診療部、看護部等、必要な部署には随時、正規職員をはじめ有期雇用職員の採用を迅速に行っている。（年度中途の採用：医師13人、看護師・助産師他24人、事務職員10人） ・医師事務作業補助者を13人配置し、医師の負担軽減を図っている。
6	同上	本部	A	・参照（p.82-No.15）
7	同上	本部	A	・採用計画 退職者等による不足人員の補充を基本として、年度当初から定年者の再雇用意向調査や早期退職希望者の把握を精査し、必要な採用を行った。 ・看護職員の適正人員配置に向けた取組 医療安全の確保と経営的な視点を両立させる適正人員数を算出し、病院間の比較検討を行った。

				<p>業務の数値化による客観的な把握に努め、「医療安全の確保」と「経営的な視点」を両立させる適正な人数を看護師長自らが試算することで、働き方改革にも対応可能な合理的な職場運営が実現できてきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・採用実績（常勤）</li> <li>【看護職員】 退職者数50名 採用者数71名</li> <li>【医療技術職員】 退職者数11名 採用者数15名</li> <li>【事務職員】 退職者数2名 採用者数4名（うち1名は有期職員から採用）</li> </ul>
8	県立病院間で医師等の人事交流や相互派遣をするなど、診療をはじめとする業務の協力体制の充実（再）	5 病 院	A	・参照（p.72-No.1～p.73-No.10）
9	病院運営上の様々な課題について、病院の担当者間で横断的に議論・検討などを行うプロジェクトチーム等を積極的に活用	本 部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医業収益確保のための担当者会議を開催し、施設基準・未収金対策及び診療報酬改定をテーマに、意見交換を行った。</li> <li>・経費削減のための事務連絡会議を開催し、委託経費の見直しなど各病院の取組や情報交換を行った。</li> <li>・購入時期に合わせて3回の医療機械等審査部会を開催し、41件（うち書面審査・TV会議5件）の審査を実施。</li> <li>・過去に購入した医療機器について、計画に対する実績の検証を行い、利活用の方法等を検討した。</li> <li>・広報担当者会議を開催し、機構年報の作成や広報戦略について職員の意識を高める研修会や情報交換を行った。</li> </ul>
10	イ 医療組織にふさわしい人事評価制度の構築	本 部	A	・公募により検討メンバーを募り、3月に「人事評価検討ワーキンググループ」を立ち上げて作業を開始。8月には「人事評価制度の基本方針（素案）」を取りまとめ、企画調整

	職員の業績や能力を的確に評価し、人材育成、人事管理に活用するため、新制度導入に向けたワーキンググループを立上げて検討していく。(本部)			会議や院長会議での議論や労働組合との交渉を経て、R2年4月から新しい人事評価制度の試行的導入を行うこととなった。 【ワーキンググループメンバーの構成】 計24名(医師4、看護師3、薬剤師1、医療技術11、事務5)
11	院長が年2回、診療部、看護部、医療技術部、事務部の職場責任者等と面接し、年間目標の設定と実績などPDC Aサイクルを推進(信州)	信州	A	・PDC Aサイクル推進に伴う前年度の振り返り及び今年度の目標設定を院長ヒアリングとともに、6月24日～7月25日に実施した。 ・PDC Aサイクル推進に伴う上半期の振り返りを12月10日～12月23日に実施した。
12	院長が各医師と目標や実績に関する面談、病院目標達成に向けた動機付けや適正な能力開発を推進(ここ駒)	駒ヶ根	A	・院長と医師の面談により、病院目標達成に向けた説明と技量に応じた課題を課し、能力開発に努めた。
13	病院の目標を個人の目標に落としこみ、組織全体の目標達成を目指す。(木曾)	木曾	A	・業務評価の個人の業務目標設定に当たり、病院の目標を前提とした各部署の目標を設定し、それに沿って個人の目標を設定するように働きかけた。
14	院長が年2回、診療部、看護部、医療技術部、薬剤部の職場責任者等との面接を通じて、業務改善と職場環境改善の意見交換を実施(こども)	こども	A	・病院長が診療科部長や看護師長、医療技術部科長と各自面談し、病院の貢献度や自己評価等の聴取を行うと共に、病院経営に関しての改善増収策等意見交換を実施した。(5～6月、7月、11～12月、随時 のべ72名)
15	ウ 機構独自の人事給与システム等の構築 県との協議により現行の県システムから分離し、機構独自のシステムを構築の上、2020年からの稼働を目指す。	本部	A	・当初の予定どおり、令和2年1月から機構独自のシステムの稼働を開始した。 ・働き方改革の対応として、勤怠管理システムによる全職種の勤務予定表の作成及び出退勤打刻の運用を開始し、職員の労働状況の把握・改善に努めた。

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 1 法人の力を最大限発揮する組織運営体制づくり

#### (2) 仕事と子育ての両立など多様な働き方の支援

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

職員満足度の向上のため病院組織文化調査を実施し、結果を分析した上で管理職と一般職の意見交換会を行う等、必要な対応策を検討した。

全所属における労働時間の適正把握のため、機構独自の勤怠管理システムを導入し、9月からの試行を経て、1月から本格稼働を開始した。また、夏季休暇を特別休暇から年次休暇の扱いとする改正や有期雇用職員の休暇制度の充実など、休暇取得の促進を図った。

ハラスメントやメンタルヘルスに関する研修会やストレスチェック等を行い、職員の心身の健康の保持増進、快適な職場環境づくりを推進した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 1(2) 1	ア 職場環境の整備 ・医師をはじめとする病院スタッフの働き方改革を踏まえ、インフォームドコンセントの原則勤務時間内実施や、労働時間の適切な把握、年次休暇の取得を促進（本部）（再）	信州	A	・令和2年1月からICカードによる出退勤管理を開始し、職員の労働時間の状況の的確な把握に努めている。 ・タスクシフティングへの取組として、令和2年2月に、厚生労働大臣から看護師特定行為研修指定研修機関としての指定を受け、令和2年10月から特定行為研修を開始予定。
2	同上	駒	A	・タイムカードの導入により、勤怠管理を正確に行い、超過勤務の多い職員に対しては、

		ヶ 根		タスクシェアを行うなどして業務の平準化に努めた。
3	同上	阿 南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種会議を原則、勤務時間内に実施した。</li> <li>・事務所入口に出退勤時間打刻用パソコンを追加設置し、労働時間の適切な把握に努めた。</li> <li>・年次休暇の取得予定を申告してもらい、年休予定の実施を呼びかけた。</li> </ul>
4	同上	木 曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICを勤務時間内に実施している。</li> <li>・勤怠システムの変更による出退勤時のスキャンにより、勤怠管理の正確な管理を行った。</li> </ul>
5	同上	こ ど も	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・I Cを勤務時間内に実施している。</li> </ul>
6	同上	本 部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.82-No.15)</li> </ul>
7	・育児短時間勤務及び育児部分休業などの制度に対する適切な理解促進と病院現場に即した活用を推進 (再)	信 州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.81-No.10)</li> </ul>
8	同上	駒 ヶ 根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.81-No.11)</li> </ul>
9	同上	阿 南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.81-No.12)</li> </ul>
10	同上	木 曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.81-No.13)</li> </ul>
11	同上	こ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.81-No.14)</li> </ul>

		ど も		
12	同上	本 部	A	・昨年度に引き続き、冊子「交代制勤務者のための育児期間中の勤務制度概要」により、各種制度の正しい理解や効果的な活用方法の説明及び啓蒙に努めた。
13	・看護師が看護業務に専念できるよう、介護福祉士、看護補助者等を活用（信州）（再）	信 州	A	・参照（p.81-No.10）
14	・看護師の産育休者を対象にして、キャリアシート及び妊娠時の手続きフローシートを活用した面談を実施、職員自身のキャリア形成と復帰後の働き方を検討、職場復帰に向けた支援の実施（信州）（再）	信 州	A	・参照（p.82-No.16）
15	・育児短時間勤務者の勤務形態に応じた適切な配置等、部門横断的な検討を継続（信州）（再）	信 州	A	・参照（p.82-No.16）
16	・院長が院内巡視を行い各科の職場責任者との面談を通して職員の要望等を聞き、働きやすい職場環境の整備を推進（木曾）	木 曾	A	・院長、看護部長、事務部長による「院内巡視」を実施し、職員から要望、意見等を収集し必要な対策を行った。（再）
17	・医療の質と経営的な視点を両立させる適正な看護師数の検討（再）	本 部	A	・参照（p.82-No.15）
18	イ 職員満足度の向上 職員のモチベーション、チームワーク、職務満足や負担感などを含めた病院組織文化調査を引き続き全職員へ実施し、調査結果を多角的に分析、多施設ベンチマークから病院の	信 州	A	・院内広報誌「みちしるべ」を年2回（8、12月）発行し、管理者からのメッセージや各部署からのお知らせ、各部署の取り組みや活動の紹介等を掲載し、職員間の理解と一体化を図った。 ・職員の心身の健康の保持増進と病院職員同士の横断的な交流を図るため、サークル活動支援制度を作りサークルへの支援制度を作り交流を深められる魅力ある職場づくりに

	立ち位置や最良の実践法を見出だすことで、満足度が高く、意欲を持って働ける職場環境の改善を推進（本部）			<p>努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に院内ソフトバレーボール大会を開催し職員間の交流を深めた。院外との関わりにおいては、恒例行事として第42回須坂カッタカタまつりに参加した。</li> </ul>
19	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場の職員のモチベーションアップを図るため、院長と職員との懇談会を開催した。（3回）</li> <li>・院内広報誌「猫ベンチのつぶやき」を発行した。（8回）</li> <li>・職場環境改善コアチームからの提案を受け、新たな交代制勤務のあり方等の検討を開始した。</li> <li>・サンクスアワードを実施し、委託業者を含めたセクション、個人への感謝状、表彰状の贈呈を行った。</li> </ul>
20	同上	阿南	A	<p>経営企画会議において、職員満足度調査結果の分析・検討を行い、必要なものは改善した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院内情報交換会を2回開催（参加者 81人）</li> </ul>
21	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員満足度調査の実施 10月 調査実施（調査結果報告会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止）</li> <li>・院長、看護部長、事務部長による「院内巡回ミーティング」を実施し、職員から要望、意見等を収集し必要な対策を行った。</li> </ul>
22	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月～11月 病院の組織文化に関する調査を実施。 調査結果報告書を受理し、職場ごとの取組及び病院としての取組の推進。（課題）</li> <li>・P D C A サイクルによる取組の推進</li> </ul>
23	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本部ではH30年度の調査報告会実施。各病院での報告会を順次実施。</li> <li>・本年度の調査は10月から実施。委託業者による集計と分析を経て、5月以降に順次報告会を行う予定である。</li> </ul>

24	<p>職員の子育て支援と女性活躍推進の視点から、院内保育所の充実を含め、職員が働きやすい職場環境の整備その他福利厚生施策を充実（本部）</p> <p>院内保育所での「保護者会」や「親子・職員と楽しむ夕涼み会」等を開催、安心して働ける環境の提供（信州）</p> <p>院内保育所利用者のニーズに対応するため、院内保育所での保護者会を開催、安心して働ける環境づくりを推進（こども）</p>	信州	A	<p>・院内保育所「カンガルーのぽっけ」（定員10人）では、保護者である職員が安心して働ける環境の提供に努めるとともに、4月「お花見」、5月「こいのぼり会」、7月「七夕まつり」、8月「夕涼み会」、9月「秋の遠足」、10月「ハロウィン」、12月「クリスマス会」、2月「豆まき」、3月「ひなまつり」を開催し病院と保育所の交流を深めている。（保育総延人数1,108人）</p>
25	同上	木曾	A	<p>・院内保育所利用者のニーズに対応するため、保育所運営協議会の場において、要望等を把握し、安心して働ける環境づくりを推進した。</p>
26	同上	こども	A	<p>・保護者会での利用者の意向を尊重し、委託業者と綿密な連絡調整を行い、GW・夏休み等の長期休みの一時預かりの充実を図る等、利用者が安心して業務に専念できる環境を整えている。</p>
27	同上	本部	A	<p>・7月～9月の夏季期間に、通常より30分～1時間程度早く出退勤するとともに定時退勤に努め、夕方からの時間を有効活用する朝型勤務を実施した。</p>
28	老朽化した職員宿舎及び敷地の有効活用を検討（信州）	信州	A	<p>・民間借上宿舎について、長期間入居者のいない物件を今後契約更新しないことや職員宿舎のあり方について検討を行った。</p>
29	職員の心身の健康の保持増進及び快適な職場環境の形成のため、巡回健康相談、ストレスチェックに基づく集団分析報告会等を開催するとともに、健康づくり等心身の健康に関する研修を実施	信州	A	<p>・メンタルヘルス巡回相談・全職員対象のストレスチェックを実施。</p> <p>・職員安全衛生委員会により、毎月職場環境の巡視を行っている。</p> <p>・職員の心身の健康の保持増進と病院職員同士の横断的な交流を図るため、サークル活動支援制度を作り交流を深められる魅力ある職場づくりに努めている。</p> <p>・6月に院内ソフトバレーボール大会を開催し職員間の交流を深めた。院外との関わりにおいては、恒例行事として第42回須坂カッタカタまつりに参加した。</p>

30	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメントやメンタルヘルスなどに関する職員相談体制を整備するとともに、職場復帰支援マニュアルにより、療養休暇を取得した職員の職場復帰を組織的に支援した。</li> <li>・7月及び12月を超過勤務縮減月間と定め全職員へ周知し、超勤の縮減に努めた。</li> </ul>
31	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生委員会の開催と隔月の職場環境の巡視により、快適な環境の整備に努めた。</li> </ul>
32	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルヘルス巡回相談・全職員対象のストレスチェックを実施した。</li> <li>・職員の心身の健康の保持と職員同士の交流を図るため、メンタルヘルス委員会によるコグニサイズ研修会（認知課題と運動を組み合わせた認知症予防の取組み）を10回行い、105人の参加があった。</li> <li>・産業医により月1回、職場巡視を行い、職員の勤務環境のチェック、改善を指導している。</li> </ul>
33	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が産業医と直接相談予約ができる体制を整備した。</li> <li>・機構本部主催のメンタルヘルス研修会を受講した。</li> </ul>
34	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採用職員メンタルヘルス研修（受講者数92人）、新規採用職員対象のメンタルヘルス巡回相談及び全職員対象の健康・メンタルヘルス巡回相談（病院ごとに3回）、ストレスチェック（受検者数1,505人）及び集団分析報告会（病院等ごと）、管理監督者向けメンタルヘルス研修会（参加者21人）などを実施することにより、職員の健康の保持増進、快適な職場環境づくりを推進した。</li> </ul>

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 2 経営力の強化

#### (1) 病院経営に一体的に取り組むための職員意識の向上

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

組織が一体となって経営改善に取り組むため、事務部長会議、理事会において月次決算（前月の経営状況）を示し、病院、本部等の幹部職員により課題や取組方針を共有した。また、各病院において運営会議等の場で活用されることにより、収益向上・費用削減に係る職員の意識向上を図った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 2(1) 1	<p>月次決算をはじめとする経営指標について引き続き理事会などで確認、その状況の全職員への周知を徹底、経営改善に取組み安定した病院経営</p> <p>・経営感覚の向上などを目的とした、病院経営に関する研修を引き続き実施</p>	本部	A	<p>部長会議、理事会において月次決算（前月の経営状況）を示し、また各病院においても運営会議等の場で活用され、収益向上・費用削減の取組みが図られた。</p> <p>新規職員や他部署から異動者等を対象に基礎的な会計制度の研修会を開催し、理解を深められた。</p>
2	<p>・病院経営上の様々な課題について、病院の担当者間で横断的に議論・検討などを行うプロジェクトチーム等を積極的に活用（再）</p>	本部	A	<p>・参照（p.146-No.9）</p>

3	・職員の能力向上と相互理解を深めるため、院内研究発表会を年1回開催（信州、ここ駒、木曾）	信州	—	・院内研究会を開催し、医師、看護師、医療技術部職員、医事事務職員及び事務職員が、相互に研究結果を発表する場を設けている。令和2年3月に企画し、8演題が提出されたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止せざるを得なかった。（抄録を各部署へ配布）
4	同上	駒ヶ根	A	・院内研究発表会を2回実施し、各セクションの取組みを発表する機会を設け、院内の情報共有を図った。
5	同上	木曾	A	・日頃の研究成果の発表の場として院内研究会を2月に開催し、優秀な演題を表彰し職員のモチベーションアップにつなげるとともに、職員相互の資質向上を図った。
6	・毎月の全体朝礼と運営会議で院長方針の伝達と、PDCAサイクルの繰り返しにより経営への参画意識の向上（信州）	信州	A	・役職者を対象とした毎月の運営会議では、医事課での分析結果による患者状況の把握と会計決算係による収支の分析結果を組織全体で把握している。 ・また、毎月の全体朝礼で院長から、経営状況や課題等の説明、損益分岐点となる病床稼働率と医療看護必要度を維持するための病床運用への協力の呼び掛けがなされ、病院全体で取り組んだ結果、通年で高稼働率を維持することができた。
7	・数値目標に係るキャッチフレーズにより、経営への参画意識の向上、病院運営会議で経営状況について説明、「病院運営会議だより」により職員一人ひとりが経営状況を把握するよう周知徹底（ここ駒）	駒ヶ根	A	・毎朝実施している朝会において、病棟ごとの病床利用率を報告し、目標の達成状況を確認した。 ・毎月の病院運営会議において経営状況及び分析結果を報告した。 ・「病院運営会議だより」を発行し、グループウェアにより全職員に対して経営状況を周知した。
8	・日頃の業務内容や実施した調査研究、業務改善の取組み等の報告を行う院内情報交換会の開催による、職員間の情報共有と業務改善の推進（阿南）	阿南	A	・日頃の業務内容や実施した調査研究、業務改善の取組み等の報告を行う院内情報交換会を2回開催（参加者 81人）し、職員間の情報の共有化を図った。 ・経営等に関する情報を共有し、経営の意識を高めるために、各セクションに赴き、年度計画、決算状況の説明と併せて、経営改善の意見交換を行った。（13回開催 105名参加）
9	・「魅力発見・組織発展プロジェクト」の提言内容及び経営等に関する情報を共有し、職員	阿南	A	・経営企画会議内で病院内部の強み・弱み、病院外部の機会・脅威、クロス分析・克服するための方策等を検討し、今後、全職員に対し、具体的な対応策を提示していく。今後も

	の経営意識を高めるため、各セッションごとに経営状況の意見交換を実施（阿南）			引き続き行っていく。
10	・各部門別のBSC（バランス・スコアカード）の展開の充実を図り、業務改善を推進（木曽）	木 曽	A	・毎月の月次決算の状況を分かりやすく解説するとともに、各部署の取組みを紹介する「経営改善ニュース」を発行し、職員の経営改善に対する意識の醸成を図った。 ・BSCについて、「院内巡回ミーティング」において部署別平成30年度実施内容の検証及び、平成31年度計画の確認を行い、目標と課題の共有を図った。
11	・全職員が容易に理解できる新たな経営分析指標を導入し、運営委員会等で分析結果を周知することで職員の経営者意識を醸成（木曽）	木 曽	A	・全員参加による健全経営の推進のため、新たな経営指標（時間当たり部門別採算）の導入を目指し、準備を進めた。
12	・病院において、院内広報誌等を発行（信州、ここ駒、阿南、木曽）（再）	5 病 院	A	・参照（p.83-No.19～23）
13	・現場の意見を汲み上げた経営改善を実施するため、診療科医師を加えてディスカッションする経営企画室会議の機能拡充と独自の未来志向型プロジェクトの立案及び実行（こども）	こ ど も	A	・月2回の会議を実施。病院の経営状況を確認するとともに、未来志向型のプロジェクトを策定し24件のプロジェクトを立案し、そのうちアレルギー科・感染症科の新設など14件を実施することができた。

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 2 経営力の強化

#### (2) 経営部門の強化

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

事務職員の資質向上及び相互連携強化を図るため、事務職員研修会や院内多職種体験研修を実施した。

「医療の質の評価・公表等推進事業」に参加し、管理者会議や運営会議でベンチマークとする病院の指標との比較検討を行い、経営の質の向上につなげた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 2(2) 1	<p>病院運営や医療事務等に精通した人材の確保・育成を行い、経営力を向上</p> <p>・事務職員を対象とした体系的な研修プログラムの充実（本部・研セ）</p>	本部	A	<p>・事務職新規採用者を対象に、院内多職種体験研修を、配属先病院主催で実施し、3名が参加した。</p> <p>・7月30日に集合研修を実施し、20人が参加。講義のほか、グループワーク及び業務担当者ごとの分科会により資質向上と事務職の相互連携強化を図った。</p>
2	<p>・管理者会議、運営会議等でベンチマークとする病院（民間・公的・他自治体病院等）の指標について比較、経営の質の向上（信州）</p>	信州	A	<p>・ベンチマークとする病院（民間・公的・他自治体病院等）の指標を参考に材料メーカー及び卸業者と交渉し材料費削減に努め、経営の質の向上につなげている。</p> <p>・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」及び日本病院会のQ I プ</p>

				プロジェクトに参加し、院内のQ I 委員会を中心に指標の検証を継続している。
--	--	--	--	--

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 3 経営改善の取組

#### (1) 年度計画と進捗管理

〔自己評定〕           A

〔自己評定の理由〕

年度計画を達成するためのアクションプランを策定した上で、進捗状況や課題を定期的に把握、自己評価を行い、PDCAサイクルによる業務改善を推進した。

各病院の月次決算をはじめ、病床利用率や診療単価等の経営指標を把握し、組織全体で情報共有することにより経営改善を図った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 3(1) 1	各病院長は、その付与された権限に基づき、県立病院の医療機能を最大限に発揮するよう、業務の進捗管理と経営改善を図り、責任を持って年度計画を達成する。 また、機構全体で、年度計画を達成するための行動計画（アクションプラン）を策定、PDCAサイクルによる業務運営を推進	信 州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに院長が各診療科部長、各病棟師長、各部門科長とヒアリングを行い、昨年度の結果を検証してから新たな年間プランを作成し実行している。</li> <li>・アクションプランの進捗管理のため下半期終了後に振り返りを行い検証している。</li> </ul>

2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度計画達成のため、年度当初に病院全体及びセクションごとのアクションプランを運営会議で共有し進めた。</li> <li>・新規事業・拡充事業などについて、随時、進捗管理を行うとともに、10月には中間評価を3月に期末評価を実施し、それぞれの成果と課題を確認した。</li> </ul>
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度計画達成のため各セクションにおいてアクションプランを策定し、PDCAサイクルによる業務改善を行った。</li> <li>・具体的な数値目標を設定し、年度途中でも課題等のチェックを行い、年度計画を達成するように努めた。</li> </ul>
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度計画達成のためのアクションプランを基に、「各部署にてBSCの作成 → 実行 → 自己業績評価 → 院内巡回ミーティングで病院幹部に報告」の手順による取組みを行った。</li> </ul>
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度計画を基に、各関係部署の計画をまとめたアクションプランを策定した。</li> <li>・参照 (p.156-No.13)</li> </ul>
6	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に、本部アクションプランを作成、各病院分を調整の上で取りまとめ、4月の部長会議及び理事会に報告した。</li> <li>・10月に、本部アクションプランに関する上半期の進捗状況を確認・評価し、各病院分と併せ上半期業務実績報告書として、12月の部長会議及び理事会に報告した。</li> </ul>
7	各病院の月次決算の状況を的確に把握し、機構全体として経常損益及び資金収支の向上を図り、経営の安定化	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週管理者会議で入院と外来の患者数を確認し、毎月の役職者を対象とした運営会議では、医事課での分析結果による患者状況の把握と会計決算係による収支の分析結果を組織全体で把握している。また、経営情報分析システムであるセコムSMASHを導入し、多職種で活用するよう使用方法の研修を行った。</li> <li>・また、毎月の全体朝礼で院長から、経営状況や課題等の説明、損益分岐点となる病床稼働率と医療看護必要度を維持するための病床運用への協力の呼び掛けがなされ、病院全体で取り組んだ結果、通年で高稼働率を維持することができた。</li> </ul>

8	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月開催の病院運営会議で経営状況を報告し、情報共有を図った。</li> <li>・入院診療単価の減につながる3ヶ月以内の再入院患者を抑制させる取組みにより、3ヶ月以内の再入院率が減少した。(令和元年度13.5% 平成30年度18.5%)</li> <li>・急性期病棟の中長期入院患者について、ベッドコントロール会議により総合治療病棟へのスムーズな転棟を検討し、診療単価の高い急性期病棟での入院受入れができるよう努めた。</li> </ul>
9	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人口動態や医療動向を加味した阿南病院独自のクリニカルインディケーターを毎月の経営企画会議に提示し、臨床指標を用いた量的、質的な現状の把握、分析を行い経営力の評価を行い、新たな取組を検討した。</li> <li>・月1回開催している運営会議において、計画の進捗状況と毎月の運営状況を示すとともに、主な項目をグラフ化し当院の経営状況について新たな様式で職員に周知を図り、経営状況を職員間で共有を図る。</li> </ul>
10	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月2回の運営委員会において、毎月の病床利用率や入院単価などの診療実績を検証し、経営状況の分析・把握を行うとともに、2回のうち1回を希望する職員が誰でも参加できるようにし、経営状況の周知や収益確保と費用削減への意識啓発に努めた。</li> </ul>
11	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.156-No.13)</li> </ul>
12	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部長会議、理事会において月次決算(前月の経営状況)を示し、また各病院においても運営会議等の場で活用され、収益向上・費用削減の取組みが図られた。</li> </ul>

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 3 経営改善の取組

#### (2) 収益の確保と費用の抑制

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

各種経営指標や評価指標を分析・活用することにより、医療の質の向上及び経営改善につながる取組みを積極的に行った。

医業収益確保及び経費削減について、病院ごとの取組みに加えて病院と本部とで横断的に議論や検討を行うプロジェクトチームの活動を充実させ、未収金対策や機器保守委託費削減など実効性のある検討を進め、会議を契機として医療機器の保守契約方法の見直しなど、具体的な削減成果につながった。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 3(2) 1	ア 評価指標の活用 臨床評価指標（クリニカルインディケーター）や、より質の高い医療を提供できるよう医療の質評価指標（クオリティインディケーター）をホームページ上に公開（再）	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価、公表推進事業」と日本病院会の「Q I プロジェクト（Q I 推進事業）」を継続し、指標のベンチマークによりQ I 委員会等を通じて関係委員会等にフィードバックを行い、医療の質の改善を図った。</li> <li>・業務運営の改善のため、毎月の運営会議でクリニカルインディケーターを報告している。</li> <li>・ホームページの臨床評価指標等を随時更新している。</li> </ul>

2	同上	駒ヶ根	A	・参照 (p.141-No.27)
3	同上	木曾	A	・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」に引き続き参加した。 ・ホームページで、医療の質の評価公表等推進事業の報告ページへリンクを貼り、多くのデータ閲覧ができるようにしている。
4	・業務運営の改善のため、経営企画室会議によって検討したクリニカルインディケータの分析結果等を管理者会議へ提案 (信州)	信州	A	・業務運営の改善のため、毎月の運営会議でクリニカルインディケータを報告している。
5	・経営企画会議による、クリニカルインディケータの項目の見直し、アクションプランのPDC Aサイクルによる業務改善、「魅力発見・組織発展プロジェクト」の重要課題と対策の検討 (阿南) ・経営改善ワーキンググループによる重点取組事項の検討と実践 (阿南)	阿南	A	・経営企画会議内で病院内部の強み・弱み、病院外部の機会・脅威、クロス分析・克服するための方策等を検討し、今後、全職員に対し、具体的な対応策の提示を引き続き今後も行っていく。 ・経営状況が厳しい中で、経営企画会議において経費削減にかかる取組の検討を行い、効果的な方策を実施。
6	・医療の質の向上を図るために、全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」と日本病院会のQ Iプロジェクト (Q I 推進事業)に参加、自院の診療の質を知ることによって、経営改善 (信州)	信州	A	・参照 (p.142-No.32)
7	・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」を継続 (ここ駒、木曾、こども) (再)	駒ヶ根	A	・参照 (p.142-No.33)
8	同上	木	A	・参照 (p.142-No.34)

		曾		
9	同上	こ ど も	A	・参照 (p.142-No.35)
10	・精神医療の見える化研究プロジェクト (PECO) に参加、参加病院とベンチマーク分析を行い、臨床評価指標及びデータ活用により適切な医療を推進 (ここ駒)	駒 ヶ 根	A	・ベンチマーク分析及びデータ活用により月別の平均在院日数、病床利用率、精神科行動制限件数 (隔離・拘束)、抗精神病薬処方量等を全国平均と比較し、課題の明確化を図り、委員会等での活用及び適切な医療に繋げた。
11	・人件費比率低減に向けて、各部門職員の適正な人員数と配置場所、業務の見直し及び働き方の検討を継続 (信州)	信 州	A	・病床利用及び医療・看護必要度に応じた適正な人員数を、看護師の適正人員数試算表を用いて検討を行うとともに、育児短時間職員の勤務スタイル見直しを行い、配置人数の適正化を図った。
12	・県立病院の月次決算等のデータと、各病院がベンチマークとする病院 (民間・公的・他自治体病院等) の様々な指標や財務状況について比較、経営状況を客観的に分析・把握し改善	信 州	A	・役職者を対象とした運営会議等で経営状況に関する各種データを周知し、病院経営参画を促している。
13	同上	駒 ヶ 根	A	・病院経営上必要な診療実績に関するデータの収集及び分析を行い、院内に積極的に情報発信を行った。 ・全国自治体病院協議会が実施する医療の質の評価・公表等推進事業に引き続き参加し提出しているデータを分析し、他の参加病院との比較を行った。
14	同上	阿 南	A	・本部へ提出する「収益増に対する取り組み状況表」、「月次決算データ」を分析することで、経常損益の増加及び資金収支の向上に寄与した。 (課題) ・アウトカム・プロセス評価についての医局及び各部門へのフィードバックとその実践
15	同上	木	A	・全自病医療の評価公表事業に参加し、指標の作成を推進した。

		曾		・経費削減チームを結成し、財務内容の改善に取り組んだ。
16	同上	こども	A	・参照 (p.156-No.13)
17	同上	本部	A	・部長会議、理事会において月次決算（前月の経営状況）を示し、また各病院においても運営会議等の場で活用され、収益向上・費用削減の取り組みが図られた。
18	診療内容の透明化・標準化を図り、DPC請求における精度の向上のため、DPC分析結果の運営委員会等へのフィードバックを行いながら常に改善に取り組む。（信州、木曾、こども）	信州	A	・DPCデータを用い、ワンクリックで病院全体の経営状況を可視化する病院経営情報分析システム「セコムSMASH」の導入をした。多職種で活用するよう利用についての研修会を開催した。 ・2020年度診療報酬改定の内容を確認し、当院における影響額のシミュレーションを行い、経営企画室会議等へ情報提供を行った。 ・新たな施設基準の取得に伴うDPC係数の推移と収益への影響額を分析し、経営改善に向けた検討資料として活用した。
19	同上	木曾	A	・DPCソフトを活用し、急性期病棟から地域包括ケア病棟へのベットコントロールの判断基準とした。
20	同上	こども	A	・診療報酬検討委員会を毎月開催。病院長と資料の見直しを行い、「医事対策」「医師対策」「システム」に分類した資料を作成し、その資料を基に委員会内で報告と検討を行った。 ・診療報酬請求担当者は、査定の分析を毎月実施し、査定と分析結果を診療科部長に配布。査定対策と必要に応じて再審査請求を行った。 再審査件数：29件 審査結果 復活：5件 67,560円（未回答14件あり） ・適切なコーディング委員会を年に5回実施。病名によるDPC点数の変化、DPC請求のルールについて資料を作成し、診療報酬検討委員会にて報告。診療科部長にも資料を配布し院内の周知に努めた。
21	全国小児病院による研究会、小児医療施設協議会での診療情報分析連絡会など相互に連	こども	A	・全国のこども病院（小児専門病院）が参加する日本小児総合医療施設協議会（JACHRI）が実施するJACHRI病院間でのベンチマーク比較に参加した。その結果は「新生児科領域

	携、医療の質の向上、医療安全、経営改善の分野の発展に寄与（こども）	も		<p>の臨床指標」「2018年こども病院臨床指標」として取りまとめられJACHRIホームページへ公開されている。</p> <p>・医療材料について信州大学医学部附属病院が主催する「長野県購買実務担当者会議」に出席し、費用削減に関する情報交換を行った。</p>
22	<p>イ 効率的な予算の編成と執行</p> <p>各病院長が、中期計画、年度計画及び長期的な投資計画や収支見通しに基づき、責任ある収支計画案の作成</p> <p>収入見通しの作成に際しては、地域の人口減、患者動向や各病院における増収策を的確に反映させるなど、以下のとおり取り組む。</p> <p>・各病院の医療機能に対応した、施設基準の適切な届出を実施、診療報酬の算定漏れを防止</p>	信州	A	<p>・施設基準等管理委員会で、医療・看護必要度、在宅復帰率、地域包括ケア病棟のリハビリテーション単位数、月平均夜勤時間等をモニターし、施設基準の維持に努めるとともに、新たな施設基準が届出可能か検討を行った。なお、令和元年度に新たに届出した施設基準は、仙骨神経刺激装置植込術、仙骨神経刺激装置交換術、膀胱水圧拡張術、がん患者指導管理料ハ、婦人科特定疾患治療管理料、認知症ケア加算2、先天性代謝異常検査、心臓ペースメーカー指導管理料の遠隔モニタリング加算があり、収益増加に繋がった。</p> <p>・診療報酬改定に伴い、令和2年度診療報酬改定対策チームを経営企画室会議の下立ち上げ、個別改定項目から当院で4月から実施可能な内容を洗い出した。</p> <p>・診療報酬の算定漏れについては、診療報酬対策委員会で査定の内容を毎月確認し、原因分析と対策検討を行った。</p>
23	同上	駒ヶ根	A	<p>・年度計画、中期計画に沿った運営と収支計画の改善に取り組み、施設基準の速やかな届出、診療単価の増を目指した。支出においては、医療安全などの必要度、緊急度を踏まえ予算執行に努めた。</p>
24	同上	阿南	A	<p>・地域の医療動向を見極め、年度計画に沿った運営に取り組み、施設基準の届出を速やかに行い、また、収支見通しを考慮しながら、必要度、緊急度を踏まえ予算執行に努めた。</p>
25	同上	木曾	A	<p>・毎月2回行われる運営委員会において、患者数や経営状況に係る情報共有を図るとともに、年度末の収支見通しなどを常に考慮し、支出の削減に取り組みながら予算の適正な執行に努めた。</p>
26	同上	こども	A	<p>・参照（p.156-No.13）</p> <p>・機構本部主催の経費削減事務連絡会議での検討を行い、経費全体の圧縮に努めた。</p>

27	・出来高算定項目の実施率向上及び包括項目の効率化を推進、DPC係数の向上（信州、木曾、こども）	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営企画室会議にて、診療報酬改定の影響に関する分析（DPC係数による影響額、地域包括ケア病棟への転棟に係るDPC期間と点数の比較、経過措置後の重症度及び医療・看護必要度）を行った。</li> <li>・DPC係数を維持するため、医師事務作業補助者9名の体制を継続した。</li> </ul>
28	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署との連携により、施設基準届け出に必要な体制を整備し、入退院支援加算、薬剤指導管理料、食事栄養指導料の算定増を図った。</li> <li>・入院中の指導等の充実に取り組み、薬剤管理指導料の算定増につなげた。</li> </ul>
29	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未コード化傷病名の減少に継続的に取り組んだ。 2018年4月（7.36%）→2019年3月（2.41%）→2020年3月（1.37%）</li> <li>・術式請求について、手術記録から追加請求可能な術式を医師に提案。 一例として、胸腔血種除去術（15,350点）、骨内異物除去術（5,200点）等の請求をした。</li> <li>・分娩時間のダブルチェックを実施し、時間外加算の請求もれ防止の体制を整えた。</li> </ul>
30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間ドック受診者増加に向けた取組みを充実（信州、阿南、木曾）</li> <li>・国保加入者の特定健診の充実、木曾南部地域住民の健康診断の充実（木曾）</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.69-No.35）</li> </ul>
31	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県豊根村との間で人間ドック受診に係る契約を締結し、受診者の増を図った。</li> <li>・協会けんぽ加入職員に対する生活習慣病予防検診の受診勧奨を行った。</li> <li>・職員、職員の家族に対する人間ドックの受診勧奨を行った。</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内視鏡の技術を持つ内科医師の安定的確保</li> </ul>
32	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間ドックに心臓検査コースを新設し、循環器系疾患予防への対応を拡充した。</li> <li>・国保特定健診を郡内町村から受託するとともに、岐阜県坂下病院の診療所化に際し、木曾郡南部の乳がん検診、子宮がん検診、職員健康診断等の受託をした。</li> <li>・参照（p.19-No.4）</li> </ul>

33	・第三者評価（病院機能評価、健診施設機能評価）を受審（信州医療センター）	信州	A	<p>・地域に根差した安全・安心、信頼される質の高い医療を効果的に提供するため、病院機能評価（3rdG:Ver.2.0）を11月に受審した。病院全体が一丸となって改善活動に取り組み、4回目の認定となった。</p> <p>・健康診断機能の第三者評価機関である（公社）日本人間ドック学会による「人間ドック健診施設機能評価Ver.3.0」に認定された質を維持し、常勤医師（日本内科学会認定内科医、認定産業医、人間ドック学会認定専門医）によるドック受診後のフォローアップを継続するなど、受診者が安心して健診を受けられる施設を提供した。</p>
34	・退院後3カ月以内の再入院患者縮減対策の継続（再）及び入院診療単価の維持（ここ駒）	駒ヶ根	A	<p>・参照（p.28-No.18）</p> <p>・急性期病棟の入院後60日以上の中長期患者について、ベッドコントロール会議により総合治療病棟へのスムーズな転棟を検討し、診療単価の高い急性期病棟での入院受け入れができるよう努めた。</p>
35	・「思春期デイケア」プログラムの内容についての検証及び関係機関へのピアールによる利用者の増（ここ駒）（再）	駒ヶ根	A	<p>・参照（p.29-No.22）</p>
36	・地域生活支援を推進するため、訪問看護機能を強化し、多職種チームによる訪問や退院後の早期訪問を実施（ここ駒）（再）	駒ヶ根	A	<p>・参照（p.29-No.23）</p>
37	・システムを活用した診療報酬請求漏れ防止対策を実施、診療報酬請求事務の精度の向上（こども）	こども	A	<p>・医事請求、DPC調査項目との整合性チェック、DPCレセプトの分類番号のダブルチェックとして活用。未選択の場合、大きな点数の請求漏れにつながる処置や手術の分岐漏れ、選択誤りのチェックにより、請求漏れの防止ができ、精度の高いレセプトの作成につながっている。</p>
38	各病院では、医業未収金について、「病院機構未収金対応方針」及び「病院機構未収金対応マニュアル」に基づき、発生の未然防止や回収の促進	信州	A	<p>(1) 未収金の未然防止</p> <p>・昨年度に引き続き、経営企画室会議内に多職種で組織した拡大未収金プロジェクトチームを中心に、現状の未収金額の把握、令和元年度未収金対応計画の確認を行った。また令和2年4月から改正される民法における極度額について検討し、当院は一入院50万円</p>

	・未収金に係る債権回収業務委託の継続（信州）			<p>として入院申込書の連帯保証人欄に明示した。</p> <p>(2) 未収金の縮減・回収強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年1月より開始した債権回収弁護士委託を継続し、病院担当者では回収が困難であった債権のうち約431万円を回収した。(平成30年1月～令和2年3月累計)。うち令和元年度は94万円回収した。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織として未収金対策を図る体制づくりを継続する。</li> </ul>
39	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神保健福祉士と医事課が日常的に協力し、入院中から医療費に関する相談等を行うことで、未収金発生未然防止に努めた。</li> </ul>
40	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨戸訪問での徴収、郵送や電話での督促により、元年度の未収金は低水準となっている。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過年度発生未収金は徐々に減ってきてはいるが、回収が遅延している状況となっている。今後も引き続き督促を図っていく。</li> </ul>
41	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来医療費の即日払い、未払者からの誓約書徴取、入院医療費の退院日即日会計等の推進により未収金防止策を進めた。</li> <li>・長期未収金に対して、弁護士への管理委託を活用し、回収につなげた。</li> </ul>
42	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・債権回収業務の弁護士委託を継続して実施。累計507万円委託に対し、248万円回収した。</li> <li>・療育支援部との連携を密にし、支払困難者や不安な患者の情報を得、早期対応を実施した。</li> <li>・県外患者への利便性を考慮し、「ゆうちょ銀行」に振込口座を開設した。</li> </ul>
43	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医事課長会議を開催し、各病院の未収金に対する取り組みの情報交換を行った。</li> </ul> <p><b>【医業未収金収納状況の推移】</b></p>

		(単位：千円)									
当年度	区 分	信 州	駒ヶ根	阿 南	木 曾	こども	阿南老健	木曾老健	計	収納率	
29年度分	うち個人分	27,151	13,112	4,683	18,163	3,704	3,747	7,839	78,399	92.2%	
	上記個人分の 今年度収納額	24,967	11,902	4,663	16,786	3,066	3,747	7,162	72,293		
28年度分	29年度末の 未収金額	2,345	1,350	199	2,207	1,930	0	197	8,228	29.3%	
	今年度収納額	914	319	20	755	401	0	0	2,409		
27年度分	29年度末の 未収金額	1,954	593	0	1,892	1,556	0	330	6,325	21.8%	
	今年度収納額	151	186	0	569	236	0	240	1,382		
26年度 以前分	29年度末の 未収金額	8,272	3,511	73	13,173	2,889	0	2,093	30,011	21.2%	
	今年度収納額	3,173	212	20	1,843	1,124	0	0	6,372		

  

44	<p>・機構本部と各病院の担当者が構成する経費削減のための事務連絡会議等を積極的に活用、診療材料の購入などの経費を中心にトータルコストを意識した経費（費用）の削減 医療材料費／医業収益比率（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>県立病院名</th> <th>H29 実績</th> <th>R1 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州医療センター</td> <td>25.1</td> <td>26.8</td> </tr> <tr> <td>こころの医療センター駒ヶ根</td> <td>5.9</td> <td>6.1</td> </tr> <tr> <td>阿南病院</td> <td>18.2</td> <td>16.6</td> </tr> <tr> <td>木曾病院</td> <td>25.8</td> <td>23.0</td> </tr> <tr> <td>こども病院</td> <td>20.6</td> <td>20.0</td> </tr> </tbody> </table>	県立病院名	H29 実績	R1 目標	信州医療センター	25.1	26.8	こころの医療センター駒ヶ根	5.9	6.1	阿南病院	18.2	16.6	木曾病院	25.8	23.0	こども病院	20.6	20.0	信 州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療材料と試薬について、単価契約や新規材料採用時の価格交渉ツールとしてMRPベンチマークシステムを活用し、約570万円の診療材料費削減となった。</li> <li>・医療機器の保守委託費を削減するため、一部の放射線機器の保守を保険契約に切り替え約100万円の経費削減を図った。</li> <li>・ジェネリックの採用を順次進め、令和元年度のジェネリック使用率は91.7%となった。</li> <li>・病院独自でも全国自治体病院協議会ベンチマーク事業のデータを活用し、医薬品単価の値引き交渉を随時行い、医薬品費の削減を図った。</li> </ul>
		県立病院名	H29 実績	R1 目標																		
		信州医療センター	25.1	26.8																		
		こころの医療センター駒ヶ根	5.9	6.1																		
		阿南病院	18.2	16.6																		
		木曾病院	25.8	23.0																		
		こども病院	20.6	20.0																		

	<p>・医薬品・診療材料の購入については、本部主導による各病院間での情報共有、取引業者の見直し、価格動向などの情報収集、交渉方法の研究等により経費の節減、ジェネリック医薬品の採用を積極的に推進</p> <p>ジェネリック医薬品使用割合（院内） （単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>県立病院名</th> <th>H29実績</th> <th>R1目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州医療センター</td> <td>86.8</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>阿南病院</td> <td>87.0</td> <td>85.0</td> </tr> <tr> <td>木曽病院</td> <td>80.7</td> <td>85.0</td> </tr> <tr> <td>こども病院</td> <td>82.2</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table>	県立病院名	H29実績	R1目標	信州医療センター	86.8	90.0	阿南病院	87.0	85.0	木曽病院	80.7	85.0	こども病院	82.2	80.0			
県立病院名	H29実績	R1目標																	
信州医療センター	86.8	90.0																	
阿南病院	87.0	85.0																	
木曽病院	80.7	85.0																	
こども病院	82.2	80.0																	
45	同上	駒ヶ根	A	<p>・ジェネリック医薬品への切り替えを進め、9月から後発医薬品使用体制加算1の算定を開始した。（ジェネリック医薬品使用割合元年度実績 88.5％）</p>															
46	同上	阿南	A	<p>・委託費の見直し、保守契約を年間契約からスポット契約や修繕での対応により経費削減を進め、医業収益対材料費率を目標に近づけた。</p> <p>・令和元年度には298品目をジェネリック医薬品に切り替え、11月に後発医薬品使用率が85％を超えたことより後発医薬品使用体制加算1の算定を取得した。さらに年度末には使用率は86.2％となった。</p>															

47	同上	木曾	<p>A</p> <p>・毎月開催される運営委員会において、各経費の前年度との比較増減の状況等、経理状況の報告を行い、職員の経費節減に対する意識向上を図った。</p> <p>医療材料費／医業収益比率（単位：％）</p> <table border="1" data-bbox="958 331 1637 432"> <thead> <tr> <th>県立病院名</th> <th>令和元年実績</th> <th>平成30年実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木曾病院</td> <td>22.2</td> <td>22.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>・メーカーからの供給停止等により、ジェネリックへの変更が不可能であったり、院内採用品を先発品に戻したりする事例があり、ジェネリック使用割合が減少したものと思われる。ジェネリックへの採用切り替えを推進するため、今後も検討を重ねていきたい。</p> <p>ジェネリック医薬品使用割合（院内）（単位：％）</p> <table border="1" data-bbox="958 624 1637 722"> <thead> <tr> <th>県立病院名</th> <th>令和元年実績</th> <th>平成30年実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木曾病院</td> <td>81.9</td> <td>82.4</td> </tr> </tbody> </table>	県立病院名	令和元年実績	平成30年実績	木曾病院	22.2	22.4	県立病院名	令和元年実績	平成30年実績	木曾病院	81.9	82.4
県立病院名	令和元年実績	平成30年実績													
木曾病院	22.2	22.4													
県立病院名	令和元年実績	平成30年実績													
木曾病院	81.9	82.4													
48	同上	こども	<p>A</p> <p>・委託料を削減するため、保険契約や仕様内容の変更を検討し既存契約分について令和元年度契約では約600万円（税抜）削減することができた。</p> <p>【医療材料費／医業収益比率】</p> <p>令和元年度実績：20.9％（平成30年度実績：21.3％）</p> <p>【ジェネリック医薬品使用割合（院内）】</p> <p>令和元年度実績：88.6％（平成30年度実績：86.5％）</p>												
49	同上	本部	<p>A</p> <p>・経費削減のための事務連絡会議を開催し、委託経費の見直しなど各病院の取組や情報交換を行った。</p> <p>県立病院間で情報を共有するとともに、取引業者の見直し、価格動向などの情報収集を行い、交渉方法の研究等により経費の節減を図った。</p> <p>また、医薬品担当者会議（7月、2月実施）を開催し、統一した医薬品システムの運用や本部一括契約状況等の報告を行った。</p>												

50	・本部・病院間で同一の医薬品在庫管理システムを導入し、単価契約の簡素化、在庫管理を機構全体で把握し、効率化を図る	本部		・本部・病院間医薬品在庫管理システムを4月に導入し、単価契約の簡素化、在庫管理を機構全体で把握し、効率化が図られた。
51	・高額な医療機器の選定に際しては、医療器械等審査部会で、仕様やスペックの妥当性や機種統一等の観点から検討（再） ・導入後の医療機器等については、計画に対する費用対効果が得られているか検証（再）	駒ヶ根	A	・参照（p.133-No.50）
52	同上	本部	A	・参照（p.146-No.9）
53	・各病院の施設設備については、長期的な修繕改良計画を定期的に見直し、計画的な予算編成と施設設備の長期利用	信州	A	・施設の修繕については、病院運営に支障をきたさないことを念頭に置き、優先度を考慮しながら立てた計画に基づきながら適切に行った。
54	同上	駒ヶ根	A	・落雷による空調設備制御装置の修理を行ったほか、バッテリーの期限到達、エアコン・給湯器・電気設備などの経年劣化に対し計画的な執行を進めた。
55	同上	阿南	A	・施設設備については、点検等により、不具合等を早期に把握して計画的修繕に努めている。元年度は「西館インバータ盤更新工事」「東館及び西館屋上の防水工事」を実施した。また、第3期中期計画の作成に併せ、修繕改良計画を見直した。
56	同上	木曾	A	・療養病棟のスプリンクラーの設置、リハビリ用外部スロープの改修工事を行ったほか、放射線監視システム及びRI排水設備、エネルギー棟貫流蒸気ボイラー、職員宿舎の量水器の更新工事を計画的に行った。
57	同上	こども	A	・修繕改良計画表に基づき、設備等の重要性も考慮した上で、年次計画に沿った部品等交換整備を行った。 ・予防保全を重点的に実施した結果、故障率が低下するなど設備の信頼性が高まった。

			(課題) ・経費のさらなる効率的執行を図るため、年次計画の適宜見直しや事業の取捨選択を徹底する。
58	・老朽化が進んだ医療機器及び施設設備について、診療機能を維持するために優先度を精査し、計画的に更新を実施（信州）	信州	A ・優先順位が高いものから順番に更新を計画のうえ、実施した。
59	・診療材料のベンチマーク分析データを活用したメーカー及び卸業者との価格交渉を継続し購入費用の削減を推進（信州）	信州	A ・7月、12月、1月に主要な卸業者及びメーカーの責任者との価格交渉を行い、経費削減に繋がった。
60	・医療器械購入費、診療材料費、経費、それぞれの見直しチームを設置、経費削減の取り組みを継続、経費削減意識の醸成を推進（信州）	信州	A ・経営企画課で経費削減の可能性が高いものについて、重点的に取り組み費用の圧縮に努めた。 ・診療材料の価格交渉についてはMRPベンチマークシステムを活用した価格交渉を実施して年間約570万円の診療材料費の削減をすることが出来た。 ・16列X線CTスキャナー装置とX線循環器撮影装置の医療機器の保守について、保険を活用した補償サービスを導入して約100万円の保守費用を削減することが出来た。
61	・職員宿舎の有効利用による経費削減（ここ駒）	駒ヶ根	A ・職員宿舎の空室を医学生の実習中の宿舎として利用し、医師等確保費の経費を削減した。
62	・光熱水費の執行状況の周知、省エネ対策の計画的な実施などによる経費の節減（阿南）	阿南	A ・電力デマンドコントローラーによる最大需要電力数値の監視強化及びこまめな空調管理を実施した。 ・全職員に対し院内通知による使用量削減の徹底を図った。
63	・消耗品について、購入方法を見直し、消耗品費の節減（木曽） ・材料費、経費について見直しを徹底（木曽）	木曽	A ・院内にリユース棚を設置し、不用物品の再利用と購入前にリユース品の利用を検討するよう呼びかけ、廃棄費用と消耗品費の抑制を図った。 ・物品を購入する際には「物品購入依頼書」を職員から提出してもらうこととし、職員に使用物品の価値の再考と重複発注や誤発注の防止を図った。

64	・エコーセンターを適切に運営、機器の保守や計画的な更新、経費の削減（こども）	こども	A	・エコーセンターで集中管理する機器について、更新計画に基づいた購入とスケールメリットを生かした保守契約を推進することによる経費削減を実施した。
65	・材料（医薬品・診療材料）を管理するSPDシステムを活用、より一層の費用削減（こども）	こども	A	・メーカー訪問を実施し、病院の経営改善について協力を求めた。 ・預託方式のメリットである細分化した材料の払出を推進し、費用削減に努めた。
66	ウ 内部監査の実施 監事及び会計監査人とも連携した上で、機構本部内のチームによる内部監査を実施	本部	A	・令和元年度内部監査計画に従い9月4日～10月10日に以下の3項目について実施した。 ・時間外労働の上限規制の遵守 ・年次有給休暇取得に向けた取組 ・労働時間の適正把握
67	エ 診療情報等の活用 県立病院間で統一性を持った、診療情報の分類・集計が可能になるような体制を整備 ・DPC（診断群分類包括評価）データを始めとする各種データを活用して診療内容や経営状況などの分析、データを活用した各種計画の策定や執行管理 ・県立病院の担う医療、各種データ、研究成果などを網羅した「機構年報」を発刊（本部）	本部	A	・各病院の収益増に対する取組みを毎月報告し、診療報酬の加算等の取得を促す仕組みを作ることが出来た。 ・1月に第4号の平成30年度「機構年報」を発行した。
68	・「信州メディカルネット」を活用した電子カルテの相互参照による情報の共有化を図るため、引き続き県内医療機関などとの間での診療体制の連携（再）	5病院	A	・参照（p.53-No.4～p.54-No.9）

69	・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」と日本病院会の「Q I プロジェクト（Q I 推進事業）」を継続（信州）（再）	信州	A	・参照（p.142-No.32）
70	・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」を継続（ここ駒、木曾、こども）（再）	駒ヶ根	A	・参照（p.142-No.33）
71	同上	木曾	A	・参照（p.142-No.34）
72	同上	こども	A	・参照（p.142-No.35）

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 3 経営改善の取組

#### (3) 情報発信と外部意見の反映

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

各病院等において、出前講座や病院祭の開催、病院だよりの発行等により積極的に地域へ情報発信を行うとともに、病院運営協議会等を開催し、地域の関係機関との連携を深め、地域の意見を病院等の運営に反映した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 3(3) 1	ア 情報発信 新聞、広報誌等の各種媒体を活用、各病院などの広報活動を積極的に実施、機構全体の認知度を向上させるための方策などについて組織横断的に検討、県立病院ブランドの向上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適時適正な新聞広告等を行った。</li> <li>・広報担当者会議を開催し各病院間の情報交換を実施。</li> <li>・機構主催による高騰研修会は開催できなかったが、県の広報研修会を案内するとともに、講演資料の情報共有を図った。</li> <li>・各病院の取組状況を平成30年度「機構年報」において公開。</li> </ul>
2	県立病院の担う医療、各種データ、研究成果などを網羅した「機構年報」を発刊（再）	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.175-No.67）</li> </ul>

3	<p>県立病院の取組みや健康情報を広く県民にお知らせをする「公開講座」及び「出前講座」を積極的に開催</p> <p>出前講座の主なメニュー</p> <table border="1" data-bbox="241 384 813 1327"> <tr> <td data-bbox="241 384 813 432">信州医療センター</td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 432 813 576">感染症、誤嚥性肺炎、一時救命処置（小児含む）、嚥下障害、病院・施設等の感染対策、高齢者の食生活などについて</td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 576 813 624">こころの医療センター駒ヶ根</td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 624 813 767">精神疾患患者の回復・支援、うつストレスケア、アルコール依存症、精神科薬等の正しい使い方などについて</td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 767 813 815">阿南病院</td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 815 813 959">ロコモティブシンドローム、子どもの足を鍛える、薬の正しい使い方、安全な食事、低栄養、認知症などについて</td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 959 813 1007">木曽病院</td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 1007 813 1150">感染症、糖尿病、認知症、看取り、腰痛等対策、生命誕生、森林セラピーについて、がん診療について</td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 1150 813 1198">こども病院</td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 1198 813 1327">食中毒、感染症、発達障がい、予防接種、児童虐待、アレルギー（食物、アトピーなど）、救急対応、目の病気、泌尿器、耳や鼻</td> </tr> </table>	信州医療センター	感染症、誤嚥性肺炎、一時救命処置（小児含む）、嚥下障害、病院・施設等の感染対策、高齢者の食生活などについて	こころの医療センター駒ヶ根	精神疾患患者の回復・支援、うつストレスケア、アルコール依存症、精神科薬等の正しい使い方などについて	阿南病院	ロコモティブシンドローム、子どもの足を鍛える、薬の正しい使い方、安全な食事、低栄養、認知症などについて	木曽病院	感染症、糖尿病、認知症、看取り、腰痛等対策、生命誕生、森林セラピーについて、がん診療について	こども病院	食中毒、感染症、発達障がい、予防接種、児童虐待、アレルギー（食物、アトピーなど）、救急対応、目の病気、泌尿器、耳や鼻	信州	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>以下の公開講座を開催した。       <ul style="list-style-type: none"> <li>5月25日第2回市民公開講座</li> <li>共催：須高医師会 後援：須坂市、小布施町、高山村</li> <li>テーマ「あなたの肺は大丈夫ですか？気になる肺の病気あれこれ」</li> <li>須坂市メセナホール小ホール</li> <li>呼吸器・感染症内科部長 山崎善隆医師 呼吸器外科部長 坂口幸治医師（参加者197人）</li> </ul> </li> <li>出前講座を55回開催2,779人が聴講した。（平成30年度 53件 3,188人）</li> </ul> <p>主なテーマは以下のとおり</p> <p>筋力を低下させないために、接触嚥下障害について、高齢者の呼吸器疾患、肺炎について、結核について、感染対策について、一次救命処置、家庭でできる応急手当（小児）、高齢者の食生活について、オムツ（スキントラブル）交換について、糖尿病の食事療法について、性教育について、大腸がんについて、クローン病について、めぎせ！ピンピンコロリ、家庭でできる褥瘡予防と初期対応について、健康に役立つ漢方の知識、発達障害について、治療食調理実習、正しい薬の飲み方 食事と薬、健康に過ごすための食生活について、エピペン使用方法、変形性股関節症のリハビリについて、事故防止KYT研修、中・高生と赤ちゃんのふれあい、訪問看護のお話、認知症のお話、看護のしごと。</p>
信州医療センター													
感染症、誤嚥性肺炎、一時救命処置（小児含む）、嚥下障害、病院・施設等の感染対策、高齢者の食生活などについて													
こころの医療センター駒ヶ根													
精神疾患患者の回復・支援、うつストレスケア、アルコール依存症、精神科薬等の正しい使い方などについて													
阿南病院													
ロコモティブシンドローム、子どもの足を鍛える、薬の正しい使い方、安全な食事、低栄養、認知症などについて													
木曽病院													
感染症、糖尿病、認知症、看取り、腰痛等対策、生命誕生、森林セラピーについて、がん診療について													
こども病院													
食中毒、感染症、発達障がい、予防接種、児童虐待、アレルギー（食物、アトピーなど）、救急対応、目の病気、泌尿器、耳や鼻													

	の病気、言葉の遅れ、形成外科的疾患（胸の変形、口唇口蓋裂）などについて			
4	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.117-No.12）</li> <li>・参照（p.62-No.19）</li> </ul>
5	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院職員が講師となり出前講座を実施し、住民の意識向上に資することができた。（内容）</li> <li>4/23「認知症の方を理解する」79名</li> <li>10/17「認知症サポーター養成講座」15名</li> <li>11/22「低栄養を防ぐための食事について」30名</li> <li>2/4「低栄養予防のために」15名</li> <li>3/16「薬との正しい付き合い方」60名</li> </ul>
6	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院スタッフが講師となり、治療、運動、薬物療法、検査、日常生活、食事会と幅広い内容の糖尿病教室を7月から12月にかけて計6回開催し、延べ75人の参加者があった。そのうち7月は地域住民も対象とした糖尿病に関する一般公開講座（病院機構第2回公開講座）を行い、住民の健康に対する意識向上を図った（参加者18人）</li> <li>・病院祭に合わせて、地域医療に関する一般公開講座を開催し、60人の参加があった。</li> <li>・出前講座を行った。主なテーマは以下のとおり。 （▽病院薬剤管理▽病院薬剤師の役割▽自殺・企図者支援について▽移乗・移送について▽腰痛予防▽筋力とバランスの維持▽歯あわせ健康・口腔体操▽性教育）</li> <li>・参照（p.117-No.14）</li> </ul>
7	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院祭は、台風19号の影響により中止となった。</li> <li>・公開講座の開催案内のホームページへの掲載</li> <li>・9月7日「アレルギー対応食クッキング」栄養科：松本市エムウィング</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月8日に公開講座「口唇裂・口蓋裂のはなし」口唇口蓋裂センター：上田市創造館</li> <li>・12月14日に公開講座「さあ、風疹を止めよう！」予防接種センター：こども病院</li> <li>・病院の医学指標を機構本部のホームページで、また各診療科での診療実績や手術成績についてこども病院のホームページで公開している</li> </ul>										
8	<p>地域に県立病院をアピールするため、地域に開かれた病院祭や講演会等を開催</p> <p>病院祭開催計画</p> <table border="1"> <tr> <td>信州医療センター</td> <td>10月</td> </tr> <tr> <td>こころの医療センター駒ヶ根</td> <td>10月</td> </tr> <tr> <td>阿南病院</td> <td>10月</td> </tr> <tr> <td>木曽病院</td> <td>11月</td> </tr> <tr> <td>こども病院</td> <td>10月</td> </tr> </table>	信州医療センター	10月	こころの医療センター駒ヶ根	10月	阿南病院	10月	木曽病院	11月	こども病院	10月	信州	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月15日に「令和へつながる新たな時代 皆で支える地域医療」をテーマに病院祭を開催した。(来場者約2,500人)</li> <li>・病院祭では、「リビング・ウィルとアドバンス・ケア・プランニング」をテーマに、当院副院長上沢修医師を講師とした医療講演会を開催した。</li> </ul>
信州医療センター	10月												
こころの医療センター駒ヶ根	10月												
阿南病院	10月												
木曽病院	11月												
こども病院	10月												
9	同上	駒ヶ根	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月に病院祭を開催し、各種イベント、体験を通して地域の方に当院の医療を知ってもらう機会となった。(来場者数 約250人)</li> <li>・児童精神医療をテーマとした公開講座「子どもの生きる力を高めるために」を開催した。(聴講者 約50人)</li> </ul>										
10	同上	阿南	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月の病院祭ではメインテーマを『地域のみなさんの健康と笑顔の架け橋に…』として、地域の皆様に情報発信を行った。(来場者約300人)</li> <li>・病院祭では下伊那南部保健医療協議会と共催で信州大学医学部附属病院 医師 岡田まゆみ氏を講師に迎え、公開講座を実施した。</li> </ul>										
11	同上	木曽	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月に前出病院として南木曽町での地域イベントに参加し、各種相談や計測を始め病院のPRを行った。</li> <li>・11月に病院祭を開催し、病院の取組みや役割に関する情報発信を行った(来場者約延1,000人)。また、出店販売や中央ホールイベントへの参加、パンフレット協賛等で地域</li> </ul>										

				の方々にも積極的に関わってもらおうなど、地域へのアピールに繋がる活動ができた。
12	同上	こ ど も	A	・参照 (p.179-No.7)
13	広報誌を須高地域に全戸配布、須坂市報への当院の情報掲載、須高ケーブルテレビへの休診情報等を掲載 (信州) (再)	信 州	A	・参照 (p.142-No.36)
14	産科の分娩数増加を図るため、これから妊娠・出産を迎える若い女性に向け、ホームページ、ブログ、SNS を併用した当院の特色や魅力、旬な情報の発信 (信州)	信 州	A	・ホームページや広報誌、雑誌等様々な広報媒体を活用し、積極的な広報活動を行った。 ・産科医療の充実について広く周知するためママ向け雑誌への情報掲載、SNSを活用した情報発信など、ターゲットを絞った広報活動を行った。
15	当院の取組みや健康情報を発信するため、地域のニーズに沿ったテーマでの公開講座を年2回開催 (信州)	信 州	A	・地域への貢献及び医療や病気への正しい理解を目的とした第2回市民公開講座を開催。 ・内容は、前回の参加者へのアンケートから要望が多かった「肺疾患」とし、以下のとおり開催した。 開催日：5月25日 (土) 共催：須高医師会 後援：須坂市、小布施町、高山村 テーマ：「あなたの肺は大丈夫ですか？気になる肺の病気あれこれ」 場所：須坂市メセナホール小ホール 講師：呼吸器・感染症内科部長 山崎善隆医師 呼吸器外科部長 坂口幸治医師 参加者：197人
16	地域の病院である当院の理解を深めてもらうため、「親子病院見学会」を開催 (信州)	信 州	A	・11月30日 (土) に開催し、親子等18名が参加。
17	全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」と日本病院会の「Q I プロジェクト (Q I 推進事業)」を継続 (信	信 州	A	・参照 (p.142-No.32)

	州) (再)			
18	全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」を継続 (こころの医療センター駒ヶ根、木曽病院、こども病院) (再)	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国自治体病院協議会主催の「医療の質の評価・公表等推進事業」に継続して参加し、データを提出した。</li> <li>・「医療の質の評価・公表等推進事業」で得たデータについて、運営会議等を通じて院内へフィードバックを行った。</li> </ul>
19	「須高地区手をつなごう会」の開催を継続 (信州)	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・須高医師会、須高歯科医師会、須高薬剤師会等と組織する「第4回須高地区手をつなごう会」を11月に開催し、台風被害の影響が残る中、参加者は71名に上った。当院渡邊医師による講演「腰椎疾患の診断と治療」を行うとともに、介護ロボットHALの紹介し参加者が体験した。</li> </ul>
20	産科医療の充実、内視鏡センター及び健康管理センターの強化等について、地域への積極的な広報活動の実施 (信州)	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページや広報誌、雑誌等様々な広報媒体を活用し、積極的な広報活動を行った。</li> <li>・産科医療の充実について広く周知するためママ向け雑誌への情報掲載、SNSを活用した情報発信など、ターゲットを絞った広報活動を行った。</li> </ul>
21	病院だより (ここ駒通信) を下平地区に全戸配布、地元住民を対象とした広報を実施、当院の医療機能について周知 (ここ駒)	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院外広報誌「ここ駒通信」の隣組回覧の範囲を駒ヶ根市から伊南地区にまで広げたほか、県庁や伊那合庁、駒ヶ根市内の公共施設などに配置した。</li> </ul>
22	関係機関との連携を深めるための「結の会」との交流会などを継続、地域における連携を一層強化、病院だよりの発行により地域住民への情報発信 (阿南) 診療案内を作成し、関係医療機関へPRし、医療機器の活用につなげる。(阿南) (再)	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月の病院内環境美化活動 (草取り等)、7月の暑気払い、12月の忘年会の実施を通じ「結の会」との交流を図り、その際、病院に対する意見交換を行った。</li> <li>・病院だより「地域とともに」を発行し地域住民への情報発信に努めた。</li> </ul>
23	病院だよりやホームページ、また、木曽広域のCATV及び文字放送を利用することにより、地域住民への情報発信 (木曽)	木曽	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.141-No.29)</li> <li>・木曽広域のCATVにて休診案内やお知らせの放映を行った。</li> </ul>

24	コラボレーション寄付など寄付プログラムを進め、当院を支援するサポータークラブの輪を広げる取組みを実施、ホームページ、ニュースレター、マスコミなど様々な媒体を通じ、当院の情報を発信。また、病院を支えるボランティア団体との交流会を開催、地域支援者と病院の協力体制の充実（こども）	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き寄附プログラムを推進し、当院の情報を発信している。</li> <li>・ボランティアの登録数 団体登録 6団体、個人登録 52名。多い月で108名、月平均にして72名のボランティアの方に活動いただいた。また、令和元年度のボランティア交流会は新型コロナウイルス対策のため中止とした。</li> </ul>
25	イ 病院運営に関する地域の意見の反映 各病院において、市町村、地域住民の代表、病院支援団体及び保健・医療・福祉機関等が参加する病院運営協議会等を開催、積極的に地域意見を反映	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州医療センター運営協議会を2回（7月23日（火）、2月4日（火））実施し、当院の業務実績、運営動向、経営状況、「須坂モデル」の取組、新型コロナウイルス感染症等について説明し、委員各位との活発な意見交換が行われた。</li> </ul>
26	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月に地元市町村、地域の患者家族会、精神科医療関係団体の代表等が参加する運営協議会を開催し、第2期中期計画の業務実績見込と第3期中期計画案を示して当院の構想や課題について意見交換を行った。</li> </ul>
27	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政、診療所医師及び保健師などで構成される下伊那南部保健医療協議会は7月の総会を開催し、積極的な情報・意見交換を行った。</li> </ul>
28	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院運営協議会を7月に開催し、病院の運営状況及び課題を報告するとともに、介護老人保健施設の食費負担額の引き上げについて意見を聴取し、賛同が得られたため、10月から1日220円の引き上げを行った。</li> <li>・病院モニター会議を6月20日及び12月23日に開催し、病院見学、運営状況の報告及び第3期中期計画素案の説明等を行い、意見交換を行った。</li> </ul>
29	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども病院運営協議会を7月26日及び12月、3月10日を予定したが、3月10日は新型コロナウイルス対策のため延期とした。多方面の委員から貴重なご意見をいただいた。</li> </ul>

30	病院モニターなどからの意見や、患者家族と病院管理者との懇談会等の様々な提言などを病院運営に活用	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内に設置した意見箱に寄せられた患者等からの意見について、各部署からの回答案をもとに委員会において対応を検討。寄せられた意見は、毎月運営会議にて院内全体に周知するとともに、南棟1階総合窓口前掲示板に回答を掲示。</li> <li>・昨年度に比べ感謝、要望、苦情ともに減少した一方で、病院ホームページからアクセスする「問い合わせフォーム」からの問い合わせは増加した。 (令和元年度：感謝154件(△32)、要望59件(△20)、苦情114件(△46)、メール問い合わせ38件(+10))</li> </ul>
31	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者家族相談窓口により迅速な相談対応を行った。(令和元年度20件、平成30年度11件)</li> <li>・院内に設置した意見箱への投書に迅速に対応した。(令和元年度171件、平成30年度132件)</li> </ul>
32	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当院では、環境美化活動に参加している地域ボランティアの者の意見など、機会を捉えて地域住民からの意見等の聴取を行った。</li> </ul>
33	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内設置の意見箱により、来医院者からの意見を24通いただき、管理者会議等で検討の上、公開を希望しないものを除き、掲示板に回答を掲載した。(P142-No.24)</li> </ul>
34	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来・入院患者を対象とした「提案箱」を院内8か所に設置し、提案内容については、該当部署及び病院管理者で検討の上、回答を院内に掲示するとともに病院運営に反映させている。</li> </ul>

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 3 経営改善の取組

#### (4) 病床利用率の向上

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

各病院における、ベッドコントロール会議の取組みにより効率的な病床管理を行ったが、病床利用率は計画に満たなかった。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績					
		病院	評定	取組結果及び取組の効果			
第2 3(4) 1	効率的・弾力的な病床管理を徹底 ・役職者を対象とした運営会議により、経営状況の全職員への周知と方向性の徹底（信州） ・ベッドコントロール会議を毎日開催、多職種で病棟の効率的な運用等に関わる情報の共有を目的に拡大ベッドコントロール会議を週1回程度開催（信州）	信州	B	○概要 ・信州医療センターでは、拡大ベッドコントロール会議等の取組みにより効率的な病床管理を行った結果、年度計画の目標値を上回り、昨年度比で病床利用率の向上が図られた。 ・引き続き効率的・弾力的な病床管理を徹底し、病床利用率の向上を図る。 ・紹介患者や新入院患者の増加のため、院長や地域医療福祉連携室の職員による地域の診療所や介護福祉施設等への訪問を継続し、地域連携の強化に努めた。 ○病床利用率の実績 <span style="float: right;">（単位：％）</span>			
				<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>区分</td> <td>令和元年度実績</td> <td>平成30年度実績</td> </tr> </table>	区分	令和元年度実績	平成30年度実績
区分	令和元年度実績	平成30年度実績					

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟全体でベッドコントロールを行い、保護室・観察室の空床を確保、救急患者の入院体制を整備（ここ駒）</li> </ul>			<table border="1"> <tr> <td>信州医療センター</td> <td>79.9</td> <td>81.2</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州：運用病床数に基づき算出（H26.8月から226床、H30.12月から215床）</li> <li>※結核病床(24)、感染症病床(4)、地域包括ケア病棟(49)は除く。</li> </ul>	信州医療センター	79.9	81.2			
信州医療センター	79.9	81.2								
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携室において、入院時期の調整（ここ駒）</li> <li>・時間外救急患者の入院及び中等度疾患の入院治療を促進（阿南）</li> </ul>	駒ヶ根	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○病床利用率の実績（単位：％）</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころの医療センター駒ヶ根</td> <td>78.1</td> <td>78.5</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駒ヶ根：H23.1から新病棟129床に基づき算出</li> </ul>	区分	令和元年度実績	平成30年度実績	こころの医療センター駒ヶ根	78.1	78.5
区分	令和元年度実績	平成30年度実績								
こころの医療センター駒ヶ根	78.1	78.5								
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病床数見直しについて、公的病院ガイドラインの病床利用率70%以上達成に向け取り組むとともに、病院運営検討委員会において地域の医療事情や病棟の運用も含めた方向性の決定・実施（阿南）</li> <li>・リハビリを必要とする患者への短期集中的なリハビリテーション入院の受け入れ及びリハビリクリニカルパスの策定（阿南）（再）</li> <li>・他院からの回復期患者や胃瘻交換等施設からの短期入院患者の受け入れを促進（阿南）</li> </ul>	阿南	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病床数見直しについて、公的病院ガイドラインの病床利用率70%以上達成に向け取り組むとともに、病院運営検討委員会で検討し、地域の医療事情や病棟の運用等を加味し、地域包括ケア病床の実施の方向性を探った。</li> <li>・新たな患者の獲得に向けてリハビリクリニカルパスの導入や施設入所の定期的な検査、入院等の取組の検討を進めた。</li> <li>○病床利用率の実績（単位：％）</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阿南病院</td> <td>57.4</td> <td>60.4</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・阿南病院：運用病床数に基づき算出（H25.6から85床、H31.1月から77床）</li> </ul>	区分	令和元年度実績	平成30年度実績	阿南病院	57.4	60.4
区分	令和元年度実績	平成30年度実績								
阿南病院	57.4	60.4								
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連施設との連携による入所者等の定例化した短期検査入院の積極的な受け入れ(阿南)（再）</li> <li>・ベッドコントロール会議を定期的に開催し効率的なベッドコントロールを実施（木曽）</li> <li>・岐阜県内の医療機関の再編の動きを踏まえ、木曽南部地域の患者獲得に向けた広報等</li> </ul>	木曽	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○概要</li> <li>・ベッドコントロール会議による病床利用率の向上と適切な病棟運営を図った。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木曽病院</td> <td>69.4</td> <td>78.1</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>木曽病院：運用病床数に基づき算出（平成30年4月から159床）</li> <li>平成31年4月から令和2年2月 159床</li> <li>令和2年3月から151床</li> <li>・病床利用の現状に合わせて病床規模を見直し、3月1日に許可病床数を239床から199床へと変更した。</li> </ul>	区分	令和元年度実績	平成30年度実績	木曽病院	69.4	78.1
区分	令和元年度実績	平成30年度実績								
木曽病院	69.4	78.1								

5	<p>を積極的に展開、退院調整等院内の一層の連携強化、病床利用率の向上（木曽）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療部と看護部の連携による効率的なベッドコントロールを実施（こども）</li> </ul> <p>病床利用率の目標（単位：％）</p> <table border="1" data-bbox="235 480 817 826"> <thead> <tr> <th>県立病院名</th> <th>H29 実績</th> <th>R1 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州医療センター</td> <td>79.3</td> <td>83.8</td> </tr> <tr> <td>こころの医療センター駒ヶ根</td> <td>79.2</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>阿南病院</td> <td>63.7</td> <td>70.0</td> </tr> <tr> <td>木曽病院</td> <td>64.3</td> <td>78.6</td> </tr> <tr> <td>こども病院</td> <td>74.5</td> <td>77.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>（注1）信州医療センターは、運用病床（平成26年8月から226床、平成30年12月から215床）での利用率 ※地域包括ケア病床（46床（平成31年1月から49床）、結核病床（24床）及び感染症病床（4床）は除く</p> <p>（注2）阿南病院は、運用病床（平成30年12月まで85床、平成31年1月から77床）での利用率</p>	県立病院名	H29 実績	R1 目標	信州医療センター	79.3	83.8	こころの医療センター駒ヶ根	79.2	80.0	阿南病院	63.7	70.0	木曽病院	64.3	78.6	こども病院	74.5	77.5	こども	<p>B</p> <p>○概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・副看護部長を責任者として、看護師長と毎日ベッドコントロール会議を行い有効な病床稼働が実施できた。</li> <li>・令和元年度は、インフルエンザなどによる病棟閉鎖や手術件数の抑制などがあったことなどから、入院患者数の低下・予定手術の削減などがあり、病床利用率の低下がみられた。</li> </ul> <p>○病床利用率の実績（単位：％）</p> <table border="1" data-bbox="952 520 2060 619"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度実績</th> <th>平成30年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども病院</td> <td>73.1</td> <td>78.0</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども病院：運用病床数に基づき算出（H25.10から180床）</li> </ul>	区分	令和元年度実績	平成30年度実績	こども病院	73.1	78.0
県立病院名	H29 実績	R1 目標																									
信州医療センター	79.3	83.8																									
こころの医療センター駒ヶ根	79.2	80.0																									
阿南病院	63.7	70.0																									
木曽病院	64.3	78.6																									
こども病院	74.5	77.5																									
区分	令和元年度実績	平成30年度実績																									
こども病院	73.1	78.0																									

	(注3) 木曽病院は、運用病床（平成29年度は186床、平成31年度は159床）での利用率			
	(注4) こども病院は、運用病床（平成25年10月から180床）での利用率			

### 第3 財務内容の改善に関する事項

#### 1 経常黒字の維持

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

- ・経常費用に対する経常収益で表す経常収支比率は、平成30年度実績の101.8%と比べ、99.4%と2.4%のマイナスとなった。
- ・令和元年度は、年間を通じて入院患者の落ち込みが大きかったことに加え、1月以降は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響が相当大きく、すべての病院で入院患者が落ち込み、対前年95%（△12,372人）となった。

令和元年度決算における病院別では、こころの医療センター駒ヶ根はデイケア患者等が増加したことから計画を上回る収益を上げることができたが、黒字を確保するには至らなかった。それ以外の4病院は黒字を確保することは出来たが、計画に対して阿南病院ではマイナス1億円、こども病院ではマイナス5千万円の経常損益となったところである。

収益確保と経費削減に何とか努力したが、令和元年度の決算は148百万円の損失となった。

- ・また、中期計画の目標である「経常収支比率100%以上の維持」については、平成30年度には大幅な改善が図られたものの、中期目標期間の最終年度である令和元年度の決算が影響し、累計でマイナス76百万円の経常損益となった。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第3 1 1	・令和元年度予算	法人全体	B	令和元年度決算等

(税抜、単位：千円)

科 目	令和元年度計画
経常収益 (ア)	23,720,414
医業収益	17,351,524
うち入院収益	12,539,676
うち外来収益	4,345,946
うち公衆衛生活動収益等	350,240
介護老人保健施設収益	378,532
看護師養成所収益	20,397
運営費負担金収益	5,480,000
その他経常収益	489,961
経常費用 (イ)	23,702,958
医業費用	21,766,264
うち給与費	12,575,997
うち材料費	3,848,655
うち減価償却費	1,948,637
うち経費	3,313,770
介護老人保健施設費用	439,826
看護師養成所費用	145,043
一般管理費	337,439
財務費用 (支払利息)	363,281
その他経常費用	651,105
経常損益 (ア-イ)	17,456
臨時損益 (ウ)	▲ 320
当期純損益(ア-イ+ウ)	17,136

(税抜、単位：千円)

科 目	令和元年度	平成30年度	令和元年度計画	増減(元-30)	増減(元-計画)
経常収益 (ア)	23,862,966	23,763,042	23,720,414	99,923	142,552
医業収益	17,401,578	17,303,748	17,351,524	97,830	50,054
うち入院収益	12,402,744	12,481,914	12,539,676	▲ 79,170	▲ 136,932
うち外来収益	4,523,529	4,352,810	4,345,946	170,719	177,583
うち公衆衛生活動収益等	373,135	362,252	350,240	10,883	22,895
介護老人保健施設収益	355,078	361,728	378,532	▲ 6,650	▲ 23,454
看護師養成所収益	19,098	18,846	20,397	252	▲ 1,299
運営費負担金収益	5,480,000	5,480,000	5,480,000	0	0
その他経常収益	607,212	598,720	489,961	8,491	117,251
経常費用 (イ)	24,006,064	23,345,675	23,702,958	660,389	303,106
医業費用	22,034,396	21,458,844	21,766,264	575,552	268,132
うち給与費	12,678,647	12,449,220	12,575,997	229,427	102,650
うち材料費	4,036,619	3,817,198	3,848,655	219,421	187,964
うち減価償却費	1,941,139	1,944,244	1,948,637	▲ 3,104	▲ 7,498
うち経費	3,314,198	3,182,899	3,313,770	131,299	428
介護老人保健施設費用	443,952	424,040	439,826	19,912	4,126
看護師養成所費用	151,977	154,907	145,043	▲ 2,930	6,934
一般管理費	340,197	319,787	337,439	20,411	2,758
財務費用 (支払利息)	356,111	404,026	363,281	▲ 47,914	▲ 7,170
その他経常費用	679,430	584,072	651,105	95,359	28,325
経常損益 (ア-イ)	▲ 143,098	417,367	17,456	▲ 560,465	▲ 160,554
臨時損益 (ウ)	▲ 4,841	▲ 612	▲ 320	▲ 4,229	▲ 4,521
当期純損益(ア-イ+ウ)	▲ 147,940	416,755	17,136	▲ 564,694	▲ 165,076

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

・ 報告書p.27「経常収支比率（病院機構全体）」再掲

指標：経常収支比率（病院機構全体）

達成目標：経常収支比率100%以上の維持

（単位：百万円、%）

病 院	区 分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	合計
経常収益	計 画	23,320	23,192	23,540	23,453	23,720	117,225
	実 績	23,222	23,095	23,201	23,763	23,863	117,143
経常費用	計 画	22,910	23,180	23,508	23,432	23,703	116,733
	実 績	23,185	23,358	23,324	23,346	24,006	117,220
経常損益	計 画	410	12	32	21	17	492
	実 績	37	△ 263	△ 123	417	△ 143	△ 76
経常収支比率	計 画	101.8	103.2	100.1	100.1	100.1	100.4
	実 績	100.2	98.9	99.5	101.8	99.4	99.9

※経常収支比率の計画値は、各年度の予算の数値

※係数は、端数をそれぞれ四捨五入しており、内訳と合計が一致しない箇所がある。

### 第3 財務内容の改善に関する事項

#### 2 資金収支の均衡

〔自己評定〕 C

〔自己評定の理由〕

- ・資金収支については、平成30年度実績ではマイナス237百万円であったが、令和元年度の計画マイナス65百万円に対してマイナス835百万円となり、大幅なマイナスとなった。
- ・資金収支の均衡に関しては、累計で計画42百万円に対して、マイナス1,752百万円となったことから、未達成となっている。
- ・今後の第3期中期目標期間においても、引き続き、計画的な収益確保、経費削減などに努める必要がある。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績	
		病院	評定
			取組結果及び取組の効果

第3 2 1	・中期計画における資金計画（平成27年度～平成31年度） （単位：百万円）		法人 全体 C	・報告書p.27「資金収支」再掲 指標：資金収支 達成目標：資金収支の均衡  （単位：百万円）																																																									
	区 分	金 額																																																											
	資金収入(ア)	125,340																																																											
	業務活動による収入	117,030																																																											
	投資活動による収入	25																																																											
	財務活動による収入	7,619																																																											
	前期中期目標期間からの繰越金(イ)	666																																																											
	当期資金収入(ウ)：(ア)-(イ)	124,674																																																											
	資金支出(エ)	125,340																																																											
	業務活動による支出	103,812																																																											
	投資活動による支出	7,914																																																											
	財務活動による支出	12,907																																																											
次期中期目標期間への繰越金(オ)	708																																																												
当期資金支出(カ)：(エ)-(オ)	124,632																																																												
当期資金収支(ク)-(カ)	42																																																												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区 分</th> <th>H27年度</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">現金収入</td> <td>計 画</td> <td>24,492</td> <td>25,961</td> <td>24,479</td> <td>25,228</td> <td>24,514</td> <td>124,674</td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>23,996</td> <td>25,267</td> <td>24,428</td> <td>25,159</td> <td>24,719</td> <td>123,568</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">現金支出</td> <td>計 画</td> <td>24,224</td> <td>26,030</td> <td>24,297</td> <td>25,501</td> <td>24,579</td> <td>124,632</td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>23,907</td> <td>25,690</td> <td>24,774</td> <td>25,396</td> <td>25,554</td> <td>125,320</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">資金収支</td> <td>計 画</td> <td>268</td> <td>△ 69</td> <td>182</td> <td>△ 273</td> <td>△ 65</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>89</td> <td>△ 423</td> <td>△ 346</td> <td>△ 237</td> <td>△ 835</td> <td>△ 1,752</td> </tr> </tbody> </table>							区 分		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	合計	現金収入	計 画	24,492	25,961	24,479	25,228	24,514	124,674	実 績	23,996	25,267	24,428	25,159	24,719	123,568	現金支出	計 画	24,224	26,030	24,297	25,501	24,579	124,632	実 績	23,907	25,690	24,774	25,396	25,554	125,320	資金収支	計 画	268	△ 69	182	△ 273	△ 65	42	実 績	89	△ 423	△ 346	△ 237	△ 835	△ 1,752
区 分		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	合計																																																						
現金収入	計 画	24,492	25,961	24,479	25,228	24,514	124,674																																																						
	実 績	23,996	25,267	24,428	25,159	24,719	123,568																																																						
現金支出	計 画	24,224	26,030	24,297	25,501	24,579	124,632																																																						
	実 績	23,907	25,690	24,774	25,396	25,554	125,320																																																						
資金収支	計 画	268	△ 69	182	△ 273	△ 65	42																																																						
	実 績	89	△ 423	△ 346	△ 237	△ 835	△ 1,752																																																						
		※資金収支の計画値は、中期計画策定時の数値																																																											
		※係数は、端数をそれぞれ四捨五入しており、内訳と合計が一致しない箇所がある。																																																											